

報告書

多摩の学生まちづくりコンペティション2017

選考会

2017年9月9日（土）

会場 明星大学 日野キャンパス

本選

2017年12月16日（土）

会場 国営昭和記念公園花みどり文化センター

はじめに

多摩地域には持ち前の豊かな自然環境、芸術・文化に加え、多数の高等教育機関、研究開発企業が集積し、ハード・ソフト両面で多様な資源を有しています。しかし、近年では都心回帰の動向もあり、多摩地域全体を見据えた魅力づくりを検討すべき段階にきています。

中心市街地の商店街の衰退、生活圏の広域化、高齢社会の進展—全国各地域が直面している地域の課題が多摩地域においても顕在化してきています。それは、この地域が首都圏の中で“課題最先端地域”であることを意味しています。

「多摩の学生まちづくりコンペティション」では、若者の視点や感性を活かした、今ある多摩地域の魅力を発信できる企画や、今までにない多摩地域の新たな価値を創造して、多摩地域が抱える課題を克服することで、未来に活力を与えることができる「実践的」試みや提案を募集してきました。

学生にとっては、フィールドワークを実践し、実学としてまちづくりを考えるとともに、行政や事業者の前で自らの研究成果を広く発表する機会になっています。

住みやすく、活力あふれる多摩の姿を実践的に描いたプランが数々発表されたことに日ごろの学生の活動、指導されている教員の皆様のご活躍の賜物です。このコンペティションを末永く育てていただくと同時に貴重な学生の発表の場になったことを喜ばしく思います。

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩

目次

はじめに.....	2
第1章 実施要領	5
第2章 選考会	9
審査委員.....	10
第1審査会場 まちづくり第1部門 スポーツ・観光・文化.....	11
第2審査会場 まちづくり第2部門 教育・子育て・福祉.....	22
第3審査会場 ものづくり第1部門 機械・ロボット・ソフト ものづくり第2部門 農業・建築・景観.....	32
第3章 本選	39
出場団体/審査委員.....	40
開会挨拶/会場市挨拶/審査委員長挨拶.....	41
第4章 本選・プレゼンテーション概要	45
最優秀賞	
創価大学 経営学部・安田ゼミ teamACT 「記憶をずっと、笑顔をもっと」.....	46
優秀賞	
東京経済大学 山本聡ゼミナール、御朱印班 「村山×寺×御朱印」.....	58
電気通信大学 西野ゼミ 「コミュニケーションロボットの開発を通じた地域活性化」.....	70
奨励賞	
実践女子大学 チームトリプルC 「持続可能なコミュニティカフェの展開」.....	76
東京経済大学 山本ゼミ、東大和市班 「ひがしやまとの食の今昔物語」.....	86
中央大学 FLP地域・公共マネジメントプログラム 細野ゼミナール 「立川をより魅力的にするためにららぼーと立川立飛がとるべき戦略」.....	98

第1章

実施要領

多摩の学生まちづくりコンペティション2017

実施要領

目的

私達が暮らすこの多摩地域は、恵まれた自然に加えて、多くの高等教育機関や研究開発企業が集まり、多摩地域全体を豊かにしています。一方で、近年に見られる都心回帰の影響や商店街の衰退、そして高齢化の加速といった課題が残されています。

今、こうした難題と向き合っていく若者を求めています。学生の視点や感性を活かして、多摩地域の魅力を企画発信し、これまでにない多摩地域の新しい価値を創造して未来に活力を与えることができる「実践的」な企画提案を募集いたします。

学生の皆さんが、まちづくり・ものづくりの手法を学んで成長し、紡ぎだした新しいアイデアで多摩地域全体を「元気」にすること。これが、このコンペディションの最大の狙いです。

本コンペディションでは、課題克服に寄与できることは重要ポイントですが、机上のプランから抜け出してフィールドワークの成果をどのように活かしていくか、「多摩のまちづくり、ものづくり」の新しい挑戦に期待します。

開催日

説明会	2017年 5月20日（土）10：00～12：00
選考会	2017年 9月9日（土）9：00～13：00
本選	2017年12月16日（土）13：00～17：00

説明会会場	明星大学 日野キャンパス32号館2階206教室（日野市程久保2-1-1）
選考会会場	明星大学 日野キャンパス23号館（日野市程久保2-1-1）
	開会式 9：00～9：20 プレゼン9：30～13：00
	審査会 13：00～14：00
本選会場	国営昭和記念公園・花みどり文化センター（東京都立川市緑町3173）
	発表13：00～17：00

エントリーカテゴリー

まちづくり第1部門	スポーツ・観光・文化
まちづくり第2部門	教育・子育て・福祉
ものづくり第1部門	機械・ロボット・ソフト
ものづくり第2部門	農業・建築・景観

発表・審査について

選考会は発表時間10分、本選は15分、それぞれ質疑応答5分、質疑応答10分。学生の提案内容や活動内容を審査し、上位5～6団体が本選へ進む。9月13日（水）までにネットワーク多摩ホームページにて選考会結果発表を行う。

審査の配点（選考会・本選）

- ① オリジナリティ 10点
 - ② 現状分析 10点
 - ③ 論理的な企画力 10点
 - ④ 効果の見通し 10点
 - ⑤ プレゼン力 10点
- 計50点

団体への注意と連絡事項

- ・使用データを、9月4日（月）正午までに事務局（office@nw-tama.jp）に提出。
- ・データは、各団体代表者が予備のUSBメモリーに保存の上、持参すること。
- ・原則、大学担当教員指導の元で活動を行うこと。
- ・プレゼンで使用するファイルの形式は、Microsoft PowerPoint(16: 9)を使用すること。
※会場施設によってファイル形式を（4：3）へ変更する場合があります。
- ・発表では事務局が用意するパソコン（Windows 7）を使用します。
- ・期日後や当日のデータの差し替えは、原則不可。
- ・データ提出後の修正や誤り等については、発表のなかで行うこと。
- ・実施報告書作成に伴い、本選出場団体は原稿となる報告書の提出を別途依頼する。
- ・報告書の提出期限は2018年1月12日（金）とする。（本選出場団体のみ）
- ・事務局からの連絡等は団体代表者（学生）のみ行い、代表者を通じて連絡を行うこと。
- ・最優秀賞の団体は、次年度の開会式に出席しトロフィー返還を行う。
- ・プレゼンを通じて事業展開が可能になった団体は、事務局まで報告すること。

※タイムオーバーは2点減点。自己紹介等の時間は含まない。

エントリー応募期間

2017年5月20日（土）～2017年7月18日（火）12：00（正午）締め切り

エントリー方法

- ① ホームページからエントリーシートをダウンロード
- ② office@nw-tama.jpへ提出

運営

主催 公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
協力 国営昭和記念公園、日本経済新聞社多摩支局
後援 立川市、八王子市、日野市、小金井市、羽村市、福生市、町田市、多摩市
東京市町村自治調査会

第2章

選考会

多摩の学生まちづくりコンペティション2017

2017年9月9日（土）

会場 明星大学 日野キャンパス

審査委員

審査委員長

大学	西浦 定継	明星大学 理工学部総合理工学科 教授 ネットワーク多摩常務理事
----	-------	------------------------------------

第1審査会場 まちづくり第1部門 スポーツ・観光・文化 (23号館105教室)

行政	小宮山 克仁	立川市 総合政策部 企画政策課企画政策 課長
行政	石川 健三	福生市 企画財政部 企画調整課 課長
企業	美藤 文秀	東日本旅客鉄道株式会社 八王子支社総務部企画室 企画部長
企業	長島 剛	多摩信用金庫 地域連携支援部長
企業	相良 大介	清水建設株式会社 営業課長
企業	大串 結子	特定非営利活動法人 日本ITイノベーション協会 理事

第2審査会場 まちづくり第2部門 教育・子育て・福祉 (23号館206教室)

行政	本多 剛史	多摩市 企画政策部企画課 課長
行政	野口 勇	八王子市 市民活動推進部 学園都市文化課 主査
行政	仁賀田 宏	日野市 企画部企画経営課 課長
企業	澤岡 詩野	公益社団法人ダイヤ高齢社会研究財団 主任研究員
企業	伯耆 大介	独立行政法人都市再生機構 東日本賃貸住宅本部 多摩エリア経営部 ストック・ウェルフェア推進課長
企業	澤 昌秀	京王電鉄株式会社 戦略推進本部 沿線価値創造部 企画担当課長

第3審査会場 ものづくり第1部門 機械・ロボット・ソフト ものづくり第2部門 農業・建築・景観 (23号館205教室)

行政	三浦 真	小金井市 企画財政部企画政策課 課長
行政	田中 善夫	町田市 政策経営部企画政策課 課長
行政	高岡 弘光	羽村市 シティプロモーション推進課 課長
企業	上野 雅広	NEC西東京支社 マネージャ
企業	高橋 章浩	京西テクノス株式会社 管理部 人材開発グループ グループ長
企業	廣瀬 健太	国営昭和記念公園管理センター 企画グループ マネジャー

第1審査会場 出場団体

まちづくり第1部門 スポーツ・観光・文化 (23号館105教室)

◆キーワード	スポーツ、学生	◆対象地域	八王子市
No.1	創価女子短期大学 水元ゼミ、チームサキとボン TRAIN-TRAIN-TRAINS		
◆キーワード	まちづくり	◆対象地域	八王子市
No.2	創価大学 経済学部・勤坂ゼミチームJK 放棄される自転車ゼロのまち・八王子へ		
◆キーワード	スポーツ、コミュニケーション	◆対象地域	多摩市、八王子市
No.3	帝京大学 湯川ゼミ教育班 多摩っ子集まれ!! フリスビー教室		
◆キーワード	歴史、文化、郷土料理、粉もの	◆対象地域	東大和市
No.4	東京経済大学 山本ゼミ、東大和市班 ひがしやまとの食の今昔物語		
◆キーワード	寺院、御朱印、歴史・文化、酒、水	◆対象地域	東村山市
No.5	東京経済大学 山本聡ゼミナール、御朱印班 村山×寺×御朱印		
◆キーワード	ツアー、クリエイティブ	◆対象地域	八王子市
No.6	法政大学 現代福祉学部 水野研究室 M-girls クリエイティブシティ・八王子		
◆キーワード	観光	◆対象地域	立川市
No.7	帝京大学 湯川ゼミ 観光チーム ふおとたまジェニック		
◆キーワード	高齢外国人、地域づくり	◆対象地域	八王子市
No.8	創価大学 法学部・チームまちづくりα班 「高齢外国人」の地域参加へのファーストステップ		
◆キーワード	商業	◆対象地域	立川市
No.9	中央大学 FLP地域・公共マネジメントプログラム 細野ゼミナール 立川をより魅力的にするためにらぼーと立川立飛がとるべき戦略		
◆キーワード	観光、マーケティング、ブランディング	◆対象地域	多摩地域
No.10	中央大学 FLP地域・公共マネジメントプログラム 根本ゼミナール TOKYO SAKE GARDEN (東京酒ガーデン)		

TRAIN-TRAIN-TRAINS

～プロバスケット×学生×八王子＝Newトレインズファミリー～

ねらい プロバスケットの魅力を発信し、東京オリンピックに向けても八王子、さらに多摩地域が活気づくと期待される。

◆メンバー 現代ビジネス学科 2年 藤岡早紀、川村彩季、福岡咲希、森田麻衣子 ◆担当教員 水元昇
◆活動のきっかけ ゼミ活動での発案

まちづくりの目的・概要

八王子市には東京八王子トレインズというプロバスケットチームがあるが、学生の認知度は低く、チーム自体も大学生には目を向けていなかった。そこで私たちは八王子市の学生に着目し、大学生に興味を持ってもらえるようなチケット企画や女性に向けたグッズなど女子学生ならではの視点で提案する。「トレインズを応援しよう!」と思ってもらえるきっかけになるのであれば、チームビジョンの「各地から八王子に人々が集まるようなチーム」に貢献することができるのではないかと考える。

効果の見通し

学園都市である八王子市には、約10万人の学生が集っている。それらの学生にトレインズを知ってもらい、実際に試合を観戦してもらうことで、新たなファンの獲得に繋がるのではないかと考える。試合の観客数が増えることで、B2に昇格の条件を満たすことができ、選手のモチベーションも上がることに繋がる。私たち学生や地域の人々、自治体がトレインズを知り応援することで、今以上に八王子市が活気づくと期待される。

継続性の見通し

現在、東京八王子トレインズの方は実際に私たちの提案を試合運営に取り入れたいと考えてくださっているため、協力して企画を行っていききたい。具体的な時期としては9月から始まる2017-18シーズンの中で検討している。またこの企画が注目されるのであれば、さらなる認知度に繋がる。

先行研究・連携団体

株式会社THT マネジメント
八王子市役所 スポーツ振興課、学園都市文化課

まちづくりのアピールポイント

東京八王子トレインズは八王子市初のプロバスケットボールチームであり、地域密着型のチームを目指している。そのためにも、地域住民だけでなく学園都市である八王子の学生に密着することも重要だと考える。私たちの提案をきっかけに、八王子市民だけでなく、学生の無限の可能性・潜在的なパワーを爆発させたい。

創価大学 経済学部・勘坂ゼミチームJK

対象地域：八王子市

放棄される自転車ゼロのまち・八王子へ 放置と放棄の違いに着目して

ねらい 回収後、放棄される自転車に注目し、その削減に向けた施策を提案する。

◆メンバー 野口堅太、佐久間弘子、林正美、川橋明日香 ◆担当教員 勘坂純市
◆活動のきっかけ 大学構内の駐輪場で、多くの放棄自転車が処分されていたため

まちづくりの目的・概要

放置自転車・放棄自転車が社会に与える影響は、まちの景観を崩すことや、歩行者や緊急車両の通行障害などがあげられる。このような悪い影響をもつ放置自転車・放棄自転車を減らし、きれいなまちづくりを目指す。

効果の見通し

放置自転車・放棄自転車を減らすことでまちの景観が良くなり、歩行者や緊急車両の通行障害がなくなる。

継続性の見通し

自転車の市場規模は大きく、価格も低価格から設定されているため自転車がなくなることはない。またゴミの回収方法や駐輪場の整備がされない状態だと放置自転車も減らないだろう。そのため放置自転車がゼロになるまでは施策の継続性はあると考えられる。

先行研究・連携団体

八王子市役所交通事業課放置自転車対策

まちづくりのアピールポイント

近年、自転車の価格が低くなり、消費者にとって手にとりやすくなっている。そんな自転車は消耗品のようにっており、自転車保有率も高い。そんな中、自転車は捨てづらく、乗らなくなった自転車を放置して捨てる人も多数存在する。私たちはそんな自転車たちを減らし、私たちの大学がある八王子市をさらにきれいなまちにしていきたい。

多摩っ子集まれ!!フリスビー教室

スポーツを通じて子どもたちの心身の育成に取り組む

ねらい スポーツを通じて心身共に健康な子どもたちがあふれるまちにする。

◆メンバー 中村直史、百井香澄、稲橋采穂、栗田龍一郎 ◆担当教員 湯川志保

◆活動のきっかけ 外遊びの減少によって

まちづくりの目的・概要

スポーツを通じて、子どもたちの運動不足の解消や運動能力の向上とコミュニケーション能力の向上、心の育成を行うことを目的としています。近年、子どもたちの放課後の過ごし方は、外遊びよりもゲームなどの家の中で遊ぶ時間が長い傾向にあります。また、子どもたちの生活の夜型化、睡眠時間の減少などが原因で肥満傾向が高まる恐れがある。この企画を通じて、心身ともに、元気な子どもたちがいる多摩地域をつくる。

効果の見通し

スポーツをする機会を提供することによって多摩地域に住む子どもの運動能力の向上が可能となり、元気な子どもたちがたくさんいる地域をつくることができる。また、他校の子たちとスポーツをすることでコミュニケーション能力の向上につながり、子どもたち同士のネットワークが構築できる。さらに、子どもたちがプレーするアルティメットは、セルフジャッジ制を採用しているスポーツでフェアプレー精神を大切にしているので、このスポーツをプレーすることを通じて、子どもたちの道徳心など心の成長を促進させることも期待できる。このような取り組みが成功すれば多摩地域が子どもたちの心身の成長に取り組む地域なんだと子育て世代や社会にアピールできる。

継続性の見通し

第1回は、小学4年生から小学6年生を対象に、フライングディスク協会の方を講師として8月に実施する予定である。今後の見通しとしては、参加してもらった子どもたちと保護者にアンケートを実施し、対象学年の拡大やプログラムの変更、フライングディスク協会の方の人数の増減などを改善していきたい。また、第1回が成功すれば、多摩地域の小学校等と連携し、放課後に実施される子ども教室のプログラムなどにも加えてもらうことも考えている。

先行研究・連携団体

フライングディスク協会（予定）
文部科学省平成20年学校保健統計
平成29年教育委員会定例会資料
厚生労働省生活習慣病予防のための健康サイト

まちづくりのアピールポイント

多摩地域の子どもたちに、外でスポーツする機会を提供し運動不足の解消や運動能力の向上、コミュニケーション能力の向上、心の育成を行いたいと考えている。この活動を実施することで多摩地域を心身ともに元気な子どもたちがあふれる地域にすることが期待できる。また、ほかの競技と比較してプレイ人口が少ないものの、オリンピック種目の候補として注目されるアルティメットという種目をプレーする子どもたちをこの企画を通じて増やすことで、将来的に日本代表になる選手を多摩地域から輩出することが期待でき、長期的な視点からも多摩地域全体を活性化させることが期待できる。

東京経済大学 山本ゼミ、東大和市班

対象地域：東大和市

ひがしやまとの食の今昔物語

～多摩の文化を味わい、知ろう!～

ねらい 多摩（村山地域）の食文化を知ること、粉文化を知らない人々に、より地域への愛着を持ってもらう。

◆メンバー 経営学部経営学科3年 有山諒、小池夏輝、清水雅也、西川諒、森屋拓也、
経営学部流通マーケティング学科3年 興石瑞希、2年 高橋沙季、経済学部2年 飯窪里奈 ◆担当教員 山本聡
◆活動のきっかけ これまでの研究の深堀+教員の助言

まちづくりの目的・概要

多摩地域北部の多摩湖周辺地域は、村山地域と呼ばれ、独自の生活文化・郷土料理が多数存在する。そんな村山地域のひとつ、東大和市をフィールドとして設定し、現代の特産品である「ひがしやまと茶うどん」に至る『昔』の食文化を、『今』再発掘し、子供から大人まで楽しめるイベントを提案し開催する。そして、食文化の魅力を発信することで、粉もの文化を知らない地域内外の人々に村山地域への愛着を形成してもらう。

効果の見通し

村山地域で昔から食べられてきた粉物料理を用いて、地元の魅力を改めて認識してもらう。粉物文化を知らない人に、村山地域の郷土料理を文化や歴史と共に味わってもらうことで、「ひがしやまと茶うどん」などを地域活性化の基盤として受け入れられるようにする。東大和市商工会や東大和市役所と連携し、多摩信用金庫の「多摩らいいふ倶楽部」でもイベントに関する情報を発信することが決定しており、多摩地域全体からの集客を見込んでいる。そして、ひがしやまと茶うどんやさつまだんごの魅力を地域内外に広めるきっかけにする。また、東京経済大学のバックアップもあり、必要経費を賄うこともできている。

継続性の見通し

東大和市商工会とは既に複数回の協議を行い、8月と11月に東大和市でイベントを開催することが決まっている。東村山市役所産業振興課、観光ガイドの会の方とも協力関係を築いた。現在は、東大和市内外の人を対象に東大和市内でのイベントを企画している。他の多摩地域や23区からも集客をするために、企画内容でも協力を頂いている多摩信用金庫の「多摩らいいふ倶楽部」でもイベントに関する情報を発信することが決定している。このように、多摩地域全体から集客が見込め、経費も賄える見通しが立っているため、継続性も見込める。

先行研究・連携団体

『多摩湖の村』内堀輝志（1995）、「多摩の歴史まで2」倉間勝義 株式会社明文社、東大和市市民意識調査報告書（平成28年7月）『多摩地域におけるシティプロモーション』東京都市長会（2014）『人口減少時代の地域経営、みんなで進める「地域の経営学」実践講座』（海野進 2014）を参考に研究している。東大和市商工会、東大和市役所、東大和観光ガイドの会と打ち合わせており、東大和市のゆるキャラの参加など企画運営にご協力頂くことが決まっている。また、多摩信用金庫には「多摩らいいふ倶楽部」でイベントの宣伝をして頂けることが決定している。

まちづくりのアピールポイント

多摩地域の中でも大学がなく、今まであまり着目されてこなかった村山地域の歴史や文化を、今と昔の郷土料理という切り口からアピールする独創的な取り組みである。村山地域の豊かな粉もの文化に注目したイベントを行うことで、市内の人だけでなく市外の人とも呼び込める。ターゲットを家族にすることで、幅広い人に歴史・文化を知ってもらうことができる。東大和市商工会、東大和市役所、観光ガイドの会と連携し、施設の利用やゆるキャラの参加など全面的な支援も得ている。東京経済大学のバックアップから設備など必要経費も賄っている。

村山×寺×御朱印

～御朱印で地域に愛着を～

ねらい 村山地域にある寺院で、そこでしか聞けない貴重なその地域の文化や歴史を知り、愛着を持ってもらう。

◆メンバー 経営学部経営学科3年 横溝裕美、中山博喜、
経営学部流通マーケティング学科3年 大河原翔2年 乙村すみれ、渡辺聡美 ◆担当教員 山本聡
◆活動のきっかけ これまでの研究の深堀+教員の助言

まちづくりの目的・概要

東村山市、東大和市、武蔵村山市、瑞穂町といった狭山丘陵周辺は、村山地域という名で呼ばれ歴史と文化を紡いできた。村山地域では、生産年齢人口の割合が減少し、老年人口の割合が増加し、地域コミュニティにも衰退の兆しがある。村山地域には寺社の歴史・文化といった地域の人に根付いてきた、あまり知られていない魅力ある地域資源が存在する。本企画では、昨今、若い女性に着目されている「御朱印」を軸にして、それらを地域内外へ発信し、再認識・再発見するためのイベントを開催する。そして、まちを活性化させることで、地域コミュニティの衰退や人口の減少を防ぐための礎にしようという試みである。

効果の見通し

御朱印を軸に東村山市の寺社の歴史と文化に則ったイベント開催で、コミュニティを活性化させる。その結果、村山地域に対しての愛着が生まれ、人口の流出などを防ぐことができる。村山地域が独自に持つ歴史や文化、自然、産業、生活、人のコミュニティといった地域資源を、寺院での体験の「場」を通じて精神的な価値へと結びつけることで、「住みたい」「交流したい」という気持ちを誘発させることができると考える。なお、東経大 山本聡ゼミでは、過去2年間イベントを行っており、その経験からも一定の効果が見込める。また、独自に実施したアンケートでも効果があることが示唆されている。

継続性を見通し

東村山市の地域活性化研究を始めてから、すでに3年が経過している。富士ゼロックス、豊島屋酒造、多摩信用金庫、東村山市役所産業振興課、東村山市郷土研究会の担当者として3年間、定期的に企画を開催し、緊密な関係を構築している。地域の歴史や文化をよく知る寺院の住職に、全面的に賛同、協力いただける運びとなっている。その上で、8月、11月に東村山市で著名の寺院である大善院でのイベント開催がおおよそ決定している。東村山市の協力や東京経済大学のバックアップにより、必要経費も賄えている。

先行研究・連携団体

「パワースポット・ブームを通じた縁結びのコミュニケーション」 畠山仁友 武井寿 2012年、「地域社会における神社・仏寺が目指す方向性」 河野まゆ子 2016年を参考に研究をしている。連携団体は、東村山市役所、富士ゼロックスでは企画内容に関する連携を、多摩信用金庫では「多摩らいふ倶楽部」などから広報に関する連携をしている。豊島屋酒造、東村山市郷土研究会、大善院、梅岩寺では、研究を進めていく上での、イベントの企画運営に御協力頂いている。

まちづくりのアピールポイント

過年度の研究を通して、培ってきた外部連携のネットワークを活用できる。多摩信用金庫との連携では、広報誌「多摩らいふ倶楽部」に掲載することでイベントのPRをすることができるため集客効果が期待できる。また、女性を主なターゲットにすることで、情報発信力の強化が見込まれる。以上のことから、村山地域の寺院、歴史、文化の魅力を発信し、イベントにて地域内外での交流人口を増やすことで、街を活性化させることができる。東村山市役所との連携により8月、11月のイベント開催も決まっている。このイベントは独自アンケート調査にて、若者の寺院・御朱印に関する意識調査を踏まえた上で計画されている。

クリエイティブシティ・八王子

エスコートツアーによる街の魅力発信

ねらい 「クリエイティブシティ」による八王子市のイメージ刷新。

◆メンバー 宇田紫乃、柿崎あらた、西方満美、村上由希乃 ◆担当教員 水野雅男
◆活動のきっかけ みずき通りをタウンウォッチングしたことから

まちづくりの目的・概要

八王子というと「ダサイ」というイメージがついてしまっている。しかし、八王子の中にもオシャレでクリエイティブなスポットは溢れている。クリエイティブをもっとアピールすることができれば、「八王子=オシャレ」というイメージに変えることができる。そのために、個人商店を中心に、クリエイティブなスポットを探索し、MAP化、リスト化をする。それをもとに、エスコートツアーのモデルづくりを考える。

効果の見通し

エスコートツアーを企画・実施していくことで、八王子のクリエイティブ性を発掘し、「八王子=オシャレ」というようにイメージアップを見込むことができる。また、そのイメージをつけることができれば、クリエイティブに関心が高い人を呼び込むことができ、八王子のクリエイティブ性をさらに発展させていくことができる。

継続性を見通し

エスコートツアーの事業化にあたっては、AKITENと連携して、情報発信や共同企画を推進する。

先行研究・連携団体

AKITEN：空きテナントをフリースペースとして、アートギャラリーやマルシェ、ワークショップなどの人々が集まるコンテンツを持ち込んで活用することで、空きテナントの増加を食い止めるとともに、地域独自の空間を作ろうと活動している。AKITENでは、様々な状態で残っているテナントを、アートやデザインを効果的に使いながら活用している。空きテナントをネガティブな存在と捉えるのではなく、創造力を発揮し、地域の魅力を発信することができる貴重な空間というようにポジティブな存在と捉えている。

まちづくりのアピールポイント

①エスコートツアー：八王子の新たな魅力に気づいてもらうために、本に載っていないような個人商店をツアーガイドとともに巡っていく。ガイドによる街や店の紹介・説明や、店主と話す機会を設けるなど、今までのツアーとは違う、地域に寄り添ったツアーづくり。②美大生を活用：八王子周辺には多くの芸術大学がある。その学生に協力してもらい、エスコートツアーをともに巡り、美大生の視点で、クリエイティブなスポットの話をしてもらう。③AKITENとの連携：クリエイティブなスポットの紹介、MAP作成などで連携する。

ふおとたまジェニック

大切な人との「今」を写真に残そう

ねらい SNSの拡散力を利用して、若者に多摩の魅力を知ってもらう。

- ◆メンバー 経済学部経済学科3年 田島功士、村山駿、白岩裕也、田口昇央、佐藤広庸、堀内唯、飯谷真結、池田優大、浦島健吾
- ◆担当教員 湯川志保
- ◆活動のきっかけ 多摩地域の魅力を若者に知って欲しかったから

まちづくりの目的・概要

近年、若者の写真に対する関心の高まりがinstagramなどのSNS利用率から明らかになっている。そこで、写真とSNSの「拡散力」に焦点をあて、「ふおとたまジェニック」という企画を実施し、多摩地域の豊富な観光資源をより多くの方に発信していく。具体的には、多摩地域の観光名所で、カメラマンに自分で撮影する写真とは一味違う写真を一眼レフカメラで撮影してもらい、instagramなどのSNSに投稿してもらうことで、多摩地域の観光名所をアピールしていこうという企画である。第一回は、国営昭和記念公園での開催を予定している。

効果の見通し

多くの若者は、外出先などで撮影した写真をSNSに投稿することで、友人などに自分の日々の生活などを発信しており、その投稿を通じて流行が生まれることもある。このような現状を踏まえると、若者の写真に対する興味関心の高まりとSNSの利用率の高さに焦点を当てたこの企画を実施すれば、多摩地域の観光名所で撮影された素敵な写真を見た若者の訪問意欲を高めることが可能となり、多摩地域に観光に来る若者の増加が期待できる。また、投稿された写真によって多摩地域に興味をもって訪問した若者も企画に参加し、撮影してもらった写真をSNSに投稿すれば、さらに多摩の観光名所が拡散され、多摩地域への訪問者の倍増が期待できる。

継続性を見通し

第一回は、昭和記念公園での開催を予定している。第二回目以降の開催に際しては、若者への写真撮影スポットに関するアンケート調査の実施や観光課や観光協会の方から、観光スポットとしてアピールしていきたい場所等についてヒアリングを実施するなどして、開催場所を決定したい。また、カメラマンは、多摩地域の大学の写真部の部員にお願いする予定で、カメラマンと企画参加者をつなぐ活動をしていく予定である。

先行研究・連携団体

- ①多摩地域の学生 ②国営昭和記念公園（仮）

まちづくりのアピールポイント

SNSで「写真」を投稿することが現在の若者のトレンドであり、その中でたくさんの流行が生まれている。そこで、写真とSNS (instagram)の拡散力を活用すれば、多摩地域の観光スポットをPRすることが可能となり、SNSの利用率が高い10代20代の若者を多摩地域に呼び込むことが期待できる。この企画に参加した若者が、SNSに多摩地域の写真を投稿することで、その写真を見た人が多摩地域に興味を持つことで、多摩地域に多くの若者が足を運んでくれることが予想される。

創価大学 法学部・チームまちづくりα班

対象地域：八王子市

「高齢外国人」の地域参加へのファーストステップ

多文化共生とグローバル社会の架け橋を構築するために

ねらい 今後顕在化するであろう「高齢外国人問題」を早期に対策することにより高齢外国人の孤立を防ぐ。

◆メンバー 斎藤正義、竹下洋介、福岡雅広、西堀香菜子、吉野智恵、陳令儀 ◆担当教員 中山賢司
◆活動のきっかけ ゼミでのグループ研究活動

まちづくりの目的・概要

急速な少子高齢化の進展に伴い、「労働力としての外国人」に期待が寄せられる一方で、現に定住する外国人は言葉の壁や地域参加など「情報と地域からの孤立」に直面している。同時に、日本人の高齢化と同様、外国人の高齢化問題は今後、顕在化していくことが予想される。こうした二重の意味でマイノリティに追いやられる「高齢外国人」問題は将来大きな課題となることが考えられる。各種自治体が多文化共生事業に取り組んではいないものの、参加できない外国人も多く、とりわけ「高齢外国人」は孤立に追いやられてしまう。そこで私たちは「高齢外国人」の「地域参加へのファーストステップ」として各国の伝統工芸品や小物を作ってもらい、各種イベントやフリーマーケットアプリで売り出し、売上金を還元していき、生きがい作りをする。

効果の見通し

集住地区に住む高齢外国人へ事業を展開するに当たり実態調査と関係作りを行うことから、地域に与える効果として、①多世代での交流促進（高齢者と学生）、②多文化共生・異文化理解の促進（外国人と学生）、③外国人の地域参加の促進（外国人と地域）などが見込まれる。また、連携団体にある八王子市役所やNPO法人八王子国際協会がまだ着手していない問題を私たちが取り上げることで、八王子市民に潜在的な社会問題を認知させることに寄与することが出来ると思う。さらに、顕在化していない問題に焦点を当てて考えることで、今後日本に定住する若年外国人の将来にも大きな影響を与えるであろう。

継続性を見通し

高齢外国人は今後さらに増加することが予測され、それに伴い地域参加できず孤立してしまう高齢外国人も増えていくと考えられる。より多くの高齢外国人を孤立から救済するため私たちはこの事業を行いたいと考えている。また、来年度以降はゼミの後輩たちに引き継ぎ、事業を継続していき、さらに「高齢外国人に関心のある人」や「ボランティアに参加したい人」などを巻き込み、この事業を多世代で交流できる場にするとともに、「高齢外国人」という新たな社会問題を多くの人に認知してもらいたいと考えている。

先行研究・連携団体

本事業は主にNPO法人 八王子国際協会と連携し、進めていきたいと考えている。具体的には集住地区の「世話役」であるキーパーソンとの連携を八王子国際協会とともに進めていき、同協会の活動参加者の中からこの事業のターゲットとなる高齢外国人を探していきたいと考えている。そして、売上金の還元は八王子市役所多文化共生推進課と相談し決定したいと考えており、私たちはバスの回数券など高齢外国人の生活に役立ち、なおかつ高齢外国人の地域参加を促すものにしたいと考えている。また、先進事例として取り組んでいる神奈川県社会福祉法人青丘社より、事業のスキームなどを学んでいく。

参考文献：東京大学オンデマンド交通プロジェクト 乗り合い型交通システム コンビニクル

まちづくりのアピールポイント

本事業の最も重要なポイントは、①まだ顕在化していない社会問題に焦点を当てたこと、②事業活動を通じて問題解決を図ろうとしていること—の2点である。行政やNPOも参入していない分野であるため、学生である私たちが主体となって問題提起を行い、解決に導いていくことが大切だと考える。また事業を行うにあたって、外国人の定住者数の増加やグローバル化の進展に伴い、今後我が国が直面する重要な政策課題であるとの理解を広げていきたい。

立川をより魅力的にするためにららぽーと立川立飛が とるべき戦略

アンケート・ワークショップが示す処方箋

ねらい 商業施設の魅力向上を通して、立川市の活性化につなげる。

◆メンバー 植松寛、小野雅美、河内一矢、下河邊行央、菅野誠一郎、鈴木はる奈、高岡菜々美、高村勇佑、竹崎真央、照屋克樹、松井愛 ◆担当教員 細野助博
◆活動のきっかけ 過年度の調査研究の発展・継続

まちづくりの目的・概要

多摩地域の人口は、都心回帰の流れの中で、いよいよ減少局面を迎えた。そのような状況下で2015年12月10日にららぽーと立川立飛がオープンし、立川市に新たな魅力的スポットが誕生した。本研究では来店者への2回のアンケート調査を含め、地理統計システムや統計解析を援用しながら、ららぽーと立川立飛が立川地域の魅力向上のためにどのような役割を果たせるか、さらにそのためにはどのような戦略をとるべきかを示す。

効果の見通し

マクロな視点から行った本研究が、実際にららぽーと立川立飛の運営に携わっている方々のミクロな視点を補完することが期待される。特に、本研究の結果をもとに連携各団体とワークショップなどを開催する中で、多様な価値観を融合し、新たな戦略立案を試みていることから、ショッピングセンターの運営に対する影響も大きいと考えられる。

継続性を見通し

立川市の魅力向上に向けた研究は、本ゼミナールでの長年のテーマである。新たなプロジェクトとしては、連携団体の協力のもと、立川地域の新施設に関する研究を進めている。その中では、本研究の対象であるららぽーと立川立飛との連携に向けた方策も模索しており、今後も立川地域の活性化のための研究を継続することを考えている。

先行研究・連携団体

本研究は、株式会社立飛ホールディングスや三井不動産株式会社と連携しながら進めてきた。とりわけ、ららぽーと立川立飛内での2日間にわたるアンケート調査で目標を上回るサンプル数を回収することができた背景には両社のご協力がある。

まちづくりのアピールポイント

アンケート結果の分析においては多変量解析を用いて、来店者の満足度に関する構造的な把握を行った。結果として、ららぽーと立川立飛の戦略立案に重要な示唆を与えることができた。同時に、競合店との比較分析を行ったことやワークショップにおいて実際の運営経験から得られる「現場知」を反映したことで、より具体的な解決策の立案につながった。

TOKYO SAKE GARDEN（東京酒ガーデン）

～日本酒から始める多摩ブランドの構築～

ねらい 日本酒を柱とした多摩ブランドイメージの構築と周知

◆メンバー 山崎大久、水野正一郎、中村浩之、久保塚愛美、辻野宏大、依田彩里、岩根史記 ◆担当教員 根本忠宣
◆活動のきっかけ ゼミナールで学んだ地方都市活性化の知見を、大学の本拠地である多摩地域でも実践したいと考えたことから。

まちづくりの目的・概要

私たちは、日本酒を柱とした多摩ブランドの構築とその周知により、多摩地域内外の人々に多摩の魅力を発見してもらうことを目指している。私たちは、多摩地域の課題はブランドイメージの弱さにあると考える。ブランドイメージの弱さは、食品産業・製造業等の地場産業や観光業を始めとして地域全体の衰退をもたらす恐れがあるため、ブランドイメージの構築が急務である。そこで、都内にある酒蔵10棟のうち9棟を持つという点で多摩の要素が強く、未注目の素材であり、外国人の興味を惹きやすい素材であるという理由から、日本酒を呼び水としたイベントを開催する。このイベントを通して、多摩の魅力に気付いてもらい、さらに多摩の魅力に触れてもらう機会を定期的に提供することが、多摩のブランドイメージの構築に繋がると考える。

効果の見通し

「TOKYO SAKE GARDEN」は、多摩の日本酒を取り揃えるだけでなく、多摩の食材や文化を感じてもらえるようなフェス形式のイベントにする。このイベントを通して、多摩の魅力に気付いてもらい、さらに多摩の魅力に触れてもらう機会を定期的に提供することで、多摩のイメージの構築に繋がると考える。また、多摩地域内外でイベントを開催することで、多摩地域に住む人々に対しては多摩への愛着の育成を促し、外国人観光客等を含む多摩地域外の人々に対しては多摩へのブランドイメージの定着を促すことを期待する。

継続性を見通し

イベント開催の候補地として、多摩地域外では駒沢オリンピック公園（世田谷区）、多摩地域内では軍用地跡（立川市）及びパルテノン大通り（多摩市）を考えている。これら候補地の近隣には多くの大学や大型商業施設があるため、様々なバックグラウンドを持った人々が存在し、一定数の集客が見込める。また、PDCAサイクルを徹底し、外部評価を重視することで、イベントのマンネリ化を防止し、継続したイベントの開催を確保する。

先行研究・連携団体

- ・東京都行政部振興企画課（市町村課）
- ・福生市役所生活環境部シティーセールス推進課まちの魅力創造グループ：多摩地域の酒蔵とグルメを紹介する都内4市6酒蔵パンフレット「日帰り東京SAKE旅」を製作
- ・多摩地域観光資源広域活用協議会：多摩地域6酒造の活用プロジェクトを行っている、福生市・青梅市・あきる野市・東村山市の4市共同の組織
- ・東京都酒造組合

まちづくりのアピールポイント

私たちは、日本酒をきっかけに多摩地域の様々な文化を知ってもらうことで多摩のブランドイメージの構築を目指す。そのために、上記イベントをまずは多摩地域内外の人々に参加してもらえる身近なイベントとして始めたい。そしてイベントをブラッシュアップして定期的に開催し、東京オリンピックが開催される2020年までに大きなイベントとして成長させることを目標としたい。東京オリンピック開催期間中には、1日当たり最大92万人の観戦客らが東京を訪れると予想されている。（東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会）また、日本食ブーム等を背景に、日本酒の輸出量は近年増加傾向にあり、外国人の日本酒への関心も高まっている。この需要を多摩地域に取り込み、さらに多摩の魅力を知ってもらいたいと考える。

第2審査会場 出場団体

まちづくり第2部門 教育・子育て・福祉（23号館206教室）

◆キーワード	健康増進、市の施策との連携	◆対象地域	東久留米市
No.1	亜細亜大学 法学部・平井ゼミ(行政学) 1班 東久留米市民の健康増進		
◆キーワード	学習支援、子育て支援	◆対象地域	東久留米市
No.2	亜細亜大学 法学部・平井ゼミ(行政学) 3班 児童館での子供学習塾		
◆キーワード	多世代交流、持続可能性、女子大生	◆対象地域	日野市
No.3	実践女子大学 チームトリプルC 持続可能なコミュニティカフェの展開		
◆キーワード	高齢化、認知症	◆対象地域	八王子市
No.4	創価大学 経営学部・安田ゼミ teamACT 記憶をずっと、笑顔をもっと		
◆キーワード	福祉	◆対象地域	八王子市
No.5	創価大学 勸坂ゼミ、チームIK 待機児童ゼロを目指して		
◆キーワード	社会参加、エンパワメント	◆対象地域	八王子市
No.6	法政大学 現代福祉学部福祉コミュニティ学科 宮城孝ゼミ 八王子青年協議会の設立に向けて		
◆キーワード	高齢化、団地、レクレーション	◆対象地域	武蔵村山市
No.7	東京経済大学 神原理ゼミナール Y-3 世代間交流で村山団地を元気に！		
◆キーワード	プログラミング教育	◆対象地域	多摩市
No.8	帝京大学 湯川ゼミナール 帝京プログラミング！		
◆キーワード	空き家、高齢者支援、交流拠点	◆対象地域	八王子市
No.9	法政大学 現代福祉学部 水野研究室 成熟化した住宅地における「地域の縁側」の創出		

亜細亜大学 法学部・平井ゼミ(行政学)1班

対象地域：東久留米市

東久留米市民の健康増進

ウォーキングでまちと人を元気に

ねらい 市民の健康に対する意識の向上を目指し、健康寿命の長寿化を図る。

◆メンバー 大峯昂、荒井祐輝、黒木勇一、永井甫、小谷野絢太、塚原京介 ◆担当教員 平井文三
◆活動のきっかけ 昨年の平井ゼミの企画を発展させ、その企画を実際に開催する

まちづくりの目的・概要

東久留米市において、ウォーキングイベントを開催することによって、市民の健康意識の向上によって市民の健康を増進し、健康寿命の長寿化を図り、疾病の予防や未病の発現を防ぐ。また、市の施策「東くるめわくわく元気プラス+」と連携することにより、同施策の認知度向上と共に、市民の商業復興に資することも目指す。

効果の見通し

マイカーの普及や道路整備により、歩く機会が減ってきている。ウォーキングイベントによって歩行習慣のきっかけを作ることにより、健康作りのための疾病の予防や未病の発現を防ぐ。特に、脚力の強化やダイエットの効果が期待される。また、市民の健康意識を高めることも期待できる。生活習慣の改善を通じた健康寿命の長寿化も狙いとしている。健康な市民を増やすことで、将来的には、医療介護費用の削減も期待できる。

継続性の見通し

平井ゼミを中心として、ウォーキングを中心とした「東久留米市民の健康増進」に関するイベントを、今後も企画していく。平井ゼミでは、昨年度は、企画の為の実地調査を行った。本年度は、前年度の実地調査結果も踏まえ、イベントの施行を行う。来年度は、試行結果を踏まえ、イベントの内容改善、「東くるめわくわく元気プラス+」を行う東久留米市との連携、団体等の追加を検討する。

先行研究・連携団体

参考文献・資料

東久留米市「東くるめわくわく元気plus+」と連携し、市内の商店130店舗で使えるポイントカードとの連携。

『東くるめわくわく元気シート』東久留米市福祉保健部健康科

『東くるめわくわく元気plus+カード利用店』東久留米市健康科

『Enjoy Outdoor Sport Walk Walker 6styles』株式会社ジェントロジースポーツ研究所、一般社団法人日本ウォーキング協会

平成29年6月16日に東久留米市役所を訪問し、同市役所の企画調整課の白土主査と意見交換を実施

まちづくりのアピールポイント

東久留米市には、黒目川や竹林公園、南沢湧水群などがある。同市でウォーキングをすることによって豊かな自然に触れることができる。定期的な健康増進を目的とした「東くるめわくわく元気plus+」との連携をすることによって、市内130店舗以上でサービスを受けられるという特典もある。この企画をきっかけに、市民健康に対する健康意識の向上を図る。

児童館での子供学習塾

学習支援を通じた少子化時代の地域活性化

ねらい 東久留米市における、家庭の経済力に依存しない、小学生の学力向上。

◆メンバー 天野優太、井上祐樹、内美月、外立龍太郎、菊田真悟、磯部玲、佐野七海 ◆担当教員 平井文三

◆活動のきっかけ 東久留米市の子育て支援のボランティアに参加した中で、学生が主導的に関与できるプログラムを企画することとした。

まちづくりの目的・概要

過去2年の学力調査の結果を見ると、現在の東久留米市の児童は学習に対して苦手意識がある者もいると思われる。そこで私達は、児童館で「子供学習塾」を行い、その意識を減らしていくことを目的とする。この活動は、主に、小学校の夏休みの課題を持ち込んでもらい、大学生側で分からないところをサポートする。この「子供学習塾」の活動を通じて、児童の学力定着や勉強の楽しさを伝えることで、東久留米市の学力の向上を図る。

効果の見通し

「子供学習塾」を開催することによって、学習に対する子供達の苦手意識を少なくし、自主的に学ぶ楽しさを知ってもらう機会を与える。さらに、子供同士で相互に学習を教え合うことでより深い理解に達することができ、学習習慣の定着に繋がる。その上、子供達に学習の機会と場所を提供するだけでなく、子供同士の交流を促進する場にもなる。

継続性の見通し

今後まちづくりの活動として継続可能である。亜細亜大学では、「アジアの風塾」という小学生を対象とした学習をサポートする取組を行っている。この延長線で「子供学習塾」を行い、東久留米市の高校生や、亜細亜大学を含む近隣の大学生などによる横展開を図ることで、少子化対策におけるボランティア活動の拡大も見込める。児童館での「子供学習塾」を通して、市内の小学生の段階的な学力向上や、東久留米市民や近隣学生との交友関係を作り上げていくことができる。

先行研究・連携団体

東久留米市役所では、通常の学期中に教育委員会の事業として、小学校で「子供土曜塾」を実施している。その発展型として小学生の夏休みの課題をサポートするため、中央児童館で「子供学習塾」を開催する予定を計画している。平成29年6月16日に平井ゼミナール内の全班合同で東久留米市役所を訪問し、同市役所の企画経営室企画調整課主査の白土氏と意見交換をした。

参考文献：『平成27年度全国学力・学習状況及び市学力調査の結果』、『平成28年度全国学力・学習状況及び市学力調査の結果』、『東久留米市まち・ひと・しごと創生総合戦略』、『第39回認定地域再生計画211番東久留米』の「留学生版CCRC」

まちづくりのアピールポイント

学業を主としていて、また、小学生に年齢に近い大学生が主体となって開催することで、小学生達はより参加しやすくなり、分からないところも気軽に尋ねることができる。『東久留米市まち・ひと・しごと創生総合戦略』及び、『第39回認定地域再生計画211番東久留米』の「留学生版CCRC」の構築にも資する。

実践女子大学 チームトリプルC

対象地域：日野市

持続可能なコミュニティカフェの展開

～人々を巻き込む緩やかなネットワークの構築～

ねらい 無理なく持続できるコミュニティカフェのまちづくりを考える。

◆メンバー 高橋智聖 土肥早也香 渡辺あさひ ◆担当教員 須賀由紀子
◆活動のきっかけ 多世代交流の場に入り、もっとよりよい場にしたいという思いが生まれたから

まちづくりの目的・概要

少子高齢化がすすむ中で、多世代交流のコミュニティカフェが増えている。しかし現場を経験すると、『お世話係』と『お客様』に分離している事が多い。それでは継続性がなく、限界があるのではないかと考えた。カフェに集う人々が無理なく楽しいと思える時間を共有し、新たな繋がり場を生み、まちの活性化に繋げたい。私たちは高齢者カフェの運営状況を中心に調査を行い、多世代が一体となって参加できるように誘う新しいコミュニケーションツールの開発につなげ、これからのコミュニティカフェの展開のモデル作りに取り組む。

効果の見通し

持続性がある交流の場であれば、衰退することなく発展し、飽きる事のない場になると考えられる。そのような魅力ある場がある事でまちが活性化し、人々の結びつきが強い、暖かい日野市になると考えられる。また新しいコミュニケーションツールを女子大生目線で開発することは、女性が持つ生活者としての視点を取り入れることになり、NPO、民間企業、市民、行政などのまちづくりに関わる様々な主体を繋ぎ、新しい創造の場を生み出し、今まで以上に影響力の強い仕組みが構築できる。コミュニティカフェの内部を変えることは、外部も変化し、よりよい生活環境が生まれる。

継続性を見通し

以前より日野市役所地域協働課の方にご指導を頂いたり、新しくスタートするコミュニティカフェ『黒川かわせみサロン』の現場に入ったりと協力関係を構築している。今後はNPO法人市民サポートセンターにも協力依頼を行い、コミュニティカフェの運営の行い方をより良いものに出来るような仕組みを相談しようと考えている。日野市内には上記に挙げた以外にもこれまで培った繋がりがあるため、またこれから新たに関係を築いていくため長期的な継続は可能である。

先行研究・連携団体

参考文献

- ・倉持香苗『コミュニティカフェと地域社会』明石書店
- ・小泉秀樹『コミュニティデザイン学』東京大学出版会
- ・稲葉陽二『ソーシャルキャピタル入門 孤独から絆へ』中公新書 等

提携団体

- ・日野台にここカフェ
- ・黒川カワセミサロン（どちらも予定）

住民主体で高齢者カフェが運営されているが、お世話係の負担が大きく、メンバーの固定など持続性に課題を抱えている。

- ・NPO法人市民サポートセンター（予定）

まちづくりのアピールポイント

自分自身が2年前に一人暮らしを初め、地域とのつながりを求めた事が今回のコンペティションの大きなきっかけになっている。たくさんの地域の方と交流をさせて頂き、暖かさに触れたが、こんなに素敵な出会いを大学時代にするとは思わなかった。自然も人も素敵なこの日野市の魅力を更に高め、住み続けたいようなまちにしたいと思っている。日野市の多世代交流の場が開かれた状態で、誰にとっても居心地の良い、面白いと思えるような場になるように女子大生目線で真剣に考えていく。

記憶をずっと、笑顔をもっと

MCIから始める認知症予防

ねらい 認知症の発症を予防することで、本人も家族もずっと幸せな生活を送っていくことができる。

◆メンバー 齋藤彩音、西村秀美、中元慎悟、澤田裕介、寺田美咲、安川信成、松原慧人、下園未来 ◆担当教員 安田賢憲
◆活動のきっかけ 実際に活動メンバーが、アルツハイマー型認知症の祖父母の介護をした経験から。

まちづくりの目的・概要

高齢化社会の課題の一つとして認知症の発症に着目している。認知症を発症することで、その人が最期まで自分らしく生活を送ることを難しくしている。そこで私たちのまちづくりの目的は、認知症の発症を予防・抑制して、一人ひとりが自立した老後の生活を送ることを可能にすることである。しかし、現在認知症予防を行っている人は少ない。そこで私たちは啓発活動と予防プログラムの提供により、将来の認知症患者人数を減らしていく。

効果の見通し

考えられる効果が3点ある。1点目は、短期的効果として介護者の負担が軽減する点である。地域の学生が安くお手伝いに来てくれることで、自分の時間を確保しやすくなると考える。2点目は、中期的効果として学生が考えられる効果が3点ある。1点目は情報冊子の配布や認知症疑似体験イベントの開催などの啓発活動を行うことによって予防に取り組む人が増加することである。2点目は、論文などで効果が実証されているプログラムを行っているため予防の効果が得られる可能性が高いことである。3点目は管理ブックに毎日、記録を行うことや、電話による予防活動のFB、週一回の面会などの予防プログラムの継続支援を行うことによって認知症予防の効果を継続的に得ることが可能なことである。

継続性の見通し

私たちは今後事業化を検討している。現在、実現可能性を実証するためのプレテストをしており、無料で認知症啓発活動と継続支援プログラムを行っている。本プログラムに実現可能性が実証されることで、継続支援プログラムを有料で販売したいと考えている。追加のオプションを考えており、顧客一人ひとりにあった予防法を行えるよう調査をしていく。毎年契約件数を増加させていくために直接訪問やイベントの開催を頻繁に行い、5年後には収支が黒字になる予定である。

先行研究・連携団体

連携団体として市が運営する地域包括支援センターなどの公的団体と、認知症予防の専門医との連携を検討している。公的団体や、高齢者が住んでいる団地の責任者の方を通じて認知症の予防の啓発活動を行っていく予定である。私たちが啓発によって提案する予防方法の形作りは、認知症予防の専門医の方との協力を目指していく。現在高齢者相談安心センター恩方様とイベント企画を進めている。

まちづくりのアピールポイント

私たちの事業は、社会の認知症予防において必要不可欠であると考え。なぜならば、現在認知症の予防法を提供する団体は多くあるが、その認知症予防の啓発や、予防の継続の支援を行う活動は未だ進んでいないからである。今後、社会における認知症予防の普及において私たちの事業は価値があると考えられる。

創価大学 勤坂ゼミ、チームIK

対象地域：八王子市

待機児童ゼロを目指して

学生による環境づくり

ねらい 待機児童問題の原因の一つである保育士数の減少を改善するために、学生による雑務バイトを提案し、保育士の労働環境を改善する。

◆メンバー 4年 斉藤優香、中迫大輔、3年 河野 美秋、伊藤大貴、外山智佳 ◆担当教員 勤坂純市
◆活動のきっかけ 学生の発案

まちづくりの目的・概要

現在東京を中心とした日本の各地で待機児童が深刻な問題となっており、その原因には共働きが多いこと、保育所が少ないこと、保育士が少ないことがあげられる。私達は待機児童の問題を解決するために、保育士が少ないという点に焦点を当て、その理由である仕事量の多さ、勤務時間の長さを解消するために、学生が保育士の雑務をするアルバイトを提案する。

効果の見通し

学生が保育士の雑務を担うことにより、保育士の負担を軽減し、保育士の離職率の減少・復職率の上昇が見込める。その結果として保育士が増加し、待機児童数が減少する見通しである。この雑務バイトにより、保育士の待遇改善と共に、育児をしながらでも働きやすい社会へと改善されていくと考える。

継続性の見通し

雑務バイトの依頼があった保育所を大学のポータルサイトで紹介し、雑務バイトをする大学生を募集する。保育所にどのくらいの人数の雑務バイトを雇いたいことや、適切だと思われる給料をこれからアンケートし、継続して雑務バイトができる環境を整えていく。八王子市内の保育所から雑務バイトを始め、全国に広めていく見通しである。

先行研究・連携団体

厚生労働省「保育士等における現状」
東京都公式ホームページ「東京都保育士実態調査報告書」
労働政策研究・研修機構「共働き世帯と専業主婦」
厚生労働省「保育所等利用待機児童の定義」
小池ゆりこオフィシャルサイト「東京大改革宣言」
また、八王子市内にある保育所、大学と連携していく予定である。

まちづくりのアピールポイント

現在の保育士就職者の約34.9%が職場への改善希望点として「事務・雑務の軽減」をあげ、52.2%、37.3%がそれぞれ退職意向理由に「仕事量が多い」、「労働時間が長い」ということをあげている。また、過去の保育士就業経験者の62.1%、また保育士就職未経験者の51.7%が保育士就職時の希望条件として「勤務時間の改善」をあげている。このように、雑務を大学生が担うことにより、保育士の待遇を改善させ、保育士を増やすことによって待機児童問題を解決できると考える。

八王子青年協議会の設立に向けて

若者によるまちづくりへの参加とエンパワメント

ねらい 青年協議会という形で若者がまちづくりに参加できる場を作り、若者のエンパワメント・社会参加の促進を図る。

◆メンバー 大津哲哉、加藤佑香 ◆担当教員 宮城孝
◆活動のきっかけ 若者に向けての施策が不十分であると考えたため

まちづくりの目的・概要

現在、八王子市において、子どもの貧困、若者の引きこもり、保育所の待機児童問題などの若者に関する課題がある。しかし、その状況に置かれている若者の声は、行政に十分に届いていないのが現状である。それを改善するためにも若者が中心となって行動していくことが必要である。そこで、私たちは八王子市に青年協議会を設立し、若者の積極的な活動参加の促進を図ることを目的とする。

効果の見通し

八王子市において、若者の声を集める青年協議会を設立することで、今まで十分に届いていなかった声を行政に届けることが可能となる。さらに、声を届けることで行政と地域の連携を図ることが期待できる。そのことで若者の声を生かした本当に必要な施策を実現することができる。一方で、青年協議会は、若者が主体的に動くことのできる場であるので、現在は消極的である若者の社会的活動への参加のきっかけとなる。

継続性を見通し

八王子市内に在住する15歳から35歳の若者12名程度により2017年11月に八王子青年協議会を設立する。その事務局を本ゼミが担当する。本協議会で高校生から子育て世代の八王子市のまちづくりや若者向けの施策のありかたについて協議する。同時に市内の若者の意見や要望を街頭インタビューやSNSなどによって広く収集、集約する。それらの声を整理し、八王子市の行政や市議会議員、関係団体と協議する場を設ける。

先行研究・連携団体

宮本みち子編 『すべての若者が生きられる未来を一家族・教育・仕事からの排除に抗して』 岩波書店
内閣府『平成26年版 子ども・若者白書』 2014年

八王子市若者サポートステーション・八王子子ども食堂・フードバンク八王子などの民間団体に、八王子における子どもの貧困や若者の引きこもり、子育てに関する取り組みや課題についてヒアリングするとともに、八王子市市民活動推進部・八王子市子ども家庭部児童青少年課・八王子市市議会 等と課題と今後のあり方について協議する。

まちづくりのアピールポイント

次の時代を担うのは若者である。しかしその若者の声は政策に反映されていない。そこで私たちは、日本でも学生が多い街である八王子市をフィールドとし、青年協議会を作り、若者の声を政策に反映することで、若者が暮らしやすい八王子市にすることを実現したい。そして、その成果を全国の若者に発信することで、八王子市のみならず各地で同じような活動が生まれていくことを目標とする。

世代間交流で村山団地を元気に！

生き生きと生活できる地域づくり

ねらい 高齢者と子どもたちが交流することで団地全体が活性化されることを目指す。

◆メンバー 板垣有乃、落合優人、小峯優太 ◆担当教員 神原理
◆活動のきっかけ 都営村山団地の高齢化

まちづくりの目的・概要

東京都内最大規模を誇る都営村山団地がある武蔵村山市。その武蔵村山市は高齢化が進んでいる。特に都営村山団地の高齢化率は約47%と全国平均の26.7%と比べて圧倒的に高い。また、フィールドワークを行った結果団地内には幼稚園と保育園がそれぞれ2つあることがわかった。そこで私たちは高齢者と子供が交流し、高齢者が元気になると、団地全体が活性化すると考えた。私たちは、レクリエーションという形で高齢者と子供たちとの交流の場を提供する。

効果の見通し

高齢者の方は子供と接することで元気をもらい、心のケアや日常生活の改善（認知症予防など）ができる。子供達は、高齢者と交流することで地元の歴史や礼儀、様々な知識を学ぶとともに、年長者を思いやる心や社会性などを身につけることができる。さらに、子供達のご両親など地域コミュニティを巻き込んで交流することにより、みんなが明るく生き生きとした生活のできる地域づくりのきっかけになる。

継続性の見通し

私たちは、都営村山団地内の幼稚園や保育園と提携して、高齢者と子供とがレクリエーションを通して交流できる場を作り、団地の活性化を促進する計画でいる。レクリエーションは幼稚園、保育園内で月に1度開催し、レクリエーションの内容を毎回変えることで長期的に高齢者と子供達との交流が行えると考えた。将来は、団地内だけでなく市内各地でも活動を行えるようにしていきたい。

先行研究・連携団体

参考文献

曾和光代（2007）「高齢者のプログラムを通してレクリエーションの生活化を図る」『福祉臨床学科紀要』第4号 曾和光代教授退任記念号 神戸親和女子大学 1～9頁

中江文一「認知症高齢者と学童保育の共存、幼老複合施設がもたらす効果とは」『介護ポストセブン』

比留間誠一「村山団地中央商店街の送迎自転車サービス」

まちづくりのアピールポイント

村山団地の高齢者が、レクリエーションを通じて子供達と接することで元気になることが1番の目的である。また、将来、社会で活躍していく子供達にとっては、地域の歴史や文化、人生経験などを高齢者から学ぶことができる。高齢者と子供達がレクリエーションを楽しみ、交流を行うことで団地全体の活性化に繋がると考えている。

帝京プログラミング！

～プログラミングで多摩の子ども改革～

ねらい プログラミング必修化に先駆け、子どもたちがプログラミングを学べる場所を提供する。また、需要のある産業で働く際に必要となるスキルの基礎を習得してもらうことで、職業選択の幅を広げたい。

◆メンバー 福田慎悟、本間寿和、新津健人、武田友梨羽、武内大樹 ◆担当教員 湯川志保

◆活動のきっかけ IT技術者の不足や必修化の流れを知り、子どもたちの学びや職業選択の幅を広げることに助けになりたいと考えたため。

まちづくりの目的・概要

私たちは、2020年小学校のプログラミング教育の必修化に向けて子どもたちにプログラミングに慣れ親しんでもらうことと、将来有望なIT技術者の育成を行いたいと考えている。現在、AI・IT業界が急速に成長している一方、業界で働く人材が不足している現状がある。それに伴い、世界では多くの国でプログラミング教育が実施されているが、日本ではプログラミングを学ぶ子どもは依然として少ない。そこで私たちは、楽しく簡単にプログラミングを学べるソフトを使い、多摩地域の子どもたちにプログラミングを体験してもらう場所を設けることを検討している。

効果の見通し

この企画を実施することで、次のような効果が挙げられる。1つは、2020年にプログラミングが必修化された際にも、子どもたちが苦手意識を持たずプログラミング学習に取り組むことが期待できる。2つ目は、子どもの能力を伸ばし、論理的に物事を考えられる力を養える。3つ目は、将来有望なIT技術者の人材育成ができる などといった効果が期待できると考えられる。

継続性の見通し

AI・IT業界の成長において、プログラミングは重要な技術である。この企画を継続させることで、比較的幼い頃からプログラミングに慣れ親しむ機会や学習の機会を多くもつことが可能となる。長期的には、多摩地域の小学校や児童館等と連携することにより、放課後子ども教室などでも開催したいと考えている。

先行研究・連携団体

参考文献・資料

経済産業省「IT人材の需給に関する推計」

『親子で始めるプログラミング』日経BP社(2016)

『小学校プログラミング教育』小林祐紀(2017)

『Every student in every school should have the opportunity to learn computer science』code.org

連携団体

多摩地域の小学校、児童館、放課後子ども教室等(予定)

まちづくりのアピールポイント

2020年に小学校でのプログラミング必修化が予定されている。この企画は子どもたちがプログラミングに苦手意識を持たずに取り組める準備ができる機会を提供できるとともに、子育て世代が教育費に負担を感じることなく、子どもたちがプログラミングを学べるのが可能となる。この企画を行うことで、教育支援での多摩地域のまちづくりを目指す。

法政大学 現代福祉学部 水野研究室

対象地域：八王子市

成熟化した住宅地における「地域の縁側」の創出

空き家・空き地の有効活用によるコミュニティの保全

ねらい 空き家・空き地の実態と居住世帯の生活上の悩みを踏まえて、「地域の縁側」づくりへとつなげる。

◆メンバー 手島隆博、本多俊斗、高橋拓巳、中山永梨、田熊佳乃 ◆担当教員 水野雅男

◆活動のきっかけ 北野台団地での居住実態調査を経て、片倉台自治会への調査を提案

まちづくりの目的・概要

住宅地が開発されてから40年近くが経ち、当初の入居世帯の核家族化と世帯主の高齢化が進展し、空き家・空き地が散見されるようになってきている。変化を遂げつつある住宅地において、居住環境を保全し、コミュニティを維持する上で、どのような課題を解決しなければならないのか、あるいはどういう施策を講じることができるのか明らかにしていく。そこで今回は片倉台住宅地における調査（調査①班長へのインタビュー調査と調査②居住世帯へのアンケート調査）を行いその結果を自治体に報告し、それを踏まえたコミュニティ保全策を検討するまちづくり協議会を開催する。

効果の見通し

片倉台では自治会で空き家・空き地の調査は行われているが、それらがどのように活用できるか議論がなされていない。そこで私たちが片倉台における空き家・空き地の現状を明らかにしたうえで、外からの視点で新たな空き家・空き地の活用法を提言する。それによって今まで見過ごされてきた地域資源を活用するきっかけにつながり、片倉台住宅地住民に意識の変化をもたらすことができる。

継続性を見通し

2つの調査結果をもとに、住民の方と実現可能な空き家・空き地の活用法（「地域の縁側」のような地域住民が気軽に集まり使えるような空間の設置等）について議論する。その後、この活動を運営する組織を地域住民の中で形成し、長期的な継続につなげる。

先行研究・連携団体

先行研究

北野台団地居住実態調査 根本勝（2016年）

連携団体

片倉台自治会 1,787世帯、うち自治会加入は1,565世帯。14ブロック、91班で構成されている。（2017年7月13日時点）

片倉台自治会館 住所：東京都八王子市片倉町1221-25

まちづくりのアピールポイント

- ①2つの実態調査結果により、現状と課題を把握する。
- ②現在八王子市では成熟化した住宅地が数多くみられる。そうした住宅地では高齢化が進み、コミュニティの維持が難しくなっている。そうした住宅地の解決策のモデルケースを提示する。
- ③自治会の協力を得て、空き家・空き地の高齢者に目を向けた交流拠点としての具体的な活用法を検討する。

第3審査会場 出場団体

ものづくり第1部門 機械・ロボット・ソフト (23号館205教室)

◆キーワード 高齢者、IoT技術

◆対象地域 東久留米市

No.1	亜細亜大学法学部 平井ゼミ 2班・東京工業高等専門学校電子工学科 水戸研究室
	IoT技術の高齢者福祉の応用

◆キーワード 人工知能, ロボット, 対話システム

◆対象地域 調布市

No.2	電気通信大学 西野ゼミ
	コミュニケーションロボットの開発を通じた地域活性化

ものづくり第2部門 農業・建築・景観 (23号館205教室)

◆キーワード 産学連携, イノベーション

◆対象地域 八王子市

No.1	帝京大学 経済学部・三竝ゼミ
	帝京大学発のヨーグルトによる地域活性化を目指して

◆キーワード ブルーベリー、ウエディング、農地

◆対象地域 八王子市

No.2	法政大学 糸久ゼミ
	ブルーベリーが紡ぐ物語

◆キーワード マーケティング、自然保護

◆対象地域 八王子市

No.3	帝京大学 比佐ゼミ
	ミツバチ自然環境保護プロジェクト

IoT技術の高齢者福祉の応用

工業高専と社会科学大学の連携によるテクノロジーの社会実装

ねらい IoT技術を用いた高齢者の生活改善を促進。

◆メンバー 佐藤 智仁、大久保 直輝、藤田 知大、小泉 仁志、下田 智史 ◆担当教員 平井文三
◆活動のきっかけ 東京工業高等専門学校の有する技術の社会への適用を図ること

まちづくりの目的・概要

電源を断線せず使用電力を計測できる電力センサや、電力をほとんど使用しない振動センサを用いて、高齢者の生活における電力の使用パターンを収集・分析し、対象者の健康状態の可視化やそのデータに基づく高齢者の福祉・医療サービスの向上を図る。これは近年、多摩地区を中心に増加しつつある高齢者の孤独死や、高齢化に伴った判断能力の低下により引き起こされる事故などの事前防止に資するものと考えられている。

効果の見通し

対象となる高齢者の生活の電力使用量や行動状況を把握することにより、当該生活パターンの改善策を見出し、それを基にした個々の認知症の予防や早期回復の実現を促進し、保険医療サービスや福祉サービスの提供の改善が可能となる。

継続性の見通し

電力センサ等の設置に協力していただく高齢住民に対し、自分たちがどのようなインセンティブを提供できるか、次年度以降にこのプロジェクトを引き継ぐ場合、センサ等の技術面の引き継ぎも的確に行うことができるか、そして対象の高齢者の生活を間接的にあっても知りえてしまうというプライバシーの問題に対する懸念にいかに対応するかなどが継続性における課題となっている。

先行研究・連携団体

〈先行研究〉

- ・山田 恭平、椿谷 亮太、木村 竜士、小林 秀幸、水戸 慎一郎 (2017) 『電力センサと振動センサを用いたオフィスにおける行動パターン推定』
- ・八島 妙子(2014) 『高齢者の生活リズムに関する研究<https://www.obirin.ac.jp/postgraduate/graduate_course/gerontology/thesis/dissertation/7f1296000007cp9c-att/2014f_yashima_3.pdf>』
- ・経済産業省次官・若手プロジェクト(2017) 『不安な個人、立ちすくむ国家～モデル無き時代をどう前向きに生き抜くか～』<http://www.meti.go.jp/committee/summary/eic0009/pdf/020_02_00.pdf> 2017年7月4日アクセス

〈連携団体〉 東久留米市 企画経営室 企画調整課

東久留米市在住の高齢者

まちづくりのアピールポイント

東京工業高等専門学校の有する技術を活用することができれば、一人暮らしの高齢者の生存確認から健康診断、認知症や健忘といった認知障害の予防・それらに伴う事故防止に役立てることが可能となり、高齢者の健康寿命の増加へと繋がられる。行政側としても高齢住民の客観的な生活パターンを把握することにより、社会生活基本調査のような本人記入式の調査では把握しきれなかったデータや、誤って認識されていた生活情報について正確に把握し、高齢者医療や高齢者福祉の担当者で共有できるようになると考えている。このような近未来的なアクティビティは学生が地域社会に貢献できる機会を提供してくれる多摩コンペティションと協力して下さっている多摩地域であるからこそ始められるのである。

コミュニケーションロボットの開発を通じた地域活性化 話し上手&聞き上手なロボットによる生活サポート

ねらい 少子高齢化社会における労働力不足や、独居老人の安全・安心な生活サポートに貢献する。

◆メンバー 香曾我部多門、細川純平、當瀬武 ◆担当教員 西野哲朗
◆活動のきっかけ 研究室内でのディスカッションを通じて本活動が計画された。

まちづくりの目的・概要

近年、ロボットと自然言語で対話することで、種々の情報が得られる技術に対する関心が集まっている。しかし、現状では、ロボットに案内等を行わせる場合には、あらかじめ設定されたシナリオにしたがって説明を行わせている場合がほとんどで、人と実際に対話しているケースはほとんどない。そこで、人と実際に対話しながら、種々の案内を行うコミュニケーションロボットを、地域に根差した活動を通して実践的に開発していく。

効果の見通し

例えば、大学のオープンキャンパスの案内をロボットが自然言語で行うことができれば、高校生やその保護者が大変興味を持たれることが期待される。また、そのようなロボットの動作を確認することで、大学における人工知能研究の成果の一端も垣間見ることができる。一方、本ロボットを開発する学生は、ロボットが実際に案内を行う様子を観察することで、より実践的なコミュニケーションロボットの開発が行える。

継続性の見通し

本対話ロボット開発については、西野研究室で継続的に研究が行われる予定なので、学生の卒業研究や修士研究を通じて、継続的に改良が行われていく。毎年のオープンキャンパスや、学園祭での案内を行わせることで、コミュニケーションロボットとしての完成度を高めていく。そして、十分に完成度が高まったところで、調布市内の商業施設や老人介護施設等でも本ロボットを利用していく計画である。

先行研究・連携団体

IBM Watson を用いて、ロボットの自然言語インタフェースの開発を行っているため、主に、以下の解説論文を参考にしている。

The AI Behind Watson — The Technical Article, AI Magazine - 2010

<https://www.aaai.org/Magazine/Watson/watson.php>

まちづくりのアピールポイント

本提案のロボットは、話し上手であるばかりではなく、聞き上手にもするために、自然なタイミングで相づちが打てるように設計されている。実際に人と対話しながら、自然なタイミングでロボットに相づちを打たせる技術は、他に例を見ないものである。最終的には、人と自然に対話しながら、種々のサポートが行えるような世界初のロボットの実現を目指している。

帝京大学 経済学部・三竝ゼミ

対象地域：八王子市

帝京大学発のヨーグルトによる地域活性化を目指して 私たちのヨーグルトで多摩地域をもっと元気にしたい

ねらい 八王子に立地する帝京大学を中心として進行中の産学連携プロジェクトで開発中のヨーグルトを通じて、多摩地域の企業・団体等とのコラボレーションによる地域振興を提案したい。

◆メンバー 田口晴菜、松橋直之、石渡雅幸、菅野敏樹、栗原優、南部魁星、勝矢慧（以下略、計18名） ◆担当教員 三竝康平
◆活動のきっかけ 帝京大学医真菌研究センター、知的財産センター、東北協同乳業の産学連携プロジェクトにゼミとして参加を要請されたため。

まちづくりの目的・概要

三竝ゼミでは、今年度より帝京大学医真菌研究センターの関水和尚教授、帝京大学知的財産センターの中西穂高教授とともに、関水教授の最新技術（乳酸菌）を用いた帝京大学発のヨーグルトの製品化を、東北協同乳業（福島県）などと協力し、福島のさらなる復興に繋がりたいとの願いも込めつつ、産学連携で分野横断的に取り組んでいます。出発点は「風評被害に晒されている東北の酪農業の支援」でしたが、私たちのプロジェクトは多摩地域の産業、例えば農業等との親和性が強いと考え、その点を中心に地域活性化の視点から検討したいと考えています。

効果の見通し

多摩地域には多くの企業・団体が立地しており、製造業に留まらず、農業においても様々な取り組みを実施している企業・団体が多く存在しています。私たちのプロジェクトが本格化し、ヨーグルトの流通が軌道に乗った場合、それは多摩地域に立地する帝京大学発のヨーグルトとして認知され、多摩地域の企業・団体とのコラボレーションを通じて、継続的かつ効果的に多摩地域の経済への貢献ができると確信しています。特に、多摩地域の農業は衰退傾向にあり、少しでも元気にできるお手伝いができればうれしいです。

継続性を見通し

私たちが開発に携わっているヨーグルトは、単年度での販売ではなく、発売後、様々なチャンネルを通じて継続的に販路の拡大を予定しています。したがって、本プロジェクトとのコラボレーションが多摩地域の企業・団体との間で実現できた場合は、継続的な販売が見込めるため、多摩地域の経済に対して、継続的な貢献が実現できるのではないかと見込んでいます。

先行研究・連携団体

現在のところ、本プロジェクトは私たちのゼミ以外では、帝京大学医真菌研究センター、知的財産センター、東北協同乳業が組織横断的な産学連携という形で関わっています。また、2017年6月28日（水）～30日（金）まで東京ビッグサイトで開かれたバイオテックアカデミックフォーラムにも出展し、私たちのゼミ生の有志も参加しました。
詳細 URL : https://www.teikyo-u.ac.jp/news/2017/0711_6507.html

まちづくりのアピールポイント

私たちの取り組みは、「産学連携」「東北復興支援」「多摩地域の経済活性化」とキーワードは色々ありますが、最も強調させて頂きたい点は、これは「机上のプラン」ではなく、色々な人たちや組織が力を合わせながら、いま、実際に進められているプロジェクトであるという点です。私たちのプロジェクトは現在進行中で未完成なものです。しかし、私たちの発表を聞いてくださった多摩地域の大学、自治体、業界団体、企業の皆様の中で少しでも興味を持ってくださった方がいらっしゃれば、是非、多摩地域の未来のために一緒に頑張らせて頂きたいと思っています。

ブルーベリーが紡ぐ物語

ブルーベリー×ウエディング

ねらい 農地の活用と継続可能なまちづくり

◆メンバー 山田耕大、菊地元哉、松田成美、藤井紗和、富田菊乃、綱川愛理 ◆担当教員 糸久正人
◆活動のきっかけ 地域のブルーベリーを使ったビジネスモデルをゼミ活動で考え、提言したこと。

まちづくりの目的・概要

農地の多い大学周辺地域が、どのようにすれば地域活性化するのでしょうか。その事例として、地域のブルーベリー農園での農作業を通じ、ブルーベリーでのビジネスモデルを考えました。そこで、ブルーベリーと相性のいい結婚をテーマに、ストーリーを売るビジネスモデルを私たちは提言します。人口減少が進む地域と未婚率の上昇という社会問題をかけあわせて、結婚という糸口からまちづくりを考えました。

効果の見通し

まずは、人びとが多摩地域に来てもらうきっかけを創出できると考えられます。商品の委託先も地域の業者に依頼をすることで、地域全体で盛り上げることが期待でき、農業と結婚という新しいブランドを作ることで、それ自体が地域のブランドとなる。いままで農地に目を向けることのなかった非顧客層がこのイメージにより、引き込むことができるため、新しい市場を創出できる可能性があると考えています。

継続性を見通し

利益を見込むことのできるビジネスを提言することで、ボランティアではない担い手がうまれるため、継続が可能になります。そのためブルーベリーと結婚のブランド化を進め、地域が聖地化するため新たなストーリーをつなぐことを目標とします。ひとつのきっかけをおくことで、ウエディング関連の市場規模は大きいいため、そこから地域力が働き、地域活性化にもつながるのではないだろうかと考えます。

先行研究・連携団体

- ・法政大学多摩地域交流センター 「ブルーベリー農園をつくろうプロジェクト」への紹介
- ・ローズベリーファーム（八木さん）ブルーベリー農業体験提供、ビジネスモデルのブラッシュアップ協力

まちづくりのアピールポイント

実際に農作業を体験したことや、農地の方とお話したことで現場レベルでビジネスを考えています。この他にも、農地の方と実際に商品開発プロジェクトも進行しているため、より現場にあったビジネスを創造したいです。新たな価値の創造により、地域のブランド化を進め、地域の魅力づくりに貢献したいです。現在衰退が進む農業において、新たなビジネスモデルを考えることで、生産だけの物売りビジネスではない、今後の新たな利益を見込める農業ビジネスを創出したいです。

帝京大学 比佐ゼミ

対象地域：八王子市

ミツバチ自然環境保護プロジェクト

ミツバチとの共存

ねらい ミツバチが住みやすい街と自然

◆メンバー 北田悠太、江副貴顕、後藤真由、中尾亮介、紺野稀平、松田善徳、須山涼太、三浦裕太、福田雅季、杉田恭一、鈴木康平、小泉一輝、金沢賢真、南条太、野島みぎ、米津雄太、春山美稀、池田聖菜、佐藤将平 ◆担当教員 比佐優子

◆活動のきっかけ 前年度までのゼミの活動を引き継ぎ、日本の養蜂業の現状を変えたいと考えたため。

まちづくりの目的・概要

私たちの活動はミツバチが住みやすい自然環境を保護し、ミツバチが集めたハチミツから得られる効果を地域の幅広い年齢層に広めていくのが目的です。現在日本の養蜂業は衰退しつつあります。原因は農薬使用や伐採によるミツバチが住みやすい自然環境の破壊に伴うミツバチの減少です。ですが、ミツバチの自然環境や農業に与える影響は絶大であり、これらの現状が未だ知られていないのが事実です。そのためミツバチが集めた国産ハチミツの作成・販売、ハチミツを使ったハチミツ石鹸を作成・販売をし、それらを通しミツバチが住みやすい自然環境への理解を広め、ミツバチや自然環境の保護に繋がっていきたいと考えています。

効果の見通し

ミツバチが住みやすい自然環境への理解、またそれを通じた環境保護への意識を地域全体で高め、またハチミツから得られる効果や国産ハチミツの良さを広めることでハチミツの生産量・消費量の増加に繋がれると考えています。ミツバチへの理解を広めることで減少傾向にあるミツバチの量を増やし、衰退しつつある養蜂業の協力になれると考えています。

継続性の見通し

私たちの活動は、ミツバチの生態環境の改善を通して持続可能な自然環境を取り戻すことを目標の一つとしています。ミツバチによる自然受粉の減少を食い止めるとともに、多摩地域で採れる季節ごとのハチミツを多摩地域のブランドハチミツとしていくことも視野に入れていきます。

ミツバチの女王蜂は4年ほど生きるとされており、その間に新しい女王蜂が生まれることも考慮すると、十分に継続できるプロジェクトであると私たちは考えます。

先行研究・連携団体

○国営昭和記念公園

数年前からハチミツに関するプロジェクトを共に行っています。多摩地域の季節ごとにかわる植物から採れるハチミツを独自にブレンドし国産ハチミツとして販売を行ってきました。またハチミツに関するイベントなどを公園内で実施するといったような会議も進んでいます。

○竹内養蜂

ハチミツやミツバチに関する専門的な知識などを教えていただいています。

まちづくりのアピールポイント

このプロジェクトのアピールポイントは、実現可能性の高さにあります。自然環境を利用した特別な技術を必要としないプロジェクトであるという点も理由の一つですが、実際に昭和記念公園と共に進めていることや、竹内養蜂などハチミツ・蜜蜂の専門家が協力してくださっていることも挙げられます。学生では補えない専門知識などは支援して頂きながら、学生の熱意をもって、このプロジェクトを推進していきたいと考えています。

第3章

本選

多摩の学生まちづくりコンペティション2017

2017年12月16日（土）

会場 国営昭和記念公園花みどり文化センター

出場団体

創価大学 経営学部・安田ゼミ teamACT	八王子市
記憶をずっと、笑顔をもっと MCIから始める認知症予防	
実践女子大学 チームトリプルC	日野市
持続可能なコミュニティカフェの展開 ～人々を巻き込む緩やかなネットワークの構築～	
東京経済大学 山本聡ゼミナール、御朱印班	東村山市
村山×寺×御朱印 ～御朱印で地域に愛着を～	
東京経済大学 山本ゼミ、東大和市班	東大和市
ひがしやまとの食の今昔物語 ～多摩の文化を味わい、知ろう！～	
電気通信大学 西野ゼミ	調布市
コミュニケーションロボットの開発を通じた地域活性化 話し上手&聞き上手なロボットによる生活サポート	
中央大学 FLP地域・公共マネジメントプログラム 細野ゼミナール	立川市
立川をより魅力的にするためにらぼーと立川立飛がとるべき戦略 アンケート・ワークショップが示す処方箋	

審査委員

審査委員長	西浦 定継	明星大学 理工学部 総合理工学科	教授
	田辺 隆一郎	八王子商工会議所	会頭
	長島 剛	多摩信用金庫	地域連携支援部長
	堤 香苗	株式会社キャリア・ママ	代表取締役
	澤岡 詩野	公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団	主任研究員
	堀田 昭男	国営昭和記念公園管理センター	管理センター長

開会挨拶

八王子商工会議所 会頭
田辺 隆一郎氏

「第4回 多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2017」本選がいよいよ開催されるわけですが、大勢の皆さま方にお集まりいただき、私からも心からお礼を申し上げます。本日の本選には5大学6団体の方々から、それぞれで有益な考え方を面白くこれからプレゼンをしていただけるということで、大変楽しみです。

少子高齢化による人口減少社会が本当に現実になりました。それぞれの町、それぞれの地域が自分の持っている地域の特性を生かしたまちづくりをしようと熱心になっています。また、その地域の持っている資源を活用して大きな産業力にしていかなければいけない。それぞれが努力をしていかなければいけない時代に入ってきたなと思っています。当然、国も地方創生を最重要政策のひとつとして力を入れています。地方創生は、大都市と地方というように考えがちですが、この多摩地域も東京という大都市の中にありながら、決して例外ではないと私は思っています。多摩地域としてもそういう努力はそれぞれの町が行わなければいけません。また、多摩全体でいろいろなことを考えていかなければいけないと思っています。

そういう意味では、この多摩の大学で学んでいる学生の方々は、学生というお立場、そして若いという、そういう視点から町をどう思い、どう変えていくことがいいのか、また、その地域の中に、どういうものづくりを含めた産業力を築き上げていったらいいのかという視点は地域にいる私どもにとりまして大変参考になりますし、また、我々の目を開かせてくれる部分もかなり多いのではないかと思います。

大変期待してます。緊張することなく、率直にそれぞれで勉強したこと、考えていることを話していただければと思います。簡単ですが開会の挨拶とさせていただきます。

会場市挨拶

立川市 副市長
田中 良明氏

本日は、たくさんの学生の皆さん、それからネットワーク多摩の方々、それから審査委員の皆さん、それから会場を提供していただいております昭和記念公園さん、関係各者の協力のもとでこのように「多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2017」の本選が開催されますことを、本当にお喜び申し上げる次第でございます。

立川市ですが、現在は「にぎわいとやすらぎの交流都市立川」という立川の将来像を定めて、さまざまな事業、施策を展開しているところでございます。施設の老朽化、あるいは人口減少による課題があります。そういう意味では都市基盤整備というのはどうにか落ち着きつつある中で、まだしなければいけない部分もたくさんあるのですが、どちらかというともちづくりはハードの面からソフトの面にベクトルは向いているのではないかと考えています。

立川市の人口は18万でございますけれども、微増状態ではございます。先程、田辺会頭の方から多摩のことを意識しなければいかんというお話がありましたが、この多摩地域というのは人口が420万人を超えるということで、これは都道府県レベルで比較しても静岡県が370万人で、全国で10番目です。そういう意味では、ベスト10に入る人口です。その中で多摩地域をどうするか。多摩地域は30の市町村がありますが、それぞれの町のことを学生の皆さんが思い描いてまちづくりを考えていただくということに関しては非常にうれしく、また、未来にとっても有意義なことだと思います。これからも立川市、あるいは多摩全体のことも視野に入れて、ものづくりは人づくりから始まりますので、これからも研究・調査を重ねていただき、日頃の成果を十分に発揮していただくことをお願い申し上げます、簡単でございますが、挨拶とさせていただきます。頑張ってください。

審査委員長挨拶

明星大学 理工学部 総合理工学科 教授
ネットワーク多摩 常務理事
西浦 定継氏

今日はファイナルのプレゼンということで、各審査委員の方々から評価していただくことになっています。評価項目は幾つかありますが、まずは「オリジナリティー」です。学生らしいオリジナリティーがあるかどうか。次に、「現状分析」です。現状を客観的に分析して、論理立てが組み立てられていてプレゼンされているか。そして「効果の見通し」です。これを行うことにより、どう効果が得られるのかということも評価になるかと思います。最後は、「プレゼンテーション」。

プレゼンテーションという言葉は、本学の学生もそうですが、非常に簡単に皆さん使われていますが、プレゼンテーションというのは、「プレゼントする」です。「プレゼント」というのは「提供する」ということですから、決して自分の言ったことが相手に無理に理解してもらおうというのではなく、こちらからプレゼントするということです。分かりやすく相手に快く受け入れてもらうという意味を持っています。やはりプレゼンテーションというのは言葉で言うよりも、深い意味を持っています。「プレゼン」と簡単に言ってしまいますが、「プレゼントする」、そういうことです。より相手のことを考え、相手が理解してもらえるような形で話すということが大事です。それには、話すスピードや、言葉の分かりやすさ、ビジュアル的に見せることなどを意識しながら発表していただければより効果的だと思います。頑張ってください。期待しています。

本選の様子



開会挨拶 田辺会頭



会場市挨拶 田中立川副市長



質問する審査委員



最終審査会の様子



最優秀賞 創価大学 安田ゼミ



懇親会の様子

第4章

本選・プレゼンテーション概要

多摩の学生まちづくりコンペティション2017

創価大学 経営学部・安田ゼミ teamACT

最優秀賞

記憶をずっと、笑顔をもっと

MCIから始める認知症予防



- ◆メンバー 齋藤彩音、西村秀美、中元慎悟、澤田裕介、下園未来、寺田美咲、安川信成
- ◆担当教員 安田賢憲

発表概要

認知症の予防を促進するための chatbot の提案を行った。認知症の予防に着目した理由は、メンバーの祖父母の実体験にある。今後深刻化する認知症のあたえる社会的影響に着目し、それを少しでも削減するべくプロジェクトを開始した。様々な機関へ情報収集をする中で、認知症について、そして認知症のリスクを下げる事が可能であることを学んだ。その実態を知るべく路上調査を行ったところ68%の人が予防をしていないことが判明し、その理由として「具体的な予防方法がわからない」が最も高く、認知症への不安や予防への興味があるものの行動に移せていないことが分かった。私たちは、予防を思い立ったときにいつでも手軽にできるスマートフォンに着目し、シニアの利用率が高いコミュニケーションツール「LINE」を用いた chatbot を作成した。この chatbot は運動、脳トレ、食事、豆知識などを知ることができ、通知を通して予防活動を促すものである。実際に2か月間約100名のシニアに利用していただき、chatbot が予防の活動を促すために有効であることが立証できた。今後はこの chatbot を通じ、八王子のシニアに認知症予防の啓発、促進を行っていききたい。

活動の目的

私たちの活動の目的は「シニアに認知症予防を行ってもらうことを通じて、いつまでも自分らしく楽しい生活を送ってもらうこと」である。私たちのチームメンバーの中には認知症の家族がおり辛い経験をしたメンバーがいる。また、祖父母の介護を通じて家庭内トラブルがあったメンバーもおり、「高齢者介護問題」への問題意識が高かった。シニア、そしてその家族が幸せに暮らしてほしいとの強い思いがチームの共通の目的観として浸透している。

活動の内容・様子

活動は授業後や休日に毎日行った。主な内容としてはミーティングや、企業や識者への訪問、シニアとの交流、chatbot の作成・運営・PR 活動である。



活動の成果

成果としては、主に2点ある。1点目にシニアの認知症予防活動に貢献することができたことである。現状100人強ではあるものの、シニアの方に chatbot を使っていただき、予防を行ったことがなかった人に予防を促進することができた。実際に、96%の方が chatbot を通じて予防活動を行い、継続率に関しても通常のアプリケーションよりも高い結果となった。利用者からは「通知が来ると、ついやってしまう」「頭の体操になるのでうれしい」などといった声もいただくことができた。2点目に様々な方や機関から評価を頂くことができたことである。活動を行って行く中で私たちのプロジェクト内容を多くの場で発表させていただき、様々な業種、立場の方からの評価やアドバイスを頂くことができた。それらを今後のプロジェクト活動に活かし、より有意義なプロジェクトにしていきたい。



参考文献

- [1] 厚生労働省「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000064084.html>
- [2] 平成28年厚生労働省「高齢社会白書」
http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/zenbun/28pdf_index.html
- [3] 佐渡充洋「平成26年度我が国における認知症の経済的影響に関する研究」
<http://csr.keio.ac.jp/pdf/2014%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E8%AA%8D%E7%9F%A5%E7%97%87%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E7%9A%84%E3%82%B3%E3%82%B9%E3%83%88%E7%B7%8F%E6%8B%AC%E5%88%86%E6%8B%85%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf>
- [4] 警察庁「平成28年行方不明者の状況について」
<https://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/fumei/H28yukuehumeisya.pdf>
- [5] 佐渡充洋「2014年度認知症社会的コスト総括分担報告書」
<http://csr.keio.ac.jp/cmswp/wp-content/uploads/2015/11/2014年度認知症社会的コスト総括分担報告書.pdf>
- [6] 生命保険文化センター「生命保険に関する全国実態調査」
http://www.jili.or.jp/press/2015/pdf/h27_zenkoku.pdf
- [7] 鳥羽研二「認知症高齢者の早期発見 臨床的観点から」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/geriatrics/44/3/44_3_305/_article/-char/ja/

- [8] 日本予防理学療法学会「認知症予防のための運動効果とこれからの課題」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/rigaku/42/8/42_42-8_104/_pdf
- [9] 認知症患者の現状と認知症対策
https://www.shaho.co.jp/shaho/shop/usr_data/sample/16460-sample.pdf
- [10] 大武美穂子「ウェルネスのためのICT：3. 認知症予防に役立つICT -防ぎ得る認知症にかからない社会に向けて-」
https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/index.php?active_action=repository_view_main_item_detail&page_id=13&block_id=8&item_id=112581&item_no=1
- [11] 「A 2 year multidomain intervention of diet, exercise, cognitivetraining, and vascular risk monitoring versus control to prevent cognitive decline in at-risk elderly people (FINGER):a randomised controlled trial」
http://ac.els-cdn.com/S0140673615604615/1-s2.0-S0140673615604615-main.pdf?_tid=694b3bbe-9df2-11e7-8650-00000aacb35e&acdnat=1505905193_1aedbdf3504d68af06c22be379d45e28
日本語概要 <http://www.rehabilimemo.com/entry/2015/11/23/122930>

担当教員まとめ

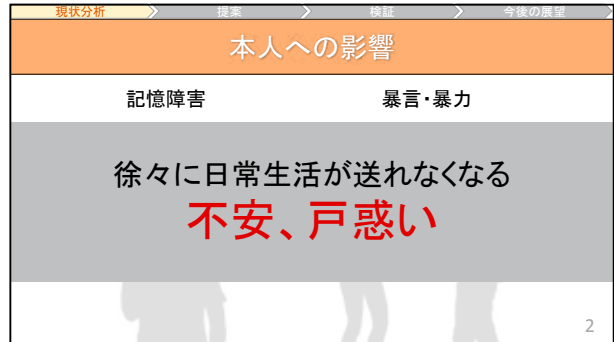
当方のゼミでは経営戦略論を学び、その知識を活用して社会問題を解決する提案を考えることを通して学生の「問題発見力」と「問題解決力」を磨くことを目指しています。そのために、例年、「学生にとって身近な社会問題を取り上げ、学生目線で社会性と事業性のある改善提案を創造せよ」とのミッションを課しています。

その際、①二次情報だけに頼らず、徹底的に足を使って一次情報を収集すること、②仮説検証を繰り返し行い、論理整合性と実現可能性がある提案を考え抜くこと、③チームの成果に全員が貢献し、チームワークを大切にすること、などを大切にしよう指導しています。

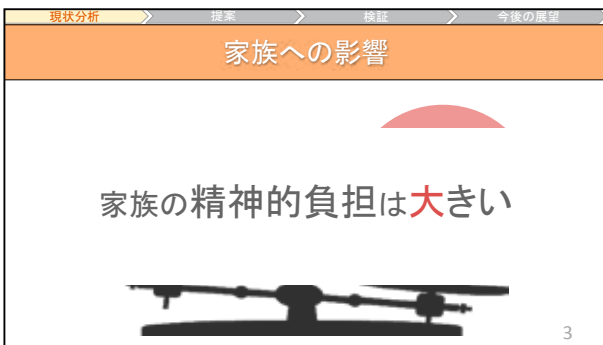
チームACTには認知症を患った家族をもつメンバーが多く、その苦勞を未然に防ぐことを目指して4月よりリサーチを開始。彼らはNPOや行政、専門家、アプリ会社など様々な場所に精力的に足を運び、提案内容を考え抜き、その実現可能性を追求し続けました。今回、彼らの思いや努力がこのように顕彰していただけたことは担当教員として大変嬉しく思いますが、それ以上に多くの方にご支援を賜ることができたからこそその結果であり、ご厚情を賜った全ての方にこの場を借りて深く御礼申し上げたく存じます。また、引き続き、彼らの努力が形になるようサポートしていきたいと思っています。



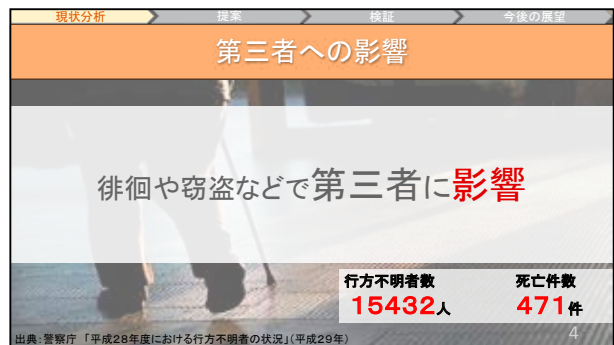
1



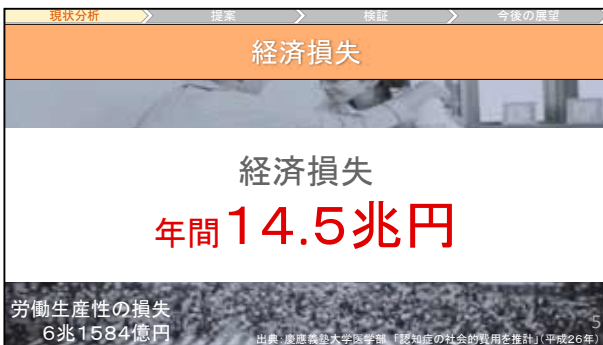
2



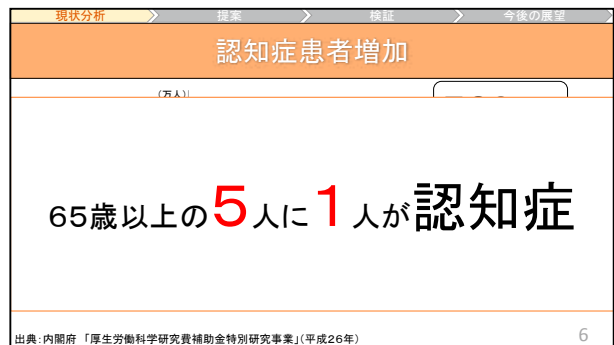
3



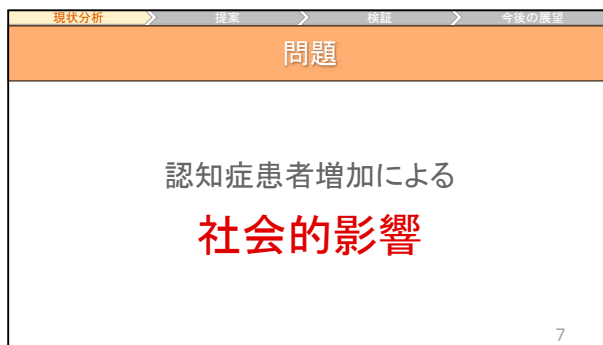
4



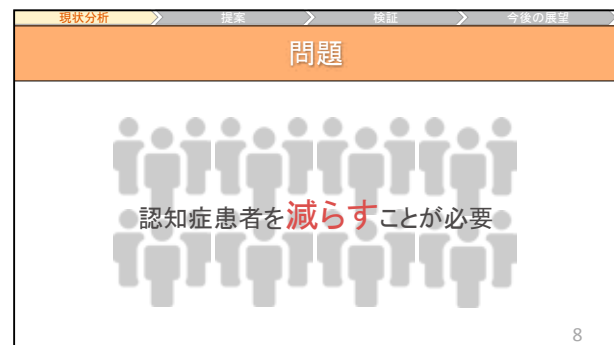
5



6



7



8

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

情報収集

国立長寿医療センター ナーシングケア 渋谷さん オレンジアクト

フィールドワーク **108**回

電話、メール **270**件

アップツリー ウォンツジャパン ころとからの介護予防協会 あいあいクラブ

9

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

認知症患者を減らす方法

治療は困難

予防が可能

10

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

認知症発症までの流れ

健常者 ← 20年前からの予防が必要 → 認知症

原因物質のアミロイドβペプチドが蓄積

時間の流れ

出典:京都市立医科大学「分子脳病態解析学講座」(平成28年)

11

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

MCIとは

認知症ではない ← MCI (軽度認知障害) → 認知症

初期認知症 中期認知症 重度認知症

出典:認知症わっと「軽度認知障害(MCI)とは?」<https://info.ninchisho.net/mci/k30>

12

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

主な症状

年相応以上の...

記憶障害

積極性の低下

効率性の悪化

13

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

認知症発症者数

MCI発症者数は

50~60代にもっとも多い

出典:厚生労働科学研究費補助金特別研究事業「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」(平成26年)

14

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

MCI講座

MCI診断士講座

チーム**全員**が受講!!

NPO法人 ころとからの介護予防協会 小貴様

15

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

八王子市の高齢化

八王子市から活動を開始

約**15万人**

16

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

八王子市の事例

2017年八王子市千人町にて、84歳男性が81歳認知症の妻に睡眠剤を飲ませ、ネクタイで首を絞めをしまして殺害

認知症の介護疲れによる 殺人事件発生

17

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

八王子市の認知症対策の現状

八王子市の取り組み

認知症予防教室
八王子市認知症まるごとガイドブック

シニアの参加率
13%

18

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

独自調査

実施期間: 7~9月
実施場所: 八王子市内
☆路上アンケート
☆コミュニティ参加等

調査人数 = **750人**

19

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

課題

1~4つしている
予防していない
68%

関心があるものの、
行動にうつせていない

Team ACT独自調査 実施期間: 7~9月 場所: 八王子市内 N=683

20

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

原因

具体的な予防方法が分からない
47%

Team ACT独自調査 実施期間: 7~9月 場所: 八王子市内

21

テレビで予防方法を
聞いて1回だけやった

でも忘れてしまった...

22

日々予防方法を
提示してくれる仕組みが必要

23

身近で手軽に持ち運べる
スマートフォンに着目

24



25



26



27



28



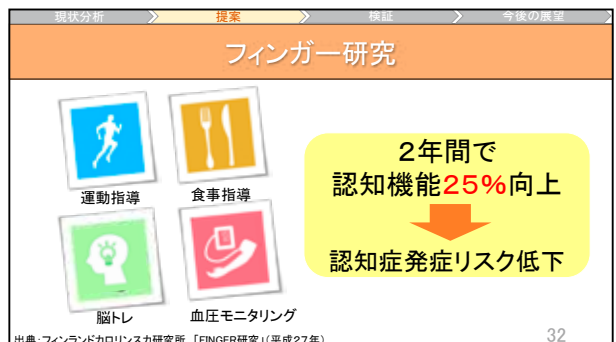
29



30




31



32


現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

評価



シニアにとって、**コミュニケーションを用いて** 予防を行うことは適切だと思う。

日本体力医学会 田中喜代次教授



気軽に予防に繋げることができる素晴らしいアイデアだと思う。

NPO法人こころからの介護予防協会 小貫様

33

33

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

PR活動

- イベント参加
- イベント主催
- ガイドブック・チラシ
- ポスター掲示
- 自前サイト・SNS

34

34

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

PR活動

イベント参加



- あいあいクラブ ゲートボール
- 中野団地 敬老会
- 青陽園夏祭り
- 町内会川掃除

計17件

35

35

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

PR活動

イベント主催

～カレーパーティー～
9月17日(日)
@八王子市中野市民センター

人数: 35名

参加者の90% 予防意識向上



カレー作り 体操 啓発

36

36

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

PR活動

ガイドブック

50冊

500枚

チラシ



37

37


現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

PR活動

ポスターの掲示

八王子クリニック新町 様
清智会記念病院 様
東海大学医学部付属八王子病院 様

自前サイト・SNS



38

38

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

すもあ利用者数



利用者数: 102人
対象: 50~70代 男女
2017年12月現在

39

39

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

検証

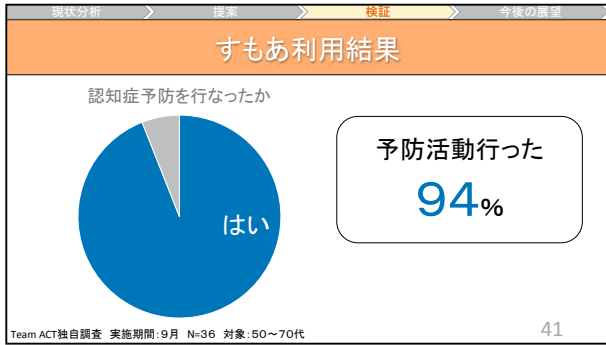
予防の提案を行うChatbotをシニアに利用して頂いた

- 目的: スマホの声かけの有効性を検証
- 対象: 50~70代 男女102人
- 期間: 2017年9月~2017年11月

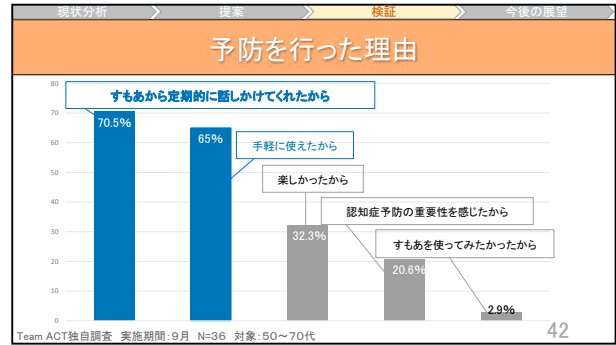


40

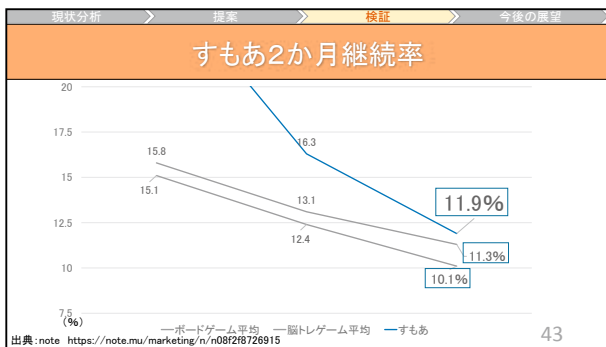
40



41



42



43

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

すもあの強み

コミュニケーションを通して
日々予防を提案する

44

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

今後の工夫

利用継続率向上

利用者拡大

早期発見

45

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

利用継続率向上

一人ひとりに合わせてサービスを最適化(パーソナライズ)

年齢、性別

ライフスタイル

予防履歴

予防方法の提案

ユーザー

46

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

利用者拡大

宣伝依頼

ACT

公的機関

- 市役所
- 地域包括センター

団体・サークル

- シニアサークル
- パソコン教室

47

現状分析 > 提案 > 検証 > 今後の展望

早期発見

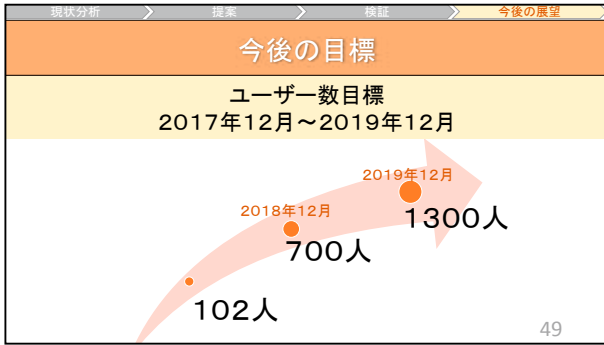
認知症の
疑い発見

認知機能テスト受診

シニア

病院紹介

48



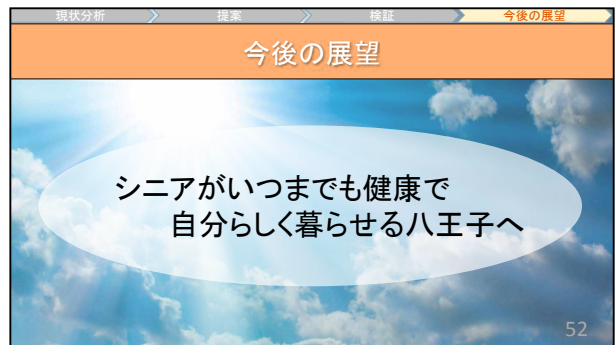
49



50



51



52

参考文献

- 厚生労働省「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000064084.html>
- 平成28年厚生労働省「高齢社会白書」
http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/zenbun/28pdf_index.html
- 佐渡充洋「平成26年度我が国における認知症の経済的影響に関する研究」
<http://csr.keio.ac.jp/pdf/2014%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E8%AA%8D%E7%9F%A5%E7%97%87%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E7%9A%84%E3%82%B3%E3%82%B9%E3%83%88%E7%B7%8F%E6%8B%A5%E5%88%8E%E6%8B%85%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf>
- 警察庁「平成28年行方不明者の状況について」
<https://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/fumei/H28yukuehumeisyaya.pdf>
- 佐渡充洋「2014年度認知症社会的コスト総括分担報告書」
<http://csr.keio.ac.jp/cmswp/wp-content/uploads/2015/11/2014年度認知症社会的コスト総括分担報告書.pdf>
- 生命保険文化センター「生命保険に関する全国実態調査」
http://www.jili.or.jp/press/2015/pdf/h27_zenkoku.pdf

53

53

参考文献

- 鳥羽 研二「認知症高齢者の早期発見 臨床的観点から」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/geriatrics/44/3/44_3_305/article/-char/ja/
- 日本予防理学療法学会「認知症予防のための運動効果とこれからの課題」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/ngaku/42/8/42_42-8_104/.pdf
- 認知症患者の現状と認知症対策
https://www.shaho.co.jp/shaho/shop/usr_data/sample/16460-sample.pdf
- 大武美穂子「ウェルネスのためのICT: 3. 認知症予防に役立つICT - 防ぎ得る認知症にからない社会に向けて -」
https://psj.iisq.nii.ac.jp/ij/index.php/active/action=repository_view_main_item_detail&page_id=13&block_id=8&item_id=112581&item_no=1
- 「A 2 year multidomain intervention of diet, exercise, cognitivettraining, and vascular risk monitoring versus control to prevent cognitive decline in at-risk elderly people (FINGER): a randomised controlled trial」
<http://acels-odn.com/S0140673615604615/1-2.0-S0140673615604615-main.pdf?tid=69453b-be-8d72-11e7-8650-0000aa303e&eact=1505905193.1ae6df3504d8af08c22be379445e28>
- 日本語概要 <http://www.rehabilmemo.com/entry/2015/11/23/122930>

54

54

-
- Special thanks... ☆
- ・ここらからの介護予防協会
 - ・老年介護学准教授森森先生
 - ・AROUSAL Tech. (株) 佐藤拓哉
 - ・(株)シルバー産業新聞社
 - ・ヤングケアラー協会
 - ・介護者の会
 - ・わたぼうし
 - ・中野デイサービス
 - ・NPO法人はねやすめ
 - ・NPO法人UPTREE
 - ・ぐらんぼくらんま
 - ・ヘリオス(株) 加藤翔一郎
 - ・工学院大学
 - ・青陽園
 - ・インフォム(株) 松瀬啓祐
 - ・アスカレッジ(株) 松尾崇洋
 - ・(株)ウインドミル 守屋卓也
 - ・介護デイサービス
 - ・認知症サポーター講義
 - ・(株)Head waters
 - ・キャンパス
 - ・サードバス
 - ・(株)LORANS 福寿満希
 - ・NPO法人しやく
 - ・八王子支援センター 恩方
 - ・訪問介護士 黒川
 - ・NPO法人アラジン
 - ・(株)御用聞き
 - ・館ヶ丘団地
 - ・デイサービスひまわり
 - ・中野団地
 - ・中野市民センター
 - ・俳句の会
 - ・郵便局
 - ・パソコン教室
 - ・日本電気(株) 野満栄一郎
 - ・アルプス 八王子中野店
 - ・TIS(株)
- 55

55



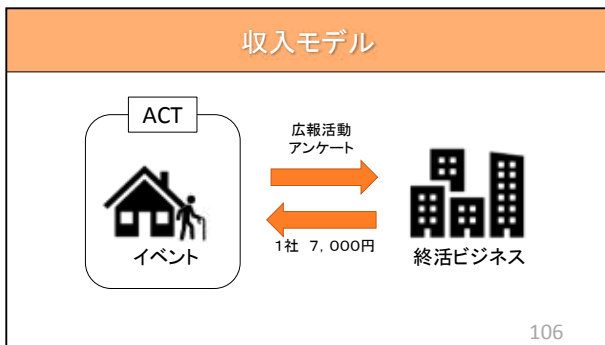
56



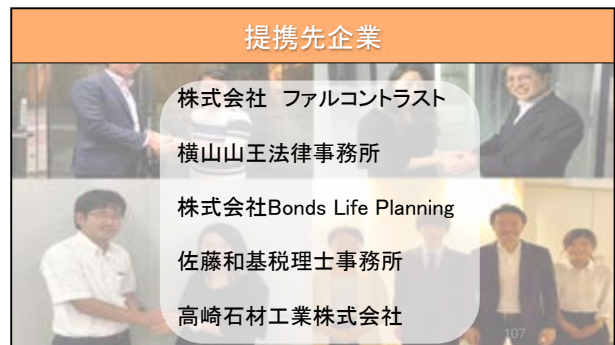
57

費用	
Chatbot登録費	10,000円/月
LINE月額費	5,400円/月
宣伝費	20,000円/月
計	35,400円

58



59



60

審査委員長のコメント

明星大学 理工学部総合理工学科 教授 西浦 定継氏

皆さん、本当にお疲れさまでした。テーマが認知症ということで、非常に良かったです。IT (スマホ) を使ってやることや、非常に幅が広いかなと思いました。プレゼンの最初に5つの絵が出されて、「リンゴ」と「自動車」は思い出したのですが、あと3つが思い出せません。僕も早速、テストを教えてもらってやろうと思います。まだ認知症まではいかないと思っていたのですが、取り組んでみたいと思います。

皆さんのこれからの課題は分かっていると思いますので、継続的にやるのが非常に大事だと思います。幾つかのプレゼンテーションの中で、PDCAでやりますという話をされていましたが、振り返って改善して取り組んでもらいたいと思います。スマホで手軽にできて、それが自分で確認できて早めにやれること。

プレゼンの最初に身近な祖父の話を読まれた学生の話は非常に印象的で、その思いからこのプロジェクトが繋がっているのだと、本当に何か優しさが溢れ出るというか、感動しました。その思いを、これからも若い学生達が持って高齢者の方々のことを考えるということも非常に良かったと思っています。皆さんのそういう気持ちを大事にいただき、かつ、現代的なテクノロジーも駆使しながら、社会問題を解決していくことが非常に大事だと思います。これからも継続的に取り組んでいただき、すぐに成果をとるわけではないと思いますが、継続してもらいたいと思います。本当に良かったと思います。おめでとうございます。

東京経済大学 山本聡ゼミナール、御朱印班
優秀賞

村山×寺×御朱印

～御朱印で地域に愛着を～



- ◆メンバー 横溝裕美、大河原翔、中山博喜、乙村すみれ、渡辺聡美
- ◆担当教員 山本聡

発表概要

本年度は2015年度、2016年度に継続して、東村山市の魅力を地域内外に広める活動を行った。過去の活動の軸であった酒や水といった要素を活かしつつ、今回新たに御朱印・再訪性・回遊性を主軸とし、活動のターゲットを村山地域（東村山市・武蔵村山市・東大和市・瑞穂町）に広げた。7か月以上に渡る活動の軌跡をPDCAサイクルに沿って発表した。まず人口減少を防ぐには地域への来訪者を増やし、食事・土産品などの購入による地域経済活性化が必要と考え、過年度から東村山市の交流人口増加を図ってきた。しかし、その場限りのイベントやツアーには再訪性が無いという課題を克服するため、本年度は御朱印を用いたイベントを2回開催した。また、イベント参加者が村山地域内の寺院を訪れるよう参加者へアプローチすることで、再訪性と回遊性を実証した。イベント開催にあたっては、大学生123人に御朱印に関するアンケートを行い、御朱印による集客が可能であるかどうかを調べ、東村山市役所・大善院・東村山郷土研究会と何度も打ち合わせを行い、念密にイベントの企画を練った。ポスター広告の掲示や市民へ直接呼びかけることで2回のイベント共に定員以上の参加者が集った。

活動の目的

日本全体で人口減少という問題が生じており、多摩地域においても年々人口が減少している。人口減少は、地域内の消費活動の縮小・生産活動の低下につながってしまう。地域経済を活性化させるには、定住人口を増加させる必要があるが、費用や時間の点から難しいため、本研究では、「交流人口の増加」に着目する。交流人口の増加を図ることで、地域経済が活性化する。交流人口を増加するためには、各地域それぞれの工夫や知恵を活かした独自の取り組みを進めることにより地域の魅力を打ち出していくことが必要である。

観光資源の無い郊外地域での交流人口の増加は必要であるのに、既存研究で取り上げられていない。そこで我々は、東京郊外の多摩地域、その中でも東村山市、東大和市、武蔵村山市、瑞穂町といった狭山丘陵周辺の「村山地域」をケーススタディの対象として研究を行った。一昨年度から、交流人口の増加を図ってきたが、「再訪性」をどのように構築するかという課題に直面した。そこで、今年度は交流人口を増加させるための重要な地域資源として寺院に着目した。本研究では、「再訪性」「回遊性」をキーワードとして、昨今若い女性に注目されている「御朱印」を軸に「再訪性が付帯する交流人口の増加」を実証した。

活動の内容・様子

過年度からの継続としてプロジェクトを企画し、今年度は、「御朱印」を軸にしてイベントを行った。「同じ御朱印を二度と手に入れることが出来ない」という魅力から、同じ寺院への「再訪」が見込める。そして、地域内の寺院の数だけ「再訪」を考えることができるので、御朱印には「二重の再訪性」があると言える。さらに、御朱印を集めたいという欲求が働き、地域の寺院を「回遊」させる力があるともいえる。また、イベントを行うごとにアンケートを取ることで、イベント内容を改善していった。PDCAサイクルを意識して継続的に活動していくことで、ツアー参加者からアンケートを通じて「また参加したい」という回答を得ることができた。



活動の成果

8月26日と11月19日に、東村山市の著名な寺院である大善院にて、イベントを企画・開催することができた。イベントの事後アンケートでの満足度が高く、第一回目、第二回目のイベントともに参加して頂けた参加者がいることから、「再訪性」を確認することができた。また、第一回、第二回のイベントともに収益の黒字をだした。PDCAサイクルを回し続け、アンケート調査を数回行ったことで、課題を発見し解決策を考え取り組むことができた。課題解決において、東村山市をはじめとした村山地域の多くの組織と連携した。



参考文献

- [1] アラドナ・クリシュナ (2016) 『感覚マーケティング—顧客の五感が買い物にどのような影響を与えるのか』 有斐閣
- [2] 井上崇通他 (2012) 『リレーションシップ・マーケティング 消費者経験アプローチ』 同友館
- [3] 梅澤伸嘉 (2006) 『消費者心理のわかる本—マーケティングの成功原則55—』 同文館出版株式会社
- [4] 金森剛 (2014) 『共感ブランド 場と物語がつくる顧客参加の仕組み』 白桃書房
- [5] 金森努 (2016) 『最新版図解よくわかるこれからのマーケティング』 同文館出版株式会社
- [6] 鯉淵南友 (2006) 『地ブランド 株式会社博報堂地ブランドプロジェクト』 弘文堂
- [7] 河野まゆ子 『地域社会における神社・仏寺が目指す方向性』 JTB総合研究所
(<https://www.tourism.jp/tourism-database/column/2016/01/shrine-temple/>) (閲覧日2017/09/03)
- [8] 佐藤郁哉 (1992) 『フィールドワーク：書を持って街へ出よう』 新曜社
- [9] 鈴木菜・藤井聡 (2008) 『「消費行動」が「地域愛着」に及ぼす影響に関する研究』 土木学会論文
- [10] 地球の歩き方編集室 編 (2015) 『この御朱印が凄い!』 ダイヤモンド社
- [11] 地球の歩き方編集室 編 (2016) 『御朱印でめぐる関東の神社～週末開運さんぽ～』 ダイヤモンド社
- [12] 畠山仁友・武井寿 (2012) 『パワースポット・ブームを通じた縁結びのコミュニケーション』 飯森義徳
(2015) 『地域づくりのプラットフォーム』 学芸出版社
- [13] 原田保・三浦俊彦 (2013) 『地域ブランドのコンテキストデザイン』 地域ブランド戦略研究推進協議会』
- [14] フィリップ・コトラー他 (2010) 『コトラーのマーケティング3.0 ソーシャルメディア時代の新法則』 恩蔵直人・藤井清美訳 朝日新聞出版
- [15] マーサバレッタ (2003) 『男の常識をくつがえす新マーケティング—「これ買うわ」と言わせる11の提言』 宣伝会議
- [16] 八木透 (2010) 『御朱印ブック』 日本文芸社
- [17] 『新たな多摩のビジョン』 東京都 総務局行政部振興企画課
(<http://www.metro.tokyo.jp/INET/KEIKAKU/2013/03/70n3t200.htm>) (閲覧日2017/09/27)
- [18] 『国土交通白書 平成14年度』 国土交通省
(<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h14/H14/html/E1033102.html>) (閲覧日2017/09/12)
- [19] 『統計メモ帳』 (<https://ecitizen.jp/Population/CityPyramid/13303>) (閲覧日2017/09/03)
- [20] 『都市部、地方部における地域コミュニティの衰退』 国土交通省
(<https://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h17/hakusho/h18/html/H1022100.html>) (閲覧日2017/09/03)
- [21] 『平成27年版情報通信白書』 総務省
(<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/html/nc233100.html>) (閲覧日2017/09/12)

担当教員まとめ

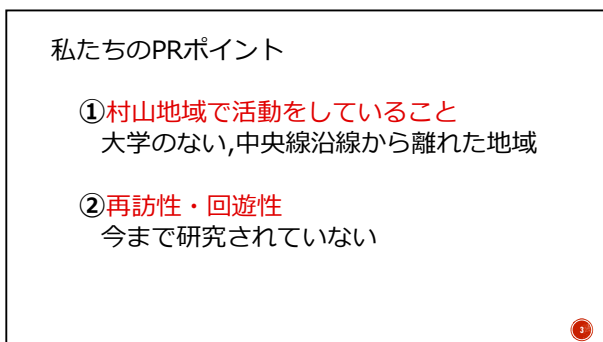
本研究は、過年度のプロジェクトをゼミ内で引継ぎ、「どのように地域の交流人口増加の試みに、再訪性や回遊性を付帯させるか」といった問いを設定しています。ゼミ生は上記の問いかけに対し、「御朱印や寺院の活用」という独自の解答を示してくれました。山本聡ゼミのポリシーでもある「地道な研究活動の継続」を理解し、PDCAサイクルを回しながら、一年間に渡り実践してくれたと考えています。教員の指導の下、ゼミ生は東村山市役所や郷土史研究家、寺院へのヒアリングを何度も繰り返しました。とりわけ、寺院の住職には大変なご指導を頂きつつ、良好な連携関係を構築することができました。イベントは年度中に二回実施しましたが、地道な集客活動を展開した結果、一般市民の方々、数十人に参加して頂きました。この点が、ゼミとして、過年度より最も成長した部分だと言えるでしょう。加えて、イベント終了時には必ずアンケートを実施し、参加者の声をフィードバックもしています。一連の活動の結果、東村山市の市議会議員の方々にもご参画頂くことができました。本研究活動は教員のサポートだけで成しえるものではなく、外部の様々な方々から大変なご支援を賜っています。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。



1



2



3



4

5 問題意識

5

村山地域に注目

東村山市
東大和市
武蔵村山市
瑞穂町

問題意識 研究・調査 提案 村山×寺×御朱印 今後の展望 波及効果・継続性

6

村山地域の人口は減少傾向

村山地域 人口推移

問題意識 研究・調査 提案 村山×寺×御朱印 今後の展望 波及効果・継続性

7

人口減少を防ぐには

地域外からの旅行者や短期滞在者による「交流人口」を増やすことで、食事・土産品等の購入等が行われ、地域経済に貢献することが期待される
総務省(2015)

各地域それぞれの工夫や知恵を活かした独自の取組みを進めることにより地域の魅力を打ち出していくことが必要
国土交通省(2002)

問題意識 研究・調査 提案 村山×寺×御朱印 今後の展望 波及効果・継続性

8

過年度より交流人口の増加を図ってきた

2015年

一昨年度・昨年度
優秀賞受賞

問題意識 研究・調査 提案 村山×寺×御朱印 今後の展望 波及効果・継続性

9

今年度の課題

昨年度まで・・・再訪性がなかった

再訪性の高い交流人口の増加を図る

問題意識 研究・調査 提案 村山×寺×御朱印 今後の展望 波及効果・継続性

10

リピーターの重要性

観光資源のある地方の交流人口増加の方法とは異なり・・・

観光資源がないベッドタウンの交流人口の増加にはリピーターが重要！

問題意識 研究・調査 提案 村山×寺×御朱印 今後の展望 波及効果・継続性

11

12 研究・調査

12

寺院に注目

これまで地域コミュニティの核として機能してきた
河野(2016)

寺院には独自の歴史・文化人をつなぐネットワークがある

問題意識 研究・調査 提案 村山×寺×御朱印 今後の展望 波及効果・継続性

13

御朱印に注目

寺社のご住職や神職の方もしくは担当の職員の方が印を押し
参拝した日付や寺社名を墨書してくれるもの
日本の神社と御朱印(EIWA MOOK発行)

問題意識 研究・調査 提案 村山×寺×御朱印 今後の展望 波及効果・継続性

14

「エピソード記憶」に注目

地域ブランド トライアングルモデル
原田・三浦(2003)

体験・記憶・再生
→ イベント + 御朱印
“思い出してもらおう手がかかり”

問題意識 研究・調査 提案 村山×寺×御朱印 今後の展望 波及効果・継続性

15

ターゲット → 女性

女性を中心とした
伊勢神宮の式年遷宮を契機とした御朱印ブーム
座禅などの仏教に対する体験ブームの浸透
河野(2016)

女性の発信力
女性客はいいと思ったものを広く推奨し高いロイヤリティを示す傾向がある
マーサバレッタ(2003)

問題意識 研究・調査 提案 村山×寺×御朱印 今後の展望 波及効果・継続性

16

外部連携

村山×寺×御朱印

東村山市役所 大善院 東村山市郷土研究会

問題意識 研究・調査 提案 村山×寺×御朱印 今後の展望 波及効果・継続性

17

フィールドワーク

日程	訪問先	日程	訪問先
5月18日	東村山市役所	8月2日	大善院 打ち合わせ
5月24日	多摩信用金庫	8月24日	大善院 チラシ配り
5月26日	東村山市立中央図書館	8月26日	大善院 第一回イベント
6月1日	富士ゼロックス	9月6日	多摩信用金庫
6月7日	栲岩寺 東村山ふるさと歴史館	10月6日	東村山市役所
		10月11日	豊島屋酒造
6月11日	大善院 東村山市郷土研究会 第29回東村山萬葉まつり	10月30日	大善院 打ち合わせ
		11月1日	大善院 チラシ配り
6月21日	露性寺	11月19日	大善院 第二回イベント
7月3日	東村山市役所		

問題意識 研究・調査 提案 村山×寺×御朱印 今後の展望 波及効果・継続性

18

アンケート

7月13日
東京経済大学 1年生 123人対象
質問項目

- ①御朱印を知っていますか？
- ②御朱印を集めたことがありますか？
- ③多摩地域内にある寺院の歴史・文化に興味がありますか？
- ④多摩地域の歴史・文化に興味がありますか？

御朱印, 寺院, 地域の歴史・文化への
興味・関心度を検証

問題意識 研究・調査 提案 村山×寺×御朱印 今後の展望 波及効果・継続性

19

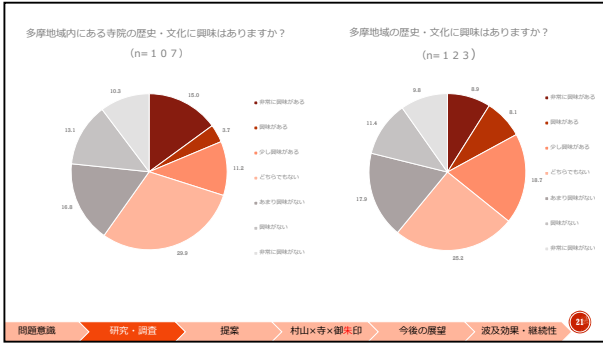
御朱印を知っていますか？ (n=123)

御朱印を集めたことがありますか？ (n=123)

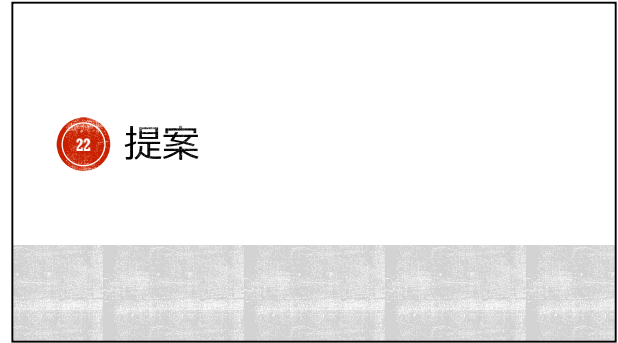
■ 名前もどのようなものなのかも知っている
■ 集めている
■ 名前だけ知っている
■ 集めていないが書いてもらったことがある
■ 名前もどのようなものなのかも全く知らない
■ 集めていない

問題意識 研究・調査 提案 村山×寺×御朱印 今後の展望 波及効果・継続性

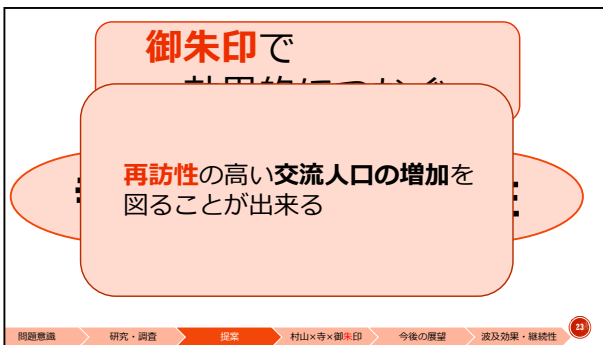
20



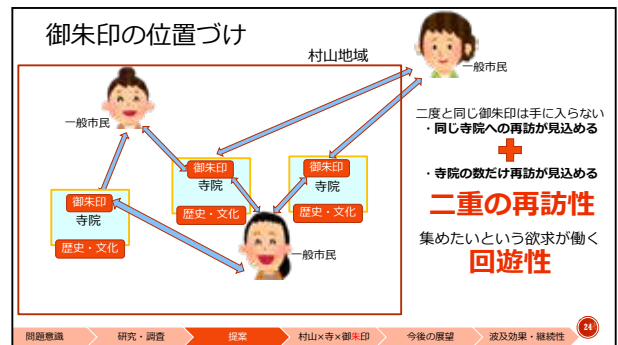
21



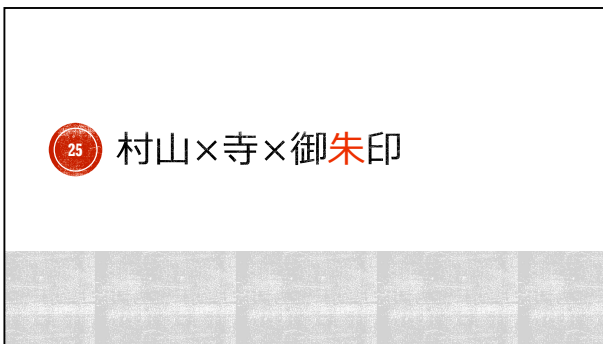
22



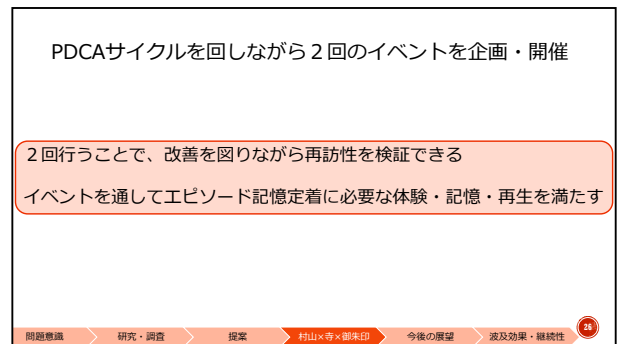
23



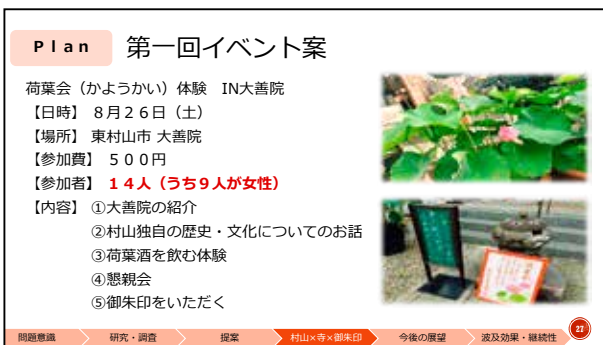
24



25



26



27



28

Do イベント

歴史・文化のお話 荷葉会体験 懇親会

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性

29

Do イベント

御朱印を頂く
寺院での思い出を深めた上でいただくことによってより御朱印に特別感が生まれる

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性

30

Check アンケート

8月26日
荷葉会体験 IN大善院 参加者 13人対象

質問項目

- ①御朱印を集めたことがありますか？
- ②村山地域の歴史・文化に興味を持つことができましたか？
- ③村山地域内にある寺院の歴史・文化に興味を持つことができましたか？
- ④荷葉会の体験を楽しむことができましたか？
- ⑤また、イベントに参加したいと思いますか？

再訪性を検証

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性

31

Check

村山地域にある寺院の歴史・文化に興味を持つことができましたか？

是非にそう思う	48.2
そう思う	30.8
どちらともいえない	15.4
そう思わない	7.7

荷葉会の体験を楽しむことができましたか？

是非にそう思う	78.9
そう思う	23.1
どちらともいえない	0
そう思わない	0

またイベントに参加したいと思いますか？

是非にそう思う	33.8
そう思う	38.5
どちらともいえない	27.7
そう思わない	0

再訪性がある

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性

32

Action 市議会議員が興味を持ってくれた！！

大学のない地域での活動が3年目であることを評価され
東村山市の広報広聴委員会 委員長に広報広聴委員会への参加を求められた

村山 じゅん子様 わたなべ えい子様

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性

33

Action 改善

東村山の優れた地域資源を取り入れたい

豊島屋酒造の日本酒
慶長元年創業、昭和初期に東村山移転
仕込水は、敷地内の井戸から汲み上げている地下水を使用

イベントに化粧水づくり体験を取り入れる

村山×寺×御酒印

一昨年度からの酒と今年度の御朱印
地域資源の組み合わせ

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性

34

Action 壁と克服

11月は寺院と市役所が忙しい

大善院にだけご協力頂けた

イベントに他の寺院の紹介を取り入れることで
自主的に他の寺院へも行ってもらう

二重の再訪性・回遊性を促進

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性

35

Plan 第2回イベント案

豊島屋酒造の日本酒を使った化粧水作り体験 IN大善院

【日時】 11月19日(日)
【場所】 東村山市 大善院
【参加費】 500円
【参加者】 13人 (うち10人が女性) 5人が再訪
【内容】 ①観光キッズから大善院についてのクイズ
②ご住職からお釈迦様の話 読経体験
③化粧水作り体験
④他の寺院の紹介
⑤御朱印をいただく


問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性

36

Do 集客

信頼性の向上

市議会議員のFacebookに掲載 写経会にて宣伝・チラシ配り



問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性

37

Do イベント



観光キッズからクイズ 読経体験

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性


38

Do イベント

豊島屋酒造の日本酒を使った化粧水作り体験

理由

- ①女性がターゲットであること
- ②思い出させる手がかりにつながる



問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性

39

Do イベント

他の寺院の紹介

梅岩寺 正福寺 徳蔵寺について
特徴や御朱印などを写真とともに紹介

#村山×寺×御朱印でのSNS投稿を勧める



問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性

40

Do イベント

御朱印を頂く

寺院での思い出を深めた上で頂くことによってより御朱印に特別感が生まれる



村山 じゅん子様

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性

41

Check アンケート

11月19日
豊島屋酒造の日本酒を使った化粧水作り体験 IN大善院 参加者 13人対象

質問項目

- ①前回（8月26日）苺葉会のイベントに参加されていましたか？
- ②その後、大善院や村山地域（東村山市・武蔵村山市・東大和市・瑞穂町）の寺院に訪問しましたか？
- ③今回のイベントはどのように知りましたか？
- ④他の寺院の紹介を聞いて、その寺院へ訪問したいと思いましたか？
- ⑤日本酒を使った化粧水作りの体験は楽しむことができましたか？
- ⑥また、このようなイベントに参加したいと思いませんか？

再訪性を検証

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性

42

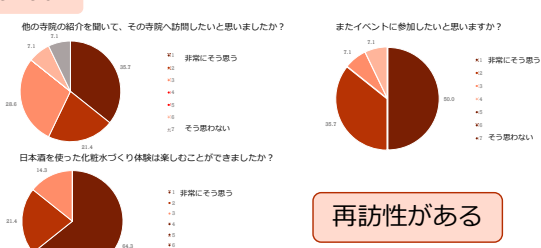
Check

他の寺院の紹介を聞いて、その寺院へ訪問したいと思いませんか？

またイベントに参加したいと思いますか？

日本酒を使った化粧水づくり体験は楽しむことができましたか？

再訪性がある

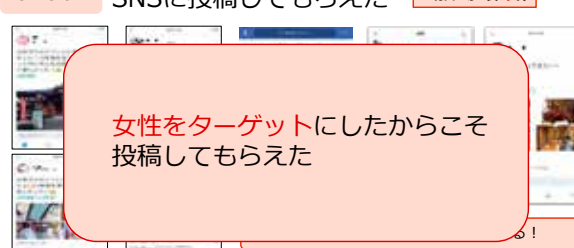


問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性

43

Check SNSに投稿してもらえた #村山×寺×御朱印

女性をターゲットにしたからこそ投稿してもらえた



問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性

44

Check 2回のイベントの振り返り

イベントの黒字

費用計算
第1回目イベントの利益1598円
集金(13名×500円)=6500円
班員からの集金(5名×500円)=2500円
1598円+6500円+2500円
-(御朱印代4500円+備品代5824円)
=274円

再訪性を実証できた

学生による活動だからこそ可能

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性 45

45

Check 2回のイベントの振り返り

イベントの黒字

第2回イベント参加者13人のうち
5人(うち女性2人)が
第1回イベントにも参加

第2回イベント参加者のうち
第1回のイベント後に
ほかの寺院へ行ったという方1人

再訪性を実証できた

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性 46

46

Check 2回のイベントの振り返り

第1回イベントは市役所や大善院に頼る部分が多かった

↓

成長

第2回イベントは学生主体で運営することが出来た

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性 47

47

48

今後の展望

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性 48

48

Action 今後の展望

村山地域の寺院全体を視野に入れたイベントの企画・開催



二重の再訪性
回遊性

➔ ポテンシャルが高い

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性 49

49

50

波及効果・継続性

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性 50

50

波及効果・継続性

多様な外部連携を活かし継続的に大きな活動ができる

御朱印を用いることによる再訪性

二重の再訪性
回遊性

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性 51

51

私たちの成長：今までとこれから



201

2016

問題意識 → 研究・調査 → 提案 → 村山×寺×御朱印 → 今後の展望 → 波及効果・継続性 52

52

参考文献

- ・ 梶野伸彦 (2006) 『消費者心理のわかる本—マーケティングの成功秘訣55—』 同文館出版株式会社
- ・ 金森寿 (2016) 『最新版図解よくわかるこれからのマーケティング』 同文館出版株式会社
- ・ フィリップ・コトラー 他 (2010) 『コトラーのマーケティング3.0 ソーシャルメディア時代の新法則』 徳蔵直人・藤井清英訳 朝日新聞出版
- ・ 藤原直史 (2006) 『地アランド 株式会社神楽坂地アランドプロジェクト』 弘文堂
- ・ 地域の歩き方編纂室 編 (2015) 『この神楽坂の歩き方』 タイムズ社
- ・ 地域の歩き方編纂室 編 (2016) 『御朱印でわかる開帳の神々—道と開帳のまぼろし—』ダイヤモンド社
- ・ 丸木通 (2010) 『御朱印アゲル』日本エッセイ
- ・ マーサ・ベレッタ (2003) 『旅の楽しみをくぐらせる新マーケティング—「これ買おう」と言われる11の技法』 筑地会議
- ・ 原田伸・三浦俊彦 (2013) 『地アランドのコンセプトデザイン』地アランド戦略研究協議会
- ・ 高山仁夫・武井孝 (2012) 『パワーポイント・ブームを逃した縁起のコミュニケーション』 教養文庫 (2015) 『地アランドづくりのプラットフォーム』 学芸出版社
- ・ アラド・クリシュナ (2016) 『感覚マーケティング—顧客の五感に訴へるものによる影響を与えるのか』 有実閣
- ・ 井上明雄他 (2012) 『リレーションシップ・マーケティング 消費者経験アプローズ』 同友館
- ・ 金森寿 (2014) 『地アランド 場と物語がつくる顧客参加の仕組み』 白桃書房
- ・ 鈴木実・藤井聡 (2008) 『「消費者行動」が「地域発展」に及ぼす影響に関する研究』 土木学会論文集

53

参考文献

- ・ 『都市部、地方部における地域コミュニティの発展』 国土交通省
(<https://www.mlit.go.jp/nakusagj/milit/11/jishusaku/11a.html#11022100.html>) (閲覧日2017/09/03)
- ・ 『統計メモ帳』 (<https://eclizen.jp/Population/City/Pyamid/13303/>) (閲覧日2017/09/03)
- ・ 河野まゆ子 『地域社会における神社・仏教が目指す方向性』 訂正協会研究所
(<https://www.kouren.jp/tourism-database/column/2016/01/shrine-temple/>) (閲覧日2017/09/03)
- ・ 『平成27年版情報通信白書』 総務省
(<http://www.soumu.go.jp/aimg/sintoketoi/whitepaper/ja/h27/html/nc233100.html>) (閲覧日2017/09/12)
- ・ 『国土交通白書 平成14年度』 国土交通省
(<http://www.mlit.go.jp/nakusagj/milit/h14/h14.html#IE1033102.html>) (閲覧日2017/09/12)
- ・ 佐藤郁雄 (1992) 『フォーマル・ドワーク：誰を持って御へよう』 新潮社
- ・ 『新たな多摩のビジョン』 東京都 池袋長行政部振興会編
(http://www.metro.tokyo.jp/NET/KEIKAKU/2013_03_70n3200.htm) (閲覧日2017/09/27)

54

御朱印と歩き回り
一回り大きく！

ご清聴ありがとうございました




東京経済大学 山本 聡ゼミ 御朱印班
村山×寺×御朱印

55

審査委員のコメント

多摩信用金庫 地域連携支援部長 長島 剛氏

皆さま、お疲れさまでした。最初に、「大学のないところで私たちやりました」というコメントに心打たれまして、皆さん対象地域が立川と八王子になってしまっているところ、そうじゃない地域に視点を合わせていただいたのにすごく感銘を受けました。

山本ゼミの特徴ですが、3年目にして毎年毎年積み上げて、先輩たちの話をしっかり聞いて次の代につなげていくというのがいいと思いました。少し気になったのは、「有名な観光スポットが多摩地区にはない」と言われことに心外だなと思ひまして、「いっぱいあるじゃないか、もうちょっと調べろよ」と思ひました。

それから、とても良かったことが「SNSでやってみたけど駄目だった」と言ひていて、実際に学生達でチラシを配ったり、ポスター貼ったりしてみたら結構良かったと話があつて、「あつ、そこだよ」と思ひて、もう少し深掘りしてきてくれると更にいいのではないかと思ひました。

最後に、これは1・2カ所のお寺さんでやっただけで、市役所とか商工会議所とかが忙しいというのは嘘ですから、もう少し一緒になつて、ぐいぐい突っ込んでいってあと3つ、4つやってくるとか、5つ、6つやってくるということができてくると、いいのではないかと思ひています。将来性を感じました。来年も頑張ってください。おめでとうございました。

電気通信大学 西野ゼミ

優秀賞

コミュニケーションロボットの 開発を通じた地域活性化

話し上手&聞き上手なロボットによる生活サポート



◆メンバー 香曾我部多門、細川純平、當瀬武 ◆担当教員 西野哲朗

発表概要

日本社会の高齢化に伴って、見守りサービスに対する需要が高まってきているが、既存の見守りシステムは見守る側の視線で開発されているものが多く、コミュニケーションの自然さを重視していないという課題がある。そこで本グループは自然なコミュニケーションのできる見守りロボットを実現するため、「話し上手」「聞き上手」という観点でロボットを作成した。「話し上手」に関してはIBM Watsonを利用して話し手の意図を汲み取ることができる機能、「聞き上手」に関しては独自のアルゴリズムを使用し、適切なタイミングで話に相槌を打つことができる機能として実装を行った。この機能をロボットNAOに組み込み、実際に電気通信大学の学園祭の案内のデモができること、話し手の話に合わせてちょうどいいタイミングで相槌が打てることを実証した。このロボットの開発研究は来年度以降も引き続き行われていき、将来的には調布市内の商業施設や老人介護施設に導入し、活用することを企画している。

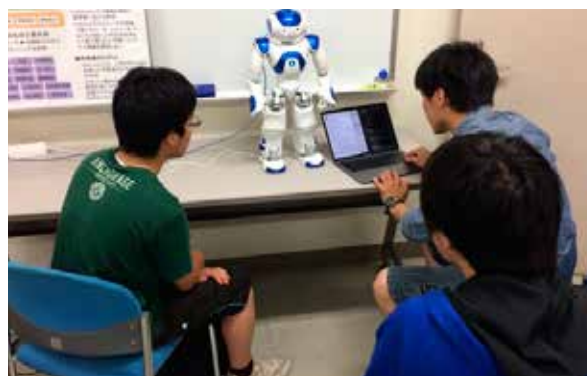
活動の目的

既存の自然言語でコミュニケーションをとる見守りシステムは、あらかじめ設定されたシナリオに沿った対話しかできないことや、言葉の曖昧性に弱いという問題点がある。この問題を解決するような自然なコミュニケーションという点を重視した見守りロボットを実現することが、本提案の目的である。具体的には、人の話を相槌を打ちながら聞いて理解する「聞き上手」、人の話の意図を把握しながら話を進めていく「話し上手」、という二つの機能を開発し、自然な対話が可能な見守りロボットとして実装を行う。最終的には、日常的に寄り添う見守りロボットとして人と自然なコミュニケーションをとりながら、種々のサポートが行えるようなロボットの実現を目指す。

活動の内容・様子

今回の聞き上手ロボット・話し上手ロボットは、それぞれ、独立に企画、開発を進めていった。

開発を進めていきつつ、本学で行われたオープンキャンパス(7月と11月)において、本研究室について案内するロボットとして紹介した。高校生をはじめとする、来室して下さった方々に、話を聞いていただき、実際にシステムも体験していただいた。



それぞれのシステムの有効性を確かめるため、動作確認と、デモ動画の撮影を行った。

活動の成果

今回の活動によって作られたロボットは、決められたシナリオに沿った対話ではなく、聞き上手ロボットは、ユーザーの自由な発話に対し、適切なタイミングで相槌を打つことが可能となった。また、話し上手ロボットは、ユーザーの質問意図を理解し、ユーザーの欲しい情報をピンポイントで返答することが可能となった。実際に、オープンキャンパスにおいては、高校生の興味に沿って、イベントを案内することができた。

参考文献

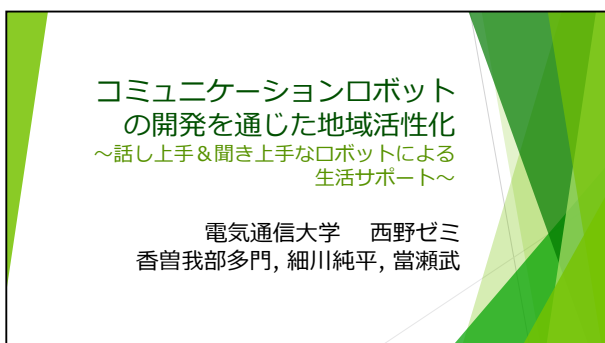
[1] シード・プランニング,「高齢者見守り・緊急通報サービスの市場動向」, 2015

担当教員まとめ

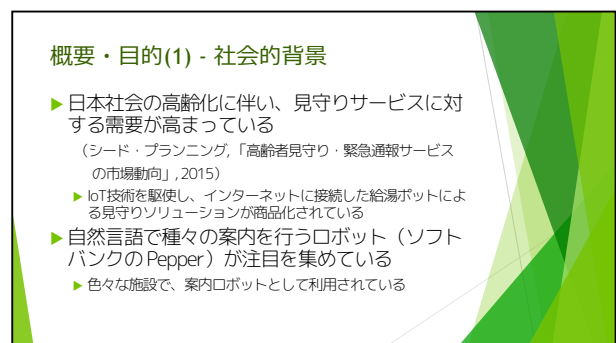
今回、「多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2017」に初参加させていただき、「コミュニケーションロボットの開発を通じた地域活性化～話し上手&聞き上手なロボットによる生活サポート～」と題する発表を行って、優秀賞をいただくことができました。ご関係の皆さまに、深く感謝申し上げます。

具体的な発表内容としましては、アルデバラン・ロボティクス社製の実験用ロボット NAO に、IBM ワトソンを用いて自然言語インタフェースを実装し、自然言語での会話が可能で、人の話に相づちを打つこともできるロボットを実装致しました。技術的には、興味深い観点が多数盛り込まれた成果になっていると思います。学生たちがそれぞれの視点を活かして、ロボットを用いた地域振興の企画を発信しましたが、学生たちは、通常の研究活動では得られない有益な視点を多数得られたと思います。

一方、本提案を「実践的」な企画に練り上げていくには、さらなる時間が必要と思われます。「ものづくり」については、学生たちの専門の研究を追及していくことで、レベルアップが図れると思いますが、「まちづくり」にどのようにつなげていくかについては、研究室の枠を超えて、外部の方々とのディスカッションを行う機会などを設けていかなければならないと感じております。



1



2

概要・目的(2) - 技術的背景・現状

- ▶ 既存の見守りシステムは、コミュニケーションを重視していない
 - ▶ 見守りシステムの多くはカメラやスイッチを利用したものであり、見守りをする側の利便性が考えられていない
 - ▶ 見守られる側の生活は、見守りシステムとのコミュニケーションによって豊かになるのではないだろうか？
- ▶ ロボットと自然言語でコミュニケーションが取れるシステムは、言葉の曖昧性に弱い
 - ▶ 自然な対話でコミュニケーションが取れるようになるのは、もう少し先のことと考えられている

3

概要・目的(3) - 提案

自然な言語コミュニケーションを重視した見守りロボットを実現する

- ・ 人の話を相槌を打ちながら聞いて理解する (聞き上手)
- ・ 人の話の意図を把握しながら話を進めていく (話し上手)

日常的に寄り添う見守りロボットとして自然なコミュニケーションを取ることで、ユーザーとの間に友好的な関係を築いていく

4

聞き上手ロボットの実現

- ▶ 独自開発のアルゴリズムにより、人が打つと同じようなタイミングで相槌を生成 → 話を自然に引き出す効果が期待できる

5

聞き上手ロボットの活用例

- ▶ 従来の対話システムと組み合わせ、応答の種類を切り替えながら対話を進めるシステム

6

話し上手ロボットの実現

- ▶ 人が話している内容から、その人が求めている情報を探り当てて提供するアルゴリズムを開発 → 話の内容が曖昧でも、その意図をAIによって理解することが可能

7

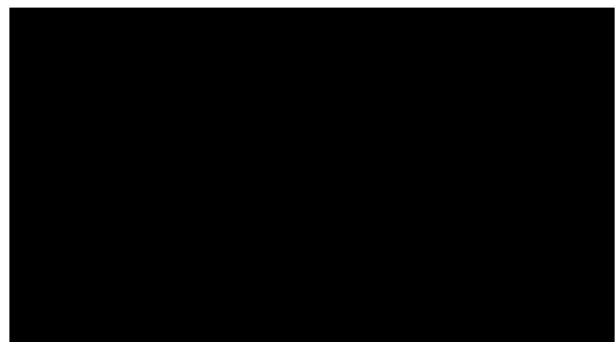
利用する技術

- ▶ NAO
 - ▶ Pepperを開発したアルデbaran社の作成した人型ロボット
 - ▶ 身長58cmの小型ロボット
 - ▶ 自立歩行、音声認識、発話機能を持つ
- ▶ IBM Watson
 - ▶ IBM社の公開している人工知能API群
 - ▶ 言葉のカテゴリ分けを自動的に行う Natural Language Classifier
 - ▶ シナリオベースでの対話を可能にするConversationなどの機能をクラウド環境で提供

8

デモンストレーション動画をご覧ください

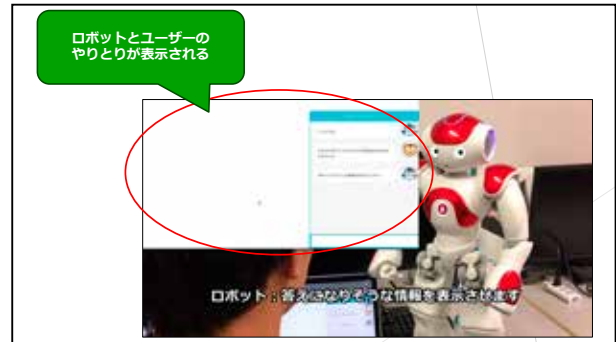
9



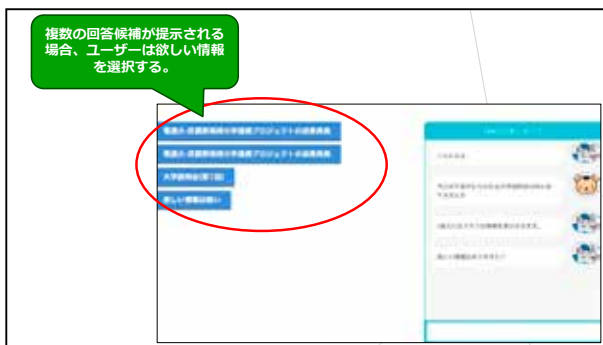
10



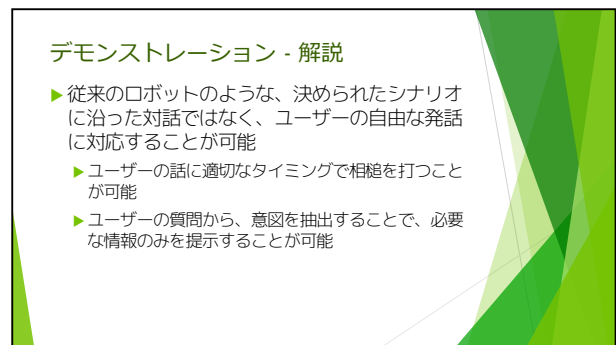
11



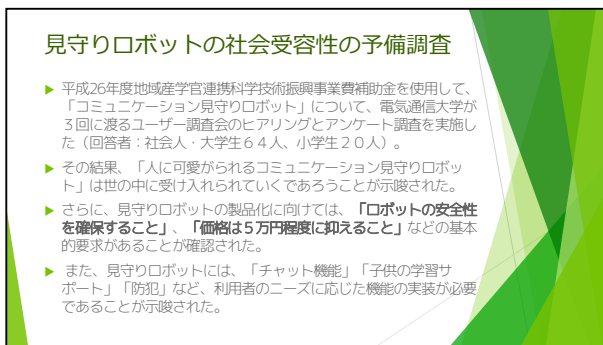
12



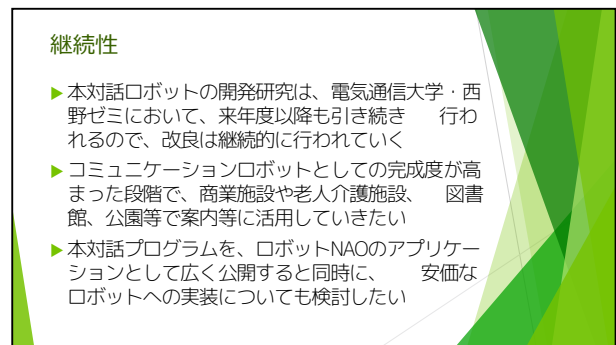
13



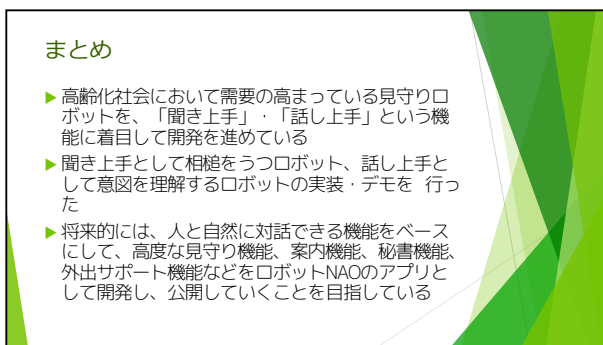
14



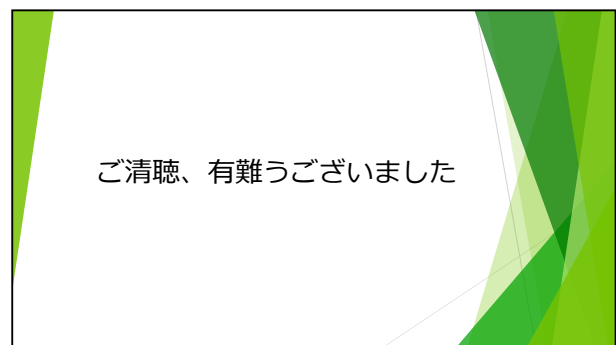
15



16



17



18

審査委員のコメント

公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 主任研究員 澤岡 詩野氏

まずは、皆さん、貴重な、そして素晴らしい刺激をありがとうございました。今日のご報告、皆さんそれぞれにいろんなワクワク、ドキドキを話されました。そこには本当に素晴らしい調査、そして、皆さんの積み重ねがあったのだと思います。今日は、電気通信大学の講評を担当させていただいているので、お話をさせていただきたいと思います。

まず、今の日本社会を考えたときには、「人生100歳」と言われるぐらい寿命が延びています。更に今日のご報告の発表の中にもありました、ICTとか、IoT、そういったものがすごく発展している。それを言い換えれば、今の高齢者をどう捉えればいいのかという、「ICTとかIoTとか、そういう最新のツールを持って年を重ねる初めての人類」と置き換えられるのかなと思います。どんなふうに年を重ねていくのか、そこにどんなに可能性があるのかということは、まだ誰も分かりません。そこに対して果敢に挑戦をいただいたのが、今日のご報告、発表だったと思います。そんな素晴らしい発表の中に、何でこれが最優秀賞にならなかったのか、何が足りなかったのかなと感じるポイントを幾つかお話しさせていただきたいと思います。

まず1つ目は、技術のお話はすごく素晴らしいものをされていたのだと思いますが、その技術の恩恵を受ける市民や高齢者の方というものが、まだちょっと見えていないのかなと感じました。例えば、今、私が調査研究で関わらせていただいている独り暮らしの高齢の方、「見守り」というところの対象になるのかなと思います。この方々は、はっきり「今日何がしたいよ」、「何が調べたいよ」ということよりは、一日の会話の中に多いのは、愚痴だったりすると思います。そういう人の愚痴に対して、的確な反応というより、何かフェジーな相づち、そんなものを求めているのかなと。そういった姿勢をもう少し織り込んでいただけたらなと思います。

それからもうひとつ、今、地域の中で、見守りとか支援されたくないというプライド意識の高い高齢者の方が多いです。今回、コミュニケーションに着目して見守りをするというのは大きな可能性を持っていると思います。この部分をもっともっと突き詰めていただけたらなと思います。

これは発表の内容というよりは、プレゼンテーションになります。私も工業大学を出ているので、工業大学の人たち、特にエンジニアを目指す人たちのプレゼンテーションのもったいなさというのは自ら体感して、少し残念だなと思っているところです。やはり、これからのエンジニアに求められることは、難しい技術を難しく話をするのではなく、その技術がいかに人を幸せにするのか、その夢とか形をいかに素人の人に見せてあげられることなのかなと思います。今日のプレゼンに、もし足りなかったことがあるとすれば、その見守り、そして、このロボットが介在することで、その見守りを求めている高齢者の人たちがどんな笑顔になるのか、どんな幸せなことが起きるのかということをもう少しイメージができるプレゼンテーションをしていただけたら、今日の最優秀賞は違ったかもしれません。ちょっと広げるだけ広げてしまいましたが、すごく難しいことを言っています。私もそれを頑張らなければいけないと思っていることを、今日はお話しさせていただきました。今日は素晴らしい報告、発表ありがとうございました。

実践女子大学 チームトリプルC

奨励賞

持続可能なコミュニティカフェの展開

～人々を巻き込む緩やかなネットワークの構築～



◆メンバー 高橋智聖、土肥早也香、渡辺あさひ

◆担当教員 須賀由紀子

発表概要

私たちは日野市に関わり始めて3年が経ちます。初めは大学へ通うためだけのまちでしたが、地域活動をする中でたくさんの市民の方と出会い、今ではすっかり愛着が持てるまちへと変わりました。そのように感じる事が出来るキッカケになったものが「コミュニティカフェ」の存在です。

憩いの場、交流の場として利用されるコミュニティカフェは地域にとって重要な役割を持つにも関わらず、調査を行うと、コミュニティカフェの持続可能性に問題があることに気づきました。そこで無理なく続ける事が可能になる「暮らし工房」という家庭科をベースにした新しいコミュニティカフェを提案しました。家庭科は年代・性別関係なくだれもが関わる事のできる教科であり、世代間の知識を受け渡すことができます。実際に暮らし工房を私たちが運営し、地域における重要性を改めて理解しました。そして暮らし工房の理念を広めるためのツールとしてカルタを取り上げ、製作することでコミュニティカフェの持続可能性が高まると考えています。

活動の目的

私たちは「日野市が人との繋がりを大切にできる暖かいまち」になって欲しいということを中心に大きな目標としていました。はじめは日野市で一人暮らしをしていたメンバーが孤独を感じ、たくさんの人と関わりたいと思ったのがこの活動の原点です。日野市との関わりによって、地域の方と知り合いになったり、共に活動を行う事で孤独は消え、今ではこのまちに愛着を持つようになりました。この経験より、若い頃からもっと地域と関わって欲しい、なかなか地域活動に出ない方も関わって欲しいと強く思いました。

今回実施した暮らし工房では全ての世代の方が楽しんでおり、このような空間が理想の場だと感じたため、この場を色々な場所に広めていく必要があります。最終的には、様々な場所で暮らし工房の

- 地域の人や自然や生活文化に触れる
- gift-giftな関係
- 何度も帰ってきたくなる

この3つの要素を念頭に場を作ることで出来る暮らしコーディネーターを増やすことを目標にしています。

こういった人たちが増えることこそ、私たちがコミュニティカフェの問題で最も解決したい「持続可能性」を高めることに繋がると考えられます。

活動の内容・様子

コミュニティカフェがどのように運営されているのかを調査するため、日野市内のコミュニティカフェに参画しました。運営している方からカフェを行う際に困っていることなど生の声を集め、それらを分析し、問題点を見つけていきました。

メンバーは少人数ではありながらも授業の空き時間がなかなか取れず、放課後や休み時間、そして休日を利用して取り組みました。中でも、私たちが提案する「暮らし工房」のコンセプトについてはメンバー、教授と話し合いを重ね、納得のいくまで考え抜きました。

暮らし工房を運営する際は学生だけではなく、地域の小学生と作業をしたり、市民の方にアンケートをとり反映させるなど、みんなで作り上げました。



活動の成果

この活動を通して、更に地域の方々と交流する機会が増えたため、改めてこのまちの暖かさに触れることができました。

実際に暮らし工房を運営した際に、私たちがお手伝いしているコミュニティカフェの主催者の方や、以前一緒に活動をしたことのある地域の方なども参加していただき、「とっても意味のある活動だと思う」とおっしゃってくださいました。また、参加者の中でも「また次も参加したい!」「いろんな世代の人と関わることがよかった」との声があり、良いスタートをきる事が出来たのだと思っています。

暮らし工房のようなコミュニティカフェは地域にとって必要な場になり得ると考えられます。



参考文献

- [1] コミュニティデザイン学 その仕組みづくりから考える 小泉秀樹 (2016)
- [2] コミュニティデザインの時代：自分たちで「まち」を考える 山崎亮 (2012)
- [3] 日野市 新しいコミュニティづくり白書
<http://www.city.hino.lg.jp/index.cfm/198,149029,c,html/149029/20170602-122421.pdf>
- [4] ベネッセ教育総合研究所 第5回基本学習調査 データブック
http://berd.benesse.jp/up_images/research/5kihonchousa_datebook2015_p27.pdf

担当教員まとめ

発表テーマ「持続可能なコミュニティカフェの展開」は、日ごろの地道な地域活動の中から生まれた問題意識をもとに、学生が自分たちの学修を活かして構想したアイデアでした。少人数のチーム編成でしたが、そのメンバーでも空き時間を合わせるのが難しく、一人一人の負担も大きく、本選大会までの道のりは大変でした。しかし、何か新しいものを生み出したい、と本当に粘り強く取り組みました。日野市カワセミハウスを会場として行った、トライアルのコミュニティカフェの企画では、準備、PR、当日運営すべてが見事で、子どもからお年寄りまでのつながりをつくる場となりました。今後、この大会をきっかけに考えたアイデアを発展させて、地域の方と協働で、新しいコミュニティカフェの活動を本格スタートさせることになっています。コンペティションでの発表は帰着点ではなく、今後の始まりです。机上のアイデアで終わらせるのではなく、学生と市民が協働して行う新しい地域コミュニティ形成の場を発展させてほしいと願っています。



1



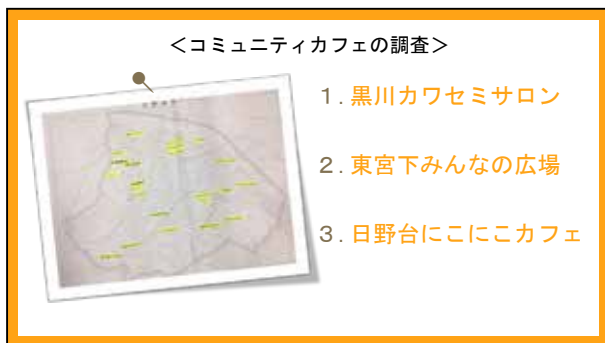
2



3



4



5



6



7



8



9



10



11

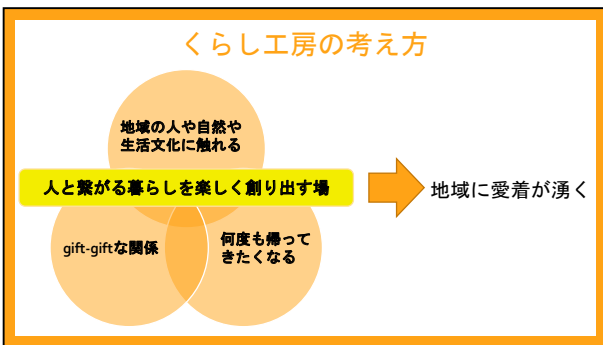
くらし工房のコンセプト

家庭科

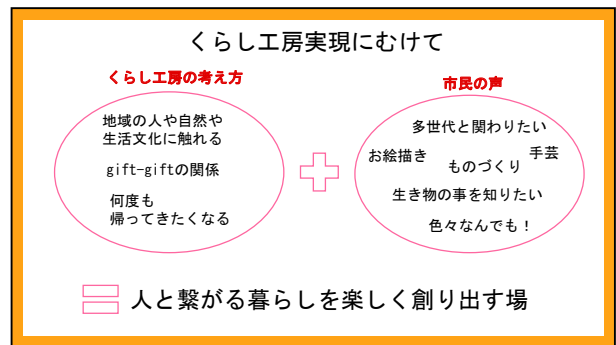
【理由】

- ①小学生の好きな教科No. 1
- ②人と繋がる力が自然に身に付く
- ③誰もが主体的に参加することができる

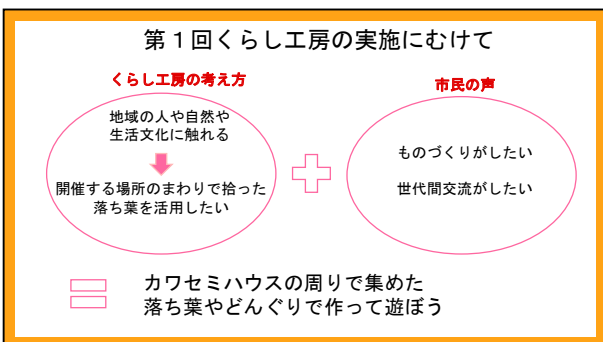
12



13



14



15

日野市立「カワセミハウス」について

環境情報センター

✖

地区センター

<カワセミハウスのねらい>

近隣の豊かな緑と水のロケーションを生かし、日野市ならではの味わいと潤いある豊かな暮らしを創造する拠点

施設を訪れる人々による豊かなコミュニティづくりの拠点

16


第一回くらし工房概要

～カワセミハウスの周りで集めた落ち葉やどんぐりで遊ぼう～

日時：2017年11月18日(土)
14時～16時

場所：カワセミハウス
参加費：無料
対象：小学生を中心に誰でも

内容：①落ち葉、どんぐり、折り紙などを使い自由に自分を作る
②全員でカワセミハウスを木の枝や落ち葉で表現する
③1枚の大きな模造紙に完成した作品を貼り、完成！



17

- 1.現状分析
- 2.提案
- 3.検証
- 4.今後の展望

18

- 準備
- 当日
- 見えたこと

19

準備

・カワセミハウス周辺で子どもたちと落ち葉集め



20

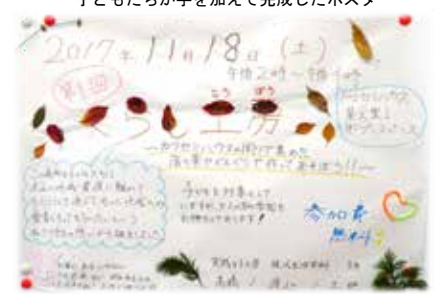
準備

第一回くらし工房のポスター作り



21

子どもたちが手を加えて完成したポスター



22

当日

地域の自然に触れながら創作を楽しむ時間



23

当日

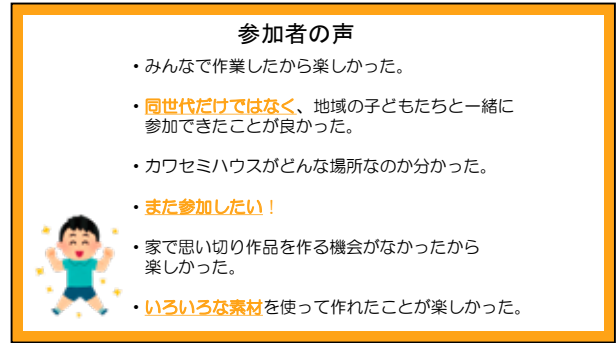
自然に生まれた世代間のgift-giftな関係



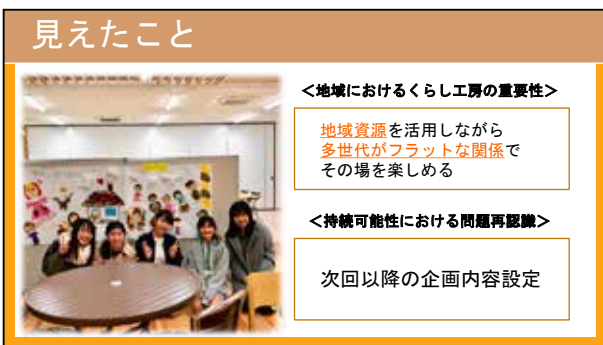
24



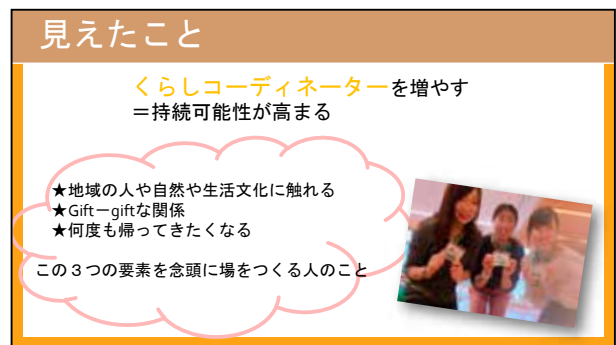
25



26



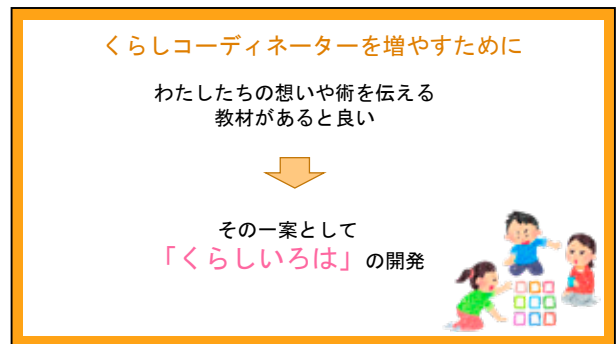
27



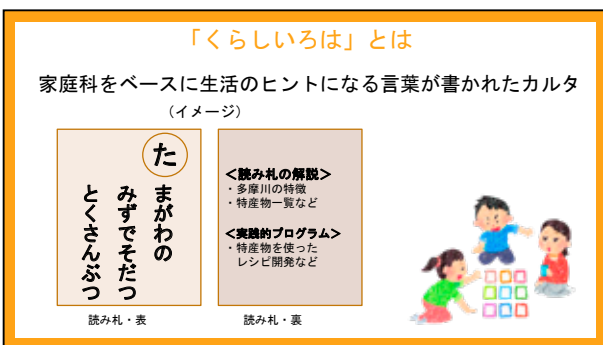
28



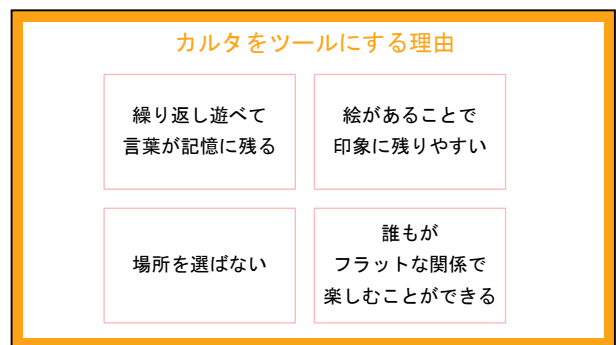
29



30



31



32

「くらしいろは」による効果
①自然と地域への愛着へ繋がる

持続可能性が高まる！！

読み札を基にした実践的プログラムが行える
カルタを介して企業・商店とコラボ

33

まとめ
「コミュニティカフェの持続可能性について」

提案 人と繋がる暮らしを楽しく創り出す場＝くらし工房

検証 ・地域におけるくらし工房の重要性
・持続可能性における問題再認識

展望 くらしコーディネーターを増やす → 「くらしいろは」の開発

人との繋がりを大切にできる温かいまち

34



35

審査委員のコメント

八王子商工会議所 会頭 田辺 隆一郎氏

実践女子大学の皆さん、本当にありがとうございました。テーマとしては、本当にこれから迎える時代の重要な事柄だと思っています。地域コミュニティというものがこれから果たす役割は本当に大きいと思います。その中で、中心的な位置づけになるだろうと思っているのがコミュニティカフェということだと思います。また、皆さんもそういうことで取り上げていただいたのだと思います。

私からあえて申し上げれば、こういうコミュニティの活動は、今後どう継続をして持続的に発展させていくのかがすごく大事な要素だと思います。プレゼンを聞いていると、持続していくための視点が少し弱いのかなと思います。地域社会を見ていますと、ボランティア活動が10年も20年も継続して発展しているグループや団体・キーになる人がいる。ここが非常に大事だと思っています。そういうことを含めて、もう少し研究してほしいなと思います。その持続している所を探してもらって、そのポイントをもう少し深掘りしていただくと厚みが出てくるのかなと思います。

今後、必要な事柄について取り上げていただいたことに敬意を表して、私からのお話にさせていただきます。ありがとうございました。

奨励賞 実践女子大学 チームトリプルC 「持続可能なコミュニティカフェの展開」

東京経済大学 山本ゼミ、東大和市班

奨励賞

ひがしやまとの食の今昔物語

～多摩の文化を味わい、知ろう!～



- ◆メンバー 有山諒、小池夏輝、輿石瑞希、清水雅也、西川諒、森屋拓也、飯窪里奈、高橋沙季
- ◆担当教員 山本聡

発表概要

本活動では、東大和市の粉食文化を用いて地域の愛着を向上させ定住意向を高める地域活性化活動を図ろうとした。その活動をPDCAサイクルに当てはめ、研究発表を行った。まず、東大和市の社会増減数が減少傾向にあると分かった。また、若い人ほど定住意向が低下しており、その理由の一つに東大和市への愛着を感じないことがあり、市民の愛着を高めることで定住意向につながる可能性があると考えた。上記の問題を解決するため、地域の歴史や文化といった物語性に着目し、東大和市の物語性を研究した。ヒアリング調査などの活動を進めると、昔ながらの郷土食である「さつまだんご」が失われつつあることや、現代の特産品である「ひがしやまと茶うどん」の売り上げが減少している等、歴史を背負った食が地域に浸透していないことが分かった。そこで、これらを用いて市の物語（歴史）を市民に知ってもらい、愛着形成につなげる「ひがしやまの食の今昔物語」を企画した。企画では、二回に及ぶ郷土料理調理体験と東大和市の情報発信施設での歴史、文化の展示会を行った。アンケートや観察データから東大和市の歴史や文化に興味を持てたという意見が多く得られた。また愛着が向上したという意見も得ることができた。来年度は再度時間をかけ、商工会、東大和観光ガイドなど市との関係を強化し活動をしていくことにする。

活動の目的

一昨年度、昨年度の東村山市の研究活動に対し東大和市商工会の方が興味を持って下さり、今年度は東大和市でも研究活動を実施することになった。まず、東大和市の課題として社会増減数が減少していることや、若い人ほど定住意向が低く、その理由の一つとして愛着がないためという意見があることが分かった。そこで、活動を実施するにあたり東大和市民にあまり知られていない郷土食である「さつまだんご」や特産品である「ひがしやまと茶うどん」などの粉食文化に着目した。また、歴史の満足度を高める物語性を取り入れ地域活性化活動を行う「ひがしやまの食の今昔物語」を企画した。具体的には、市民をターゲットとしてさつまだんご作りを行い、ひがしやまと茶うどんと地野菜を食べてもらったり、市に関する歴史クイズを行い、市に関する文化を認知してもらったりするイベントを企画した。そうすることで、市民の方が地域に関する歴史・文化を認知し愛着が向上し、定住意向を高めることに繋がると考えた。また、市役所や商工会、東大和観光ガイドの会と連携し、今後も同様のイベントを行い、愛着を持ってもらい定住意向が向上するように尽力する。

活動の内容・様子

「ひがしやまとの食の今昔物語」は、東大和市民の愛着を向上させるため、「ひがしやまと茶うどん」と「さつまだんご」を用いて、市の物語を共有するイベント企画である。第一弾では、調理体験や試食を行うことで市民に物語を体感してもらうイベントを企画した。さらに、観光ガイドの会と連携し作成した歴史クイズを行うことで、市の物語についてより深く知ってもらう。その際、イベント参加のきっかけづくりが必要であるという課題を発見した。そこで第二弾では、調理体験に加え、玉川上水駅前のふれあい広場との連携を行い、歴史・文化の展示会を開催することで課題を解決していった。イベントを通し、アンケートを取ることで効果を測定した。



活動の成果

アンケート結果から、今年度の企画を経て、地域の物語は愛着の向上に有効であるということが分かった。調理体験では、調理や試食を通し、より歴史や文化に興味を持ってもらうことができた。展示会では、気軽に参加してもらい調理体験に参加してもらうきっかけづくりを行うことができた。また、PDCAサイクルを回すことで課題を発見し、市内の組織と連携することで解決することができた。さらに、イベントを行うことで、参加者から多摩地域のうどん文化は北関東とも繋がりががあるといった意見が得られ、新たな地域間連携の可能性を見つけることができた。また、市の観光会議への参加も決まっており、今年度の研究の成果を報告予定である。



参考文献

- [1] 内堀輝志 (1995) 『多摩湖の村』
- [2] 織田直文 (2009) 『文化政策と臨地まちづくり』
- [3] 窪田愛実・羽鳥剛史 (2015) 『地域の物語との協和性認知と住民協働事業への参画に関する研究』
- [4] 小金井市・東村山市・清瀬市・東久留米市・東大和市 (昭和50年) 『多摩の歴史2』
- [5] 国土交通省総合政策局・関東運輸局・北陸信越運輸局 農林水産省農村振興局
- [6] 園田美保 (2002) 『住区への愛着に関する文献研究』
- [7] 「多摩湖の歴史」編集委員会 (1980) 『多摩湖の歴史』
- [8] 安田亘宏 (2010) 『食旅と観光のまちづくり』
- [9] 渡邊勉 (2006) 『地域に対する肯定観の規定因—愛着度、住みやすさ、地域イメージに関する分析—』
- [10] 「さつまだんご」『日本の食べ物用語辞典』 (<http://japan-word.com/satsuma-dango>)
- [11] 「地方部における地域コミュニティの衰退」『国土交通省』 (<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h17/hakusho/h18/html/H1022100.html>)
- [12] 東京都市町村地図『都道府県市町村シンボル』 (<http://expo.minnade.jp/tokyou.htm>)
- [13] 東大和市 (2016) 『統計東やまと』 (<http://www.city.higashiyamato.lg.jp/index.cfm/36,80414,c,html/80414/20170822-144634.pdf>)
- [14] 東大和市 (2017) 『東大和市ブランド・プロモーション指針』 (<http://www.city.higashiyamato.lg.jp/index.cfm/36,76625,c,html/76625/20170605-145659.pdf>)
- [15] 東大和市 (2017) 『年齢別人口統計表』 (<http://www.city.higashiyamato.lg.jp/index.cfm/36,75520,c,html/75520/20170404-162917.pdf>)
- [16] 東大和市商工会 (2010) 『東大和ってこんなところ』 (http://e-yamato.or.jp/yamatoji/images/yamatoji_city.pdf)
- [17] 「武蔵野うどん」『うどん百科事典』 (<http://udon.mu/musashino>)

担当教員まとめ

本研究は、過年度のプロジェクトが契機になって、東大和商工会からお声がけを頂いたことで、始まりました。ゼミ生は東大和茶うどんを皮切りに、東大和市の食文化や歴史を掘り起こした上で、独自の地域活性化に関する提言を行い、それを実証するためのイベント開催を繰り返しました。山本聡ゼミのポリシーでもある「地道な研究活動の継続」を理解し、PDCAサイクルを回しながら、一年間に渡り実践してくれたと考えています。教員の指導の下、ゼミ生は東大和商工会、東大和市役所、観光ガイドの会、地元企業、市民団体へのヒアリングを何度も繰り返しました。イベントは調理体験や展示会など、複数のコンセプトで、年度中に三回実施しました。本研究では集客活動に試行錯誤し、傾注した結果、一般市民の方々、数十人に参加して頂きました。この点が、ゼミとして、過年度より最も成長した部分だと言えるでしょう。加えて、イベント終了時には必ずアンケートを実施し、参加者の声をフィードバックもしています。一連の活動の結果、山本聡ゼミでは東大和市の観光会議にも参画することになり、次年度のプロジェクトの礎も構築できました。本研究活動は教員のサポートだけで成しえるものではなく、外部の様々な方々から大変なご支援を賜っています。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

ひがしやまとの食の今昔物語

～多摩の文化を味わい、知ろう！～

東京経済大学・東大和市班

三年 奥石小池
清水 西川 森屋 有山
二年 飯窪 高橋

1

発表の流れ

- 活動目的
- 現状分析・問題意識
- 研究・調査
- 今昔物語
- まとめ・今後の展望

2

活動目的

今までの山本聡ゼミ
東村山市で「酒蔵」、「水」
を活用した地域貢献活動

多摩の学生まちづくりコンペティション
2015 優秀賞受賞
2016 優秀賞受賞

3

活動目的

受賞をきっかけに、
東大和市商工会の方が
私たちの活動に興味を
持ってくれた

4

東大和市商工会からお話をいただく

今年度→「東大和市」

人口85,857人（平成29年度4月現在）
多摩湖に面しており、
豊かな自然が残る一方で、
都心の近郊住宅地として発展している

5

東大和市商工会からお話をいただく

今年度→「東大和市」

東大和市商工会開発
「ひがしやまと茶うどん」
を使った“地域活性化活動”

「東京狭山茶」+「武蔵野うどん」

6

東大和市の現状分析

社会増減数

人口減少

地域衰退を
防ぐ必要がある

7

原因の一つ

定住意向

「住み続けたいと思わない」と回答した12.1%の方々の

- 住み続けたいと思わない理由
- 1位「通勤・通学に不便だから」(19.6%)
- 2位「愛着を感じないから」(15.2%)
- 市民の地域への愛着の高まりが定住意向につながる可能性がある

8

原因の一つ

定住意向

「住み続けたいと思わない」「答えた12.1%の方々の
●住み続けたいと思わない理由
1. 経済的なことから」

地域への愛着形成は地域衰退を防ぐ
愛着を向上させるべき

の高まりが
性がある

出典：東大和市（2017）『東大和市プラン
東大和市民意識調査報告書（平成28年）』（モーション指針）

活動目的 現状分析・問題意識 研究・調査 今昔物語 まとめ・今後の展望 9

9

問題意識

東大和市民の市への愛着を
向上させるためには
どうすればいいか

活動目的 現状分析・問題意識 研究・調査 今昔物語 まとめ・今後の展望 10

10

地域への愛着の定義

「愛着度とは、**地域への好感度**であり、
感情的、感覚的な意識である」
滝道（2006）

「個人と住環境との間の
肯定的で感情的な絆もしくはつながり」
園田（2002）『住区への愛着に関する文献研究』より、Shumaker & Taylor（1983）の定義

出典：滝道（2006）『地域に対する肯定的規定因—愛着度、住みやすさ、地域イメージに関する分析—』
園田（2002）『住区への愛着に関する文献研究』

活動目的 現状分析・問題意識 研究・調査 今昔物語 まとめ・今後の展望 11

11

物語性の効果

物語性 → 愛着

＝歴史・由来・
伝説・ストーリー
満足度を高める、差別化の
ポイント
安田（2010）

場所の記憶を地域で共有することによって、
地域への愛着が高まる
松村、坂田、栗田、榎田、平井（2011）
物語によって地域愛着が醸成する効果がある
宮川、谷口、石田（2014）

出典：窪田愛葉・羽鳥剛史（2015）『地域の物語との協和性認知
と住民協働事業への参加に関する研究』
安田昌宏（2010）『食旅と観光のまちづくり』

活動目的 現状分析・問題意識 研究・調査 今昔物語 まとめ・今後の展望 12

12

実態調査

日	調査先
5月19日	商工会・小嶋園ヒアリング 中央図書館での資料探し
5月24日	多摩信用金庫ヒアリング
5月26日	東大和市郷土資料館 中央図書館での資料探し
6月16日	商工会ヒアリング
6月21日	小嶋園ヒアリング
6月30日	観光ガイドの会、市役所ヒアリング 中央図書館での資料探し
8月16日	商工会、観光ガイドの会、市役所 ヒアリング

活動目的 現状分析・問題意識 研究・調査 今昔物語 まとめ・今後の展望 13

13

東大和市の歴史（農業・生活）

江戸
・やせた土地であったため、小麦の栽培が中心
・幕府は多摩の農家に茶栽培をすすめる

明治
・多摩湖建設決定、湖底の住民は農地を失う
・新たな農業として茶栽培を開始、畑の周りに茶を植える

大正
・多摩湖建設開始
・小麦に加え、茶、さつまいもの生産が盛んになる

昭和
・徐々に都市化

平成
・粉食文化を反映させた茶うどん開発

出典：小嶋園（2017/05/19）ヒアリングより、小金井市・豊科山市・清瀬市・東久留米市・東大和市（昭和50年）『多摩の歴史2』明文社、東大和市
東大和商工会（2010）『東大和ってこんなところ』

活動目的 現状分析・問題意識 研究・調査 今昔物語 まとめ・今後の展望 14

14

東大和市一帯の食文化（多摩湖建設以前の資料）

- 米だけの飯をふんだんに食べられる人はいなかった
- 日常食べるのは**麦めし、ひきわり飯**
- 「もの日」や人寄せには**うどん**
- 茶摘みや人寄せの時に、**さつまだんご**をつくる
- 主食を補い、副食にもなる**煮だんご（ずいどん）**・**ゆでまんじゅう**・**やきもち**・**だんご汁**などをつくった

「粉食文化」が根付いている

出典：東大和多摩湖湖底埋め立て調査委員会（1980）『多摩湖の歴史 湖底の遺跡と村の発展』東大和町教育委員会
内藤輝志（1995）『多摩湖の村』選書社

活動目的 現状分析・問題意識 研究・調査 今昔物語 まとめ・今後の展望 15

15

東大和市一帯の郷土食

さつまだんご
さつまいもを粉にしたものに水を加え練り蒸かしたものを
東大和市民にもあまり知られていない（ヒアリングより）

「失われつつある郷土食」

武蔵野うどん
東京都多摩地域と埼玉県西部に伝わるコシの強いうどん

出典：「さつまだんご」『日本の食文化物語』『産物野郎』『うどん百科事典』
小嶋園（2017/06/21）『観光ガイドの会（2017/06/30）ヒアリングより』

活動目的 現状分析・問題意識 研究・調査 今昔物語 まとめ・今後の展望 16

16

東大和市の地域資源の一つ
「ひがしやまと茶うどん」
 【東大和市の名産品】 **「東京狭山茶」**
 +
 【多摩の郷土食】 **「武蔵野うどん」**
**東大和市の食文化や、農業の歴史の
 集大成となる地域資源**

東大和市商工会 (2017/05/19)、小嶋園 (2017/06/21) ヒアリングより

活動目的 > 現状分析・問題意識 > **研究・調査** > 今昔物語 > まとめ・今後の展望 **17**

17

東大和市の地域資源の一つ
「ひがしやまと茶うどん」

**売上げが減少している
 →市内に浸透していない**

H25 H26 H27

東大和市商工会 (2017/05/19)、小嶋園 (2017/06/21) ヒアリングより

活動目的 > 現状分析・問題意識 > **研究・調査** > 今昔物語 > まとめ・今後の展望 **18**

18

昔 さつまだんごは、市の食文化・歴史の
 象徴の一つ“失われつつある郷土食”

今 ひがしやまと茶うどんは、
 市の食文化・歴史の集大成

**“粉食文化”という物語を
 伝えるツールとなる**

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 **19**

19

提案

**ひがしやまとの
 食の今昔物語**

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 **20**

20

**“東大和市の物語”を
 市の食を通して伝え、
 愛着形成に繋げるプロジェクト**

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 **21**

21

2つの企画

参加してもら
 きっかけ作り

2回に及ぶ
郷土料理調理体験
 (9月と11月)

ふれあい広場
展示会
 (11月)

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 **22**

22

地方の食文化を活用した活性化

独自性
 多摩地域・ベッドタウンでは
 ほとんど行われていない
 ↓
多摩地域で行おう

埼玉県川越市「よう! 鹿が」
 埼玉県川越市「うまからべ調製勝負!」

出典: 『川越 水文化
 『鹿が調製勝負』
 (2016) 『コミュニティビジネス事例集』、『富士観光ネット』『富士の国やまなし』

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 **23**

23

連携団体

第一回
 イベント
 企画

集客面

さつまだんご
 歴史・文化

展示会

商工会	市役所	観光ガイドの会	ふれあい広場
・5月19日 ・6月16日 ・6月30日 ・8月9日 ・8月16日 ・8月23日 ・9月1日 7回 +メール・ 電話の やりとり	・6月30日 ・7月20日 ・8月9日 ・8月16日 ・8月23日 ・9月1日 12回 +メール・ 電話の やりとり	・6月30日 ・8月9日 ・8月16日 ・8月23日 4回 +メール・ 電話の やりとり	・10月5日 ・10月18日 ・11月9日 ・11月17日 4回 +メール・ 電話の やりとり

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 **24**

24

連環図

Plan
Do
Check
Action

第一回 イベント 企画

商工

5月19日
6月16日
8月9日
8月16日
9月23日
9月30日

展示会

5い広場

4回
+メール・電話のやりとり

活動目的 現状分析・問題意識 研究・調査 今昔物語 まとめ・今後の展望 25

25

企画書

Plan

第1回 郷土料理調理体験

【目的】市の郷土食の調理・試食を通して市の物語を知ってもらい、東大和市への愛着形成を目指す

【内容】郷土料理調理体験（さつまだんご、茶うどん）
歴史クイズ

【場所】東大和市中央公民館

【日時】9月2日 12:00～

【対象】東大和市民

活動目的 現状分析・問題意識 研究・調査 今昔物語 26

26

準備

Plan

さつまだんごを美味しく食べる方法を探す

8月23日
地元の方と試作

フルーツポンチ

活動目的 現状分析・問題意識 研究・調査 今昔物語 27

27

集客

Plan

- Twitter・Facebook・HPへ掲載
- 市の掲示板へポスター掲示
- 市の施設にチラシ配置

しかし・・・

効果が見られなかった

活動目的 現状分析・問題意識 研究・調査 今昔物語 28

28

集客

Plan

直接市民とお話をして、手渡してチラシを配布すべき

効果が見られなかった

活動目的 現状分析・問題意識 研究・調査 今昔物語 29

29

集客

Plan

- 商店街や公民館でチラシ配布
- 東大和市の観光キャラクターであるうまえとと共に集客

集客人数 26人
大人だけでなく小さいお子さんも来てくれた

活動目的 現状分析・問題意識 研究・調査 今昔物語 30

30

郷土料理調理体験

Do

9月2日 土曜日
12:00～
来場者数：26人

① 商工会開発 「ひがしやまと茶うどん」作り
地場野菜（人参やネギ）を使用

② 市の郷土料理 「さつまだんご」作り
新しい食べ方フルーツポンチ提案

活動目的 現状分析・問題意識 研究・調査 今昔物語 31

31

郷土料理調理体験

Do

9月2日 土曜日
12:00～
来場者数：26人

③ 観光ガイドの会と作成 「市の歴史クイズ」

④ 参加者全員で記念撮影

活動目的 現状分析・問題意識 研究・調査 今昔物語 32

32

アンケートデータによる検証

Check

【歴史・文化に好感が持てたか】

【お餅しずやと茶うどんとさつまだんごを食べているか】

【さつまだんごを食べているか】

【茶うどんとさつまだんごの両方を食べているか】

【お餅しずやは美味しいか】

【茶うどんとさつまだんごは美味しいか】

【お餅しずやは食べたいか】

【茶うどんとさつまだんごは食べたいか】

n = 21

好感が持てた
95%

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 33

33

テキストデータ

Check

初めて食べた茶うどんとさつまだんごだったけど、とてもおいしかったという意見が得られた。
(東大和市在住、11歳男の子)

観察データ

イベント計画段階において、この様な活動を市もやるべきという意見が得られた。
(東大和市民民グループ、観光ガイドの会)

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 34

34

第1回 郷土料理調理体験 振り返り

Check

検証結果

郷土料理体験は、物語に好感を持ってもらう手段として有効

しかし・・・

イベント参加のきっかけづくりが必要と痛感

改善点を踏まえ、再度行おう！

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 35

35

困難に直面

Action

11月は、市の行事が多くあり商工会も市役所も忙しい
商工会との連携は、来年度時間をかけ再度行う

開催したいが、市民でない公民館が借りられない！
郷土料理体験イベントの開催場所の確保

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 36

36

打開策

Action

東京経済大学
武蔵村山キャンパス
「郷土料理調理体験」開催

東大和市駅からバスと電車で15分程の距離
東大和市民の方も参加しやすい！

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 37

37

もう1つの企画立案

Action

東大和市の市民グループの方にお伺い
東大和市ふれあい広場
(地域の情報発信施設)
での企画を考案

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 38

38

もう1つの企画立案

Action

東大和市の市民グループの方にお伺い
東大和市ふれあい広場
(地域の情報発信施設)

目的：気軽に参加でき、歴史について知れるイベントを企画する

人が多く集まる駅近くでの「食の歴史・文化展示会」

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 39

39

企画書 ふれあい広場展示会

Plan

【目的】気軽に歴史を知っていただく

【内容】

- 歴史・文化についてのパネル展示
- さつまだんごについての説明、実物の展示
- 調理体験イベントへの勧誘
- アンケート調査

【場所】東大和市ふれあい広場
【日時】11月23日(木)祝日 12:30~14:00
【対象】東大和市民

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 40

40

展示会 11月23日木曜日(祝日)
12:30~
来場者数: 10人

Do



さつまだんごについての説明、実物の展示

歴史・文化についてのパネル展示

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 41


41

展示会

郷土料理調理体験イベントの宣伝活動

展示会で市の歴史・文化に興味を持って下さった方に直接声掛け

Do



活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 42

42

企画書

第2回 郷土料理調理体験

Plan

【目的】市の郷土食の調理・試食を通して市の物語を知ってもらい、東大和市への愛着形成を目指す

【内容】郷土料理調理体験 さつまだんご ひがしやまと茶うどん


【場所】東京経済大学武蔵村山キャンパス研修ハウス一階調理室

【日時】11月28日(火) 18:00~19:30

【参加費】500円

【定員】7名

【対象】東大和市民



活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 43

43

集客

郷土料理体験イベント前日や当日にもふれあい広場でチラシ配り

Do



活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 44

44

郷土料理調理体験 11月28日火曜日
18:00~
来場者: 5人

Do



歴史を語り共有
新たな発見も
歴史を継承する場となる

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 45

45

アンケートデータによる検証

n = 12

【ひがしやまと茶うどんを知っていたか】
知らない 0%、知っている 100%

【さつまだんごを知っていたか】
知らない 83%、知っている 17%

【市の食文化・歴史を知っていたか】
知らない 75%、知っている 25%

【歴史・文化に興味を持っていたか】
興味ない 83%、興味ある 17%

0% - 【市への愛着が向上したか】
向上した 33%
少し向上した 0%
どちらとも異なる 0%
あまり向上しなかった 0%
全く向上しなかった 67%

愛着向上した 60%

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 46

46

テキストデータ

東大和の食材に興味を持ち、孫にも伝えたいという意見が得られた。
(展示会イベント来場、東大和市、68歳女性)

観察データ

文化のことを若い世代にも伝え、文化を継承すべきという意見が得られた。
(展示会来場、福生市在住、50代女性)

Check

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 47

47

今年度のプロジェクトを終えて

Check

- 地域の物語は愛着向上に有効であると検証できた。
- 学生にとって無理のない費用でイベントを行うことができた。

展示会 気軽に参加してもらい歴史や文化に興味を持ってもらうことが出来た。

調理体験 調理や試食といった体験をすることで、より歴史や文化に興味を持ってもらうことが出来た。

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > **今昔物語** > まとめ・今後の展望 48

48

今後の展望

参加者のある方から多摩地域のうどん文化は、北関東ともつながりがあるとの話を聞いた。



- 物語をさらに探めることができる可能性
- 地域間連携の可能性 (餅屋職とのつながりを発見)

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > 今昔物語 > まとめ・今後の展望 49

49

今後の展望

- 来年度、再度時間をかけ商工会と連携をとる
- 12月14日に行われた 東大和市観光事業プラットフォーム運営会議 (観光事業による市の産業振興を目的とした会議) に参加
1月18日・2月15日にも参加
本年度のプロジェクトの成果を報告予定

協力依頼

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > 今昔物語 > まとめ・今後の展望 50

50

今後の展望

- 来年度、再度時間をかけ商工会と連携をとる

会議の参加者：
東大和観光ガイドの会・商工会
JA・地元企業

市との関係性を強化

協力依頼

活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > 今昔物語 > まとめ・今後の展望 51

51

私たちの学びと成長



活動目的 > 現状分析・問題意識 > 研究・調査 > 今昔物語 > まとめ・今後の展望 52

52

参考文献

- 内堀輝志 (1995) 『多摩湖の村』
- 磯田直文 (2009) 『文化政策と臨地まちづくり』
- 窪田愛実・羽鳥剛史 (2015) 『地域の物語との協同性認知と住民協働事業への参画に関する研究』
- 小金井市・東村山市・清瀬市・東久留米市・東大和市 (昭和50年) 『多摩の歴史2』
- 国土交通省総合政策局・関東運輸局・北陸信越運輸局 農林水産省農村振興局
- 園田美保 (2002) 『住区への愛着に関する文献研究』
- 『多摩湖の歴史』編集委員会 (1980) 『多摩湖の歴史』安田巨宏 (2010) 『食旅と観光のまちづくり』
- 渡邊勉 (2006) 『地域に対する肯定観の規定因—愛着度、住みやすさ、地域イメージに関する分析—』

53

53

参考文献

- 「地方部における地域コミュニティの衰退」『国土交通省』 (<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h17/hakusho/h18/html/H1022100.html>) (閲覧日2017/08/04)
- 「さつまだんご」『日本の食べ物用語辞典』 (<http://japan-word.com/satsuma-dango>) (閲覧日2017/08/04)
- 東京都市町村地図『都道府県市町村シンボル』 (<http://expo.minnade.jp/tokyou.htm>) (閲覧日2017/08/07)
- 東大和市 (2017) 『年齢別人口統計表』 (<http://www.city.higashiyamato.lg.jp/index.cfm/36,75520,c.html/75520/20170404-162917.pdf>) (閲覧日2017/07/03)
- 東大和市 (2017) 『東大和市ブランド・プロモーション指針』 (<http://www.city.higashiyamato.lg.jp/index.cfm/36,76625,c.html/76625/20170605-145659.pdf>) (閲覧日2017/07/21)
- 東大和市商工会 (2010) 『東大和ってこんなところ』 (http://e-yamato.or.jp/yamatoji/images/yamatoji_city.pdf) (閲覧日2017/08/02)
- 東大和市 (2016) 『統計東やまと』 (<http://www.city.higashiyamato.lg.jp/index.cfm/36,80414,c.html/80414/20170822-144634.pdf>) (閲覧日2017/06/29)
- 「武蔵野うどん」『うどん百科事典』 (<http://udon.mu/musashino>) (閲覧日2017/07/06)

54

54

愛は地道に、着実に
ご清聴ありがとうございました

東京経済大学 山本聡ゼミナール 東大和市班

55

55

審査委員からのコメント

株式会社キャリア・マム 代表取締役 堤 香苗氏

皆さん、お疲れさまでした。山本ゼミの東大和市班ですけれども、前提条件を立てていく上で、フィールドワークを考えてみることで見えてくる解決方法はあると思います。先程、長島さんもおっしゃられましたけれども、やはりこれまでの実績の上に作っていくときに、非常にこれまでの物を大切にされてきたなど。その継続性の意味で、一人一人が継続していくことは、大学を出てしまえば終わりという物理的な難しさがあり、そこで先生がバトンを渡していかれているということがひとつ財産となって、東京経済大学が信頼される場所につながっているのではないかと思います。ぜひ来年度以降も頑張ってくださいと思います。

全体のことでは、今日一番感じたことですが、「チームのプレゼンテーション」が本当に下手だなと。なぜかという、先に西浦審査委員長がおっしゃっていただきましたが、皆さん、「話す」のではなく、今日は「プレゼンテーション」です。プレゼンテーションの「プレ」の一部分は、まだ存在していないものをお届けするということですから、「話す」のではなく、「伝え」なければいけない、心を込めて伝えていかなければいけないのです。少し残念なのは、あまりに練習をし過ぎてしまい、「ここまでは僕がしゃべるよ」「私がしゃべるね」ということで、「話す」ことに終始してしまったところがあったいなかったです。話し手以外のチームの人が全然動かないで立っているというチームが多かったです。

チームでプレゼンテーションをするのであれば、他のメンバーは、「うん、うん」って、うなずいています。先日終わりました学生の社会人基礎力コンテストのときにも、やっぱり上位の学校は「うん、うん」って、すごくうなずいています。「そうなんです」という感じで一瞬促している。残念ながら今回の上位にならなかったチームは、チームプレゼンがすごくもったいなかったなと思います。今回、50点中、プレゼンテーションが10点です。ぜひ次年度以降、先生のほうも「チームプレゼン」であるということに対してのアドバイスをいただけますと良いものが出てくると思います。チームのメンバーが一生懸命しゃべっているときには、「みんな聞いてくれよ」「そうなんだよ」「私たちが言っていることが本当なんだ」「こういうことが分かったんだ」というような形で前に押し出して伝えていくというプレゼンテーションをしていただければと思います。

6チームの皆さん、本当にお疲れさまでした。いいプレゼンテーションだったと思います。ありがとうございました。

立川をより魅力的にするためにららぽーと 立川立飛がとるべき戦略

アンケート・ワークショップが示す処方箋



- ◆メンバー 下河邊行央、菅野誠一郎、高村勇佑、植松寛、照屋克樹、松井愛
- ◆担当教員 細野助博

発表概要

ららぽーと立川立飛をより魅力的にするための戦略提言を発表した。

立川は多摩地域において極めて重要な役割を担うが、まちとしての回遊性が低いという大きな課題を抱えている。立川にこれまでない郊外型施設であるららぽーと立川立飛を有効活用することで駅前型商業施設との相乗効果を生み、立川に新たなにぎわいを創出することができる。

ららぽーとの抱える問題を明らかにするためにアンケート調査結果をもとに現状を分析する。その結果、購買力が高い高年齢層がテナントに強い不満を抱き、テナントへの満足度の高い若年層の購買力が低いことが課題である。そこで、この2つの層がともに来店し、若年層のために買い物をするを目標とする。このような消費の形を「デレデレ消費」と定義する。そのためには、自動車利用の促進と子連れ環境の充実、さらに来店目的の強化が喫緊の課題である。

最後に、学生とららぽーと立川立飛関係者の方々を交えて行ったワークショップの結果を活かした課題解決のための政策を提言した。具体的には、シニアとキッズ向けのファッションショーである「立川グランドコレクション (TGC)」である。提言の効果としては、TGCを目的とした来店を見込めるのと同時にキッズ向けを中心とした消費の拡大が見込まれる。また、このTGCはららぽーとの魅力を発信する機会となり、ららぽーとへの来客者、さらには立川への来街者を増やすことができる。

活動の目的

本研究は、立川地域に新たに誕生したららぽーと立川立飛にスポットライトを当て、立川地域の魅力の向上、そして活性化に繋げることを目的とする。立川は業務核都市として発展しており、多摩地域において極めて重要である。しかし、立川は大きな課題を抱えている。それは、来街目的の中心である商業が他の行動目的と結びついていないこと、すなわち、まちとしての回遊性がないことである。

そのような状況下で、2015年12月10日にららぽーと立川立飛が開業し、立川市に新たな魅力的スポットが誕生した。ららぽーとは立川にこれまでない郊外型施設であり、これを効果的に活用することで駅前型商業施設を補うことができると考え、活動を開始した。

本研究では来店者への2回のアンケート調査を含め、地理統計システムや統計解析を援用しながら、ららぽーと立川立飛が立川地域の魅力向上のためにどのような役割を果たせるか、さらにそのためにはどのような戦略をとるべきかを示す。

立川市の魅力向上に向けた研究は、本ゼミナールでの長年のテーマである。新たなプロジェクトとしては、連携団体の協力のもと、立川地域のアーリー立川立飛に関する研究を進めている。その中では、本研究の対象であるららぽーと立川立飛との連携に向けた方策も模索しており、今後も立川地域の活性化のための研究を継続することを考えている。

活動の内容・様子

本報告で用いたデータの多くは、ゼミ生が行ったららぽーと立川立飛におけるアンケート調査とその統計的分析から明らかになったものである。また、アンケートに際しては単に調査用紙を配布し、回答者に記入してもらっただけでなく質問内容やそれに関連したコミュニケーションをとることを大切にされた。これにより、アンケートの○×には表れない地域の方々の思いをくみ取れたと考えている。また、ワークショップにおいては三井不動産株式会社・株式会社立飛ホールディングスなど第一線で働く方々・多摩未来奨学生・細野研究室ゼミ生が参加した。様々な立場の「目」で立川の商業、またその中でららぽーとが果たすべき役割についてアイデアを出し合った。



活動の成果

本ゼミで行ったアンケートとその分析結果については、ワークショップに参加していただいた三井不動産の方から「実際に自分たちが認識している現場の課題がデータによって裏付けられ、参考になった」とのお言葉をいただいた。また、前年度に発表した報告書において問題点として指摘した課題が、実際に改善されたケースも存在する。さらに、アンケートとワークショップについては、日本経済新聞や読売新聞に取り上げていただいた。大学周辺地域に根差した活動にスポットライトが当たったことで、学生の取り組みが地域にもたらす効果への注目度の高さを改めて感じさせられた。



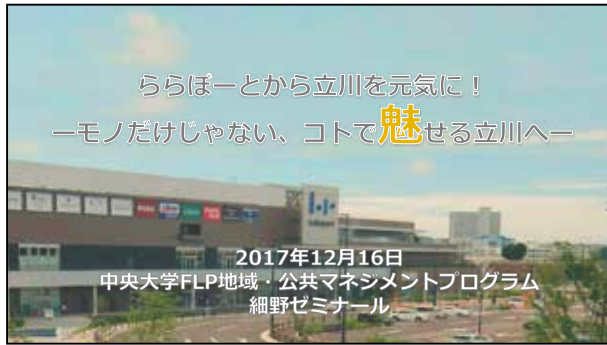
参考文献

- [1] 岩崎邦彦 (1999) 『都市とリージョナル・マーケティング-都市小売業と消費者行動の空間分析-』中央経済社
- [2] ジョン・マクミラン (瀧澤弘和・木村友二訳) (2007) 『市場を創る—バザールからネット取引まで』NTT出版
- [3] 杉原淳一・染原睦美 (2017) 『誰がアパレルを殺すのか』日経BP社
- [4] 日本ショッピングセンター協会SC経営士会編 (2013年) 『SC経営士が語る新ショッピングセンター論—未来のSCを見すえて—』織研新聞社
- [5] バコ・アンダーヒル (鈴木主税訳) (2004) 『なぜ人はショッピングモールが好きなのか』日経BP社
- [6] 細野助博 (2013) 『まちづくりのスマート革命—主張する‘まち’だけが生き残る』時事通信社
- [7] 湯川尚之 (2009) 「大規模ショッピングセンターが周辺居住者に及ぼす外部効果の地理学的分析—浜松市郊の市野SCの場合」『経済地理学年報』55(2), 121–136
- [8] 吉野伸 (2014) 『公式と実例で学ぶ街づくり』大成出版社
- [9] Michael D. Beyard (1985) Shopping Center Development Handbook, Urban Land Institute
- [10] 日本ショッピングセンター協会 (2014) 「ショッピングセンターの地域貢献ガイドライン<改訂版>」
<http://www.jcsc.or.jp/wpjcs/wp-content/uploads/2015/10/guideline2014.pdf> (2017年5月1日取得)

担当教員まとめ

多摩地域の扇のかなめの位置にある立川は、「交流人口増加」にウエイトを置いたまちづくりを展開している。しかしその商圈面積は、八王子に比較しても意外に狭い。駅前の商業集積とモノレールで2駅近く離れるところに位置するIKEAやららぽーとなどの大型商業施設との連結がうまく図れていないことも要因の一つといえよう。また、消費構造が「モノ消費からコト消費」に転換したこと、首都圏を代表する新宿へのアクセスが大幅に向上していることも考慮すべきだろう。さらに、ららぽーと自身も業績の向上を目指して各種の戦略を練ってはいるが、道路網などの社会インフラの未整備や行政との調整のつまずきなどでスタート時点から苦戦を強いられたことも指摘しなければならない。

以上の事情を勘案した上で、「立川の交流人口増加」に寄与する大型商業施設として、この構造物と付随する運営方式をどのように方向転換してゆくかを、「奇想天外の思いつき」を重視する単なる学生のお遊びではなく、実務家たちとの協議通じて、そのアイデアの検証と実装を目指し、提言案を「学生たちが自力で」作成した。したがって、担当教員としては、「まちづくり・モノづくりコンペ」に対して学術上一定の水準を確保することの重要性をガイドラインとして示すことができたことで、本選まで勝ち残れたことにゼミ生の頑張りに誇りと満足感を覚える。



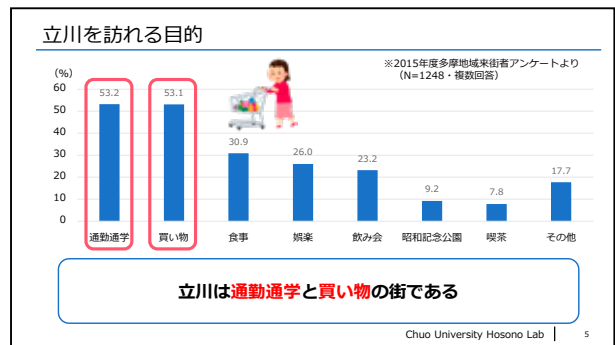
1



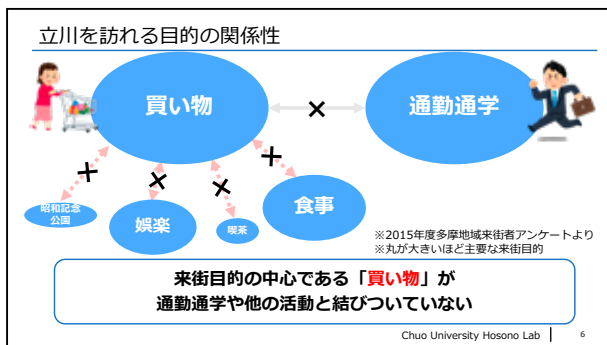
2



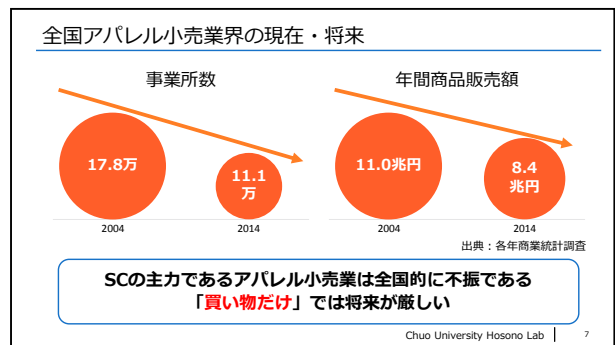
3



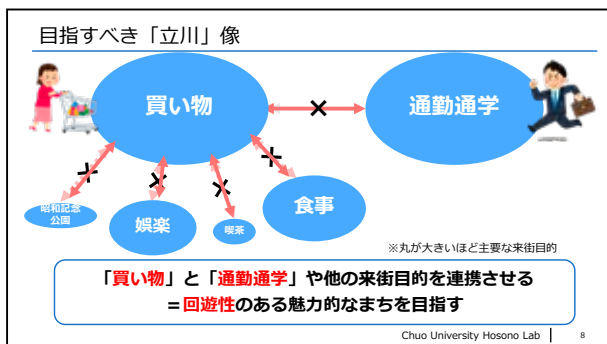
4



5



6



7

- 目次
- 立川商業の現状と課題
 - ららぽーと立川立飛の役割と現状
 - ららぽーと立川立飛の課題
 - 提言 ー立川商業の発展のためにー

8

ららぽーと立川立飛のオープン

2015年12月開業

Chuo University Hosono Lab | 10

9

ららぽーとは立川商業の起爆剤！になるはずだった

ららぽーと立川立飛の成功が新たな来街者を増やすなど立川地域の活性化に不可欠

Chuo University Hosono Lab | 11

10

立川大規模小売店舗の現状

2016年度 営業面積あたり売上高 (百万円/m²)

店舗名	営業面積あたり売上高 (百万円/m ²)
ららぽーと立川立飛	~45
ルミネ立川	~145
伊勢丹立川	~95
高島屋立川	~85

出典：地研新聞、日経MJ

営業面積あたりの売上高は低く、効果的な対策が必要である

Chuo University Hosono Lab | 12

11

目次

1. 立川商業の現状と課題
2. ららぽーと立川立飛の役割と現状
3. ららぽーと立川立飛の課題
4. 提言 - 立川商業の発展のために -

Chuo University Hosono Lab | 13

12

ららぽーととその周辺環境

ららぽーと立川立飛はドライブ商圏が狭く、他店と差別化できる魅力が必要

Chuo University Hosono Lab | 14

13

おすすめ度👍の向上のためには…？

満足度向上

- ・テナント
- ・子連れ環境
- ・駐車場

※2016年度ららぽーと立川立飛来店者へのアンケート結果より (N=1434)

テナント、子連れ環境、駐車場の満足度向上が必要

Chuo University Hosono Lab | 15

14

テナント満足度

※2016年度ららぽーと立川立飛来店者へのアンケート結果より分散分析 (N=1434)

購買力の高い年代ほど、テナント満足度が低いことが課題

Chuo University Hosono Lab | 16

15

子連れ環境満足度

イオンモールむさし村山

- 3か所
- 無料の遊び場の不足

ららぽーと立川立飛

- 2か所 (屋外のみ)
- 3か所
- 子どもトイレの不足
- 1か所

子どもが楽しめ、家族も安心して過ごせるような環境が必要


Chuo University Hosono Lab | 17

16

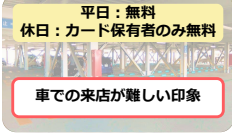
駐車場満足度

ION イオンモールむさし村山 ららぽーと立川立飛

終日無料



平日：無料
休日：カード保有者のみ無料



車で来店が難しい印象

駐車場には無料化やインセンティブが必要

Chuo University Hosono Lab | 18

17

目次

1. 立川商業の現状と課題
2. ららぽーと立川立飛の役割と現状
3. ららぽーと立川立飛の課題
- 4. 提言 ー立川商業の発展のためにー**

Chuo University Hosono Lab | 19

18


政策提言の方向性と報告書の発表



Chuo University Hosono Lab | 19

19

政策提言の方向性と報告書の発表




デレデレ消費

+

政策の方向性

- 子連れ環境の充実
- 自動車利用促進



Chuo University Hosono Lab | 21

20

報告書発表後の変化





◇玩具売場の新設 ◇エントランスの芝生化 ◇屋外1Fに遊具を新設

子ども向けテナントや
子どもを安心して遊ばせられる空間の充実

Chuo University Hosono Lab | 22

21


「デレデレ消費」実現のためのアイデア出し

三井不動産
6名

立飛HD
9名

細野研究室
24名

多摩未来
奨学生2名



ワークショップ

来店の目的・きっかけとなるソフト面の取り組みで
ららぽーとの持つポテンシャルを最大限に発揮する

Chuo University Hosono Lab | 23

22

政策提言：シニア×キッズ向けファッションショー

Tachikawa Grand Collection



◇ターゲット
Grandparents (シニア)
×
Grandchildren (キッズ)

Chuo University Hosono Lab | 24

23

TGC (立川グランドコレクション) とは

イベント概要

シニアとキッズが
プロによるスタイリングで
ランウェイを歩く

・年2回(春夏・秋冬)開催
・シニア30人・キッズ30人・ヘア20組


参加概要

先着順
参加料：シニア 5000円
キッズ 5000円
※ヘア部門 8000円

衣装

ららぽーと内テナントによる提供
外部人気ブランドによる提供


会場




ららぽーと1Fテラリウム沿い通路

特典

衣装をプレゼント





Chuo University Hosono Lab | 25

24

応募者アンケートの活用法 と コーディネートの方法

応募時アンケート内容

- Q1: 希望するコーディネート
- Q2: ららぽーとに新たに欲しいブランド
- Q3: 参加への意気込み
- Q4: 孫(祖父母)へのメッセージ

ファッションショーへの活用

コーディネートへの活用

- ・応募者の意向に沿ったコーディネート (byプロのスタイリスト)

運営・演出への活用

- ・思いをくみ取ったMCトーク (byイベントMC)
- ・思いをくみ取った舞台演出 (by三井不動産)

Chuo University Hosono Lab | 26

25

同時開催のイベントも用意

「SNS映え」にも挑戦!??

記念撮影会
衣装を着て記念撮影
出演の思い出を記録に残す

文化的なイベント
来場者・国立音大の学生も参加のコンサート
ファッションをテーマにした本・美術市

健康づくりイベント
幅広い世代が楽しめる健康づくりイベントを開催

ららぽーと立川立飛内のフィットネスジムが主催

Chuo University Hosono Lab | 27

26

テナント側はいいことづくし!

提供する衣装を選ぶだけでOK
魅せるコーディネートはプロがやってくれます!

宣伝(運営)費を払うだけでOK
運営は運営担当のスタッフにお任せ!

テナントPR!
新規顧客の獲得!

Chuo University Hosono Lab | 28

27

戦略の全体像

運営: Lolaport, DRUMCAN, GARD COLLE

後援: 立川市, 多摩信用金庫

協賛: TACHIHU

運営 → 後援 → 協賛 → TGC開催

TGC開催 → 人気ブランド誘致 → 来店者・参加者

ブランド人気投票

Chuo University Hosono Lab | 29

28

TGCでみんながHappyに!

参加者

- ・プロのスタイリングで「ハレ」気分
- ・衣装プレゼント (実質75-90%オフ)
- ・祖父母と孫の思い出に!

テナント

- ・ブランド・商品認知度up
- ・シニア層へのPR
- ・キッズ向け消費の拡大

ららぽーと

- ・ファッションショー目的の来店 (約2000人)
- ・消費額増加 (約600万円)
- ・リピーターの増加

Chuo University Hosono Lab | 30

29

戦略の効果

Tachikawa Grand Collection

ららぽーとの来客増加

立川への来街者増加

相乗効果

祖父母と孫の消費促進 = テレテレ消費の実現

ららぽーと立川立飛や立川の魅力発信

立川の「にぎわい」創出

Chuo University Hosono Lab | 31

30

謝辞

- ・三井不動産株式会社
- ・三井不動産商業マネジメント株式会社
- ・株式会社立飛ホールディングス
- ・株式会社良品計画 無印良品・ららぽーと立川立飛
- ・立川市役所

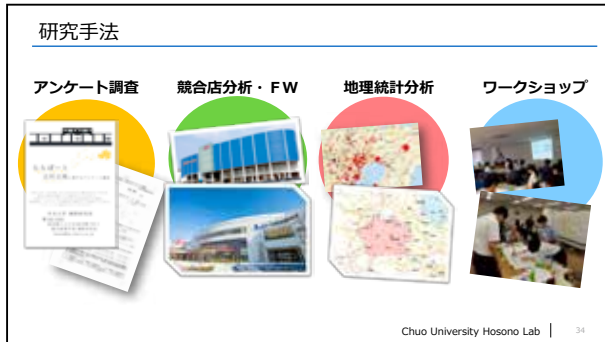
様々な方のご協力のおかげで政策提言が可能になりました

Chuo University Hosono Lab | 32

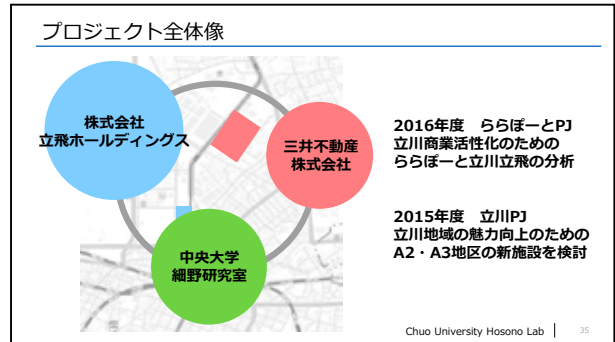
31



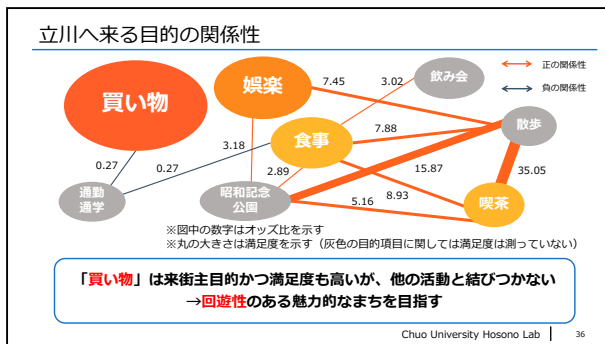
32



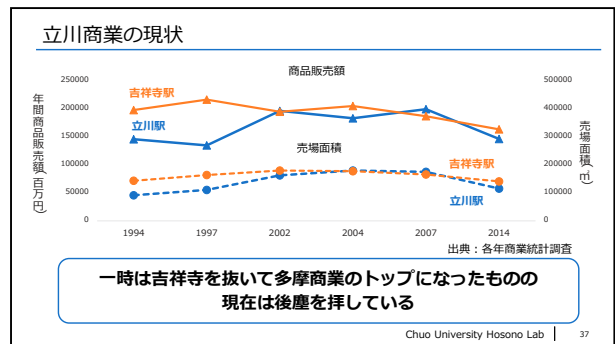
33



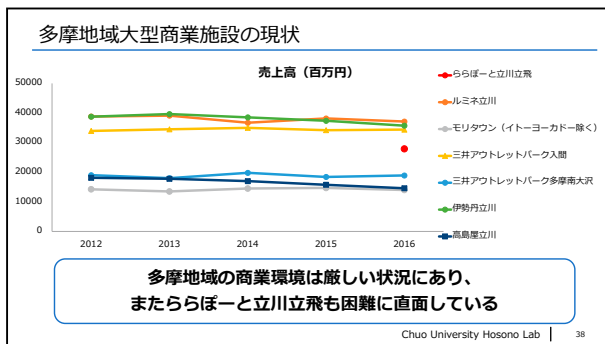
34



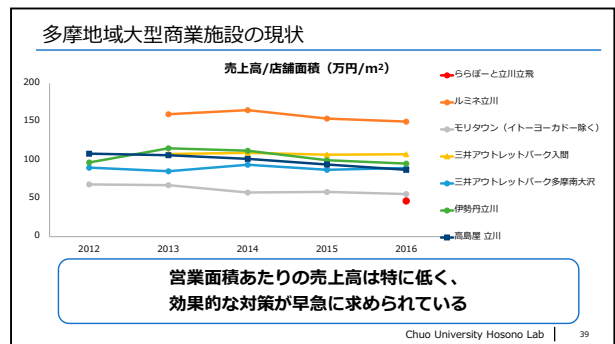
35



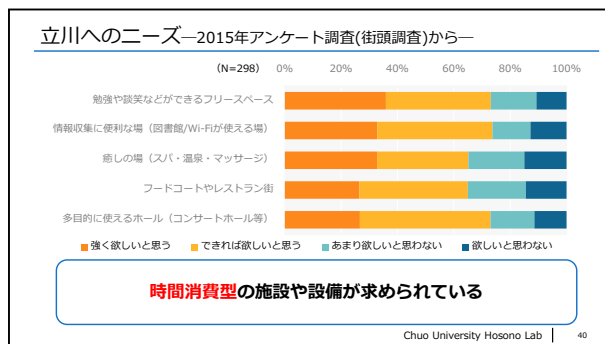
36



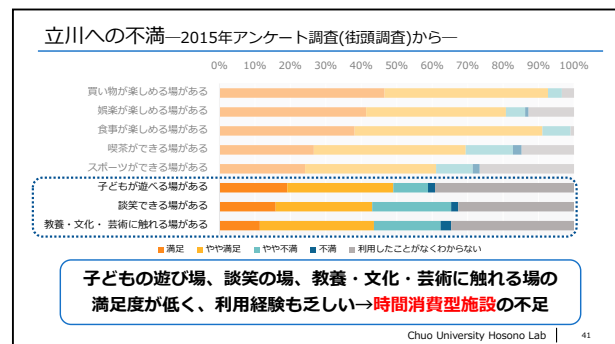
37



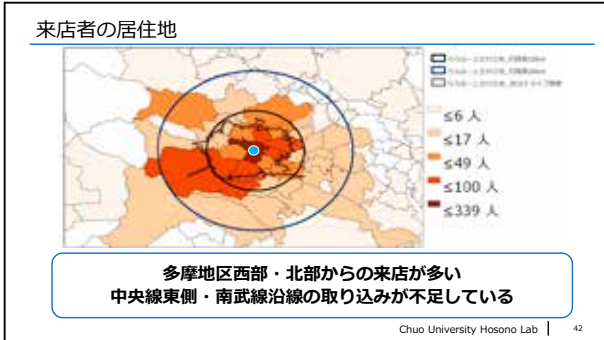
38



39



40



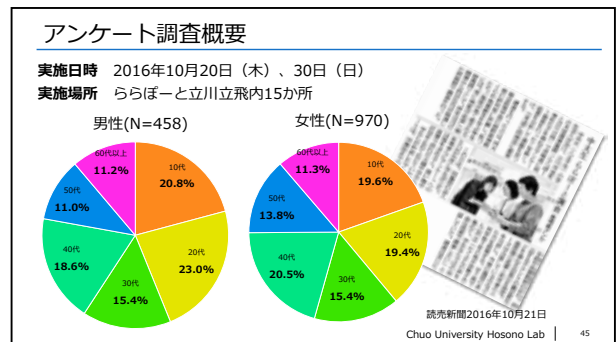
41



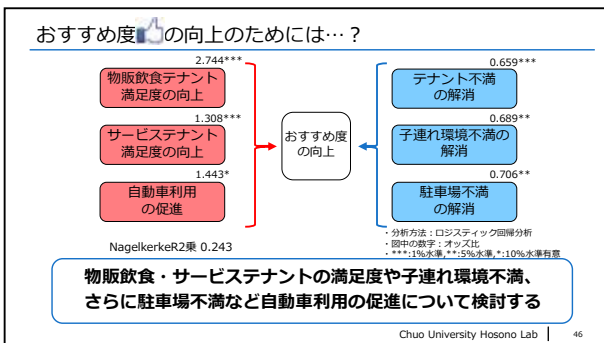
42



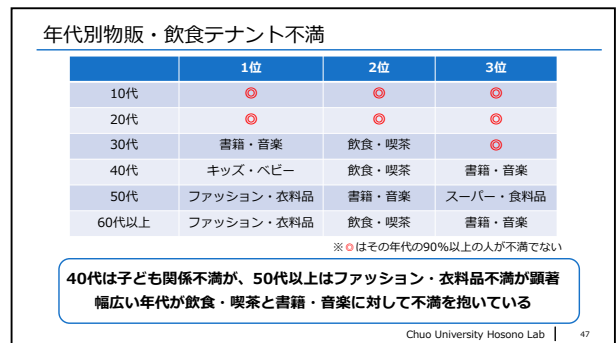
43



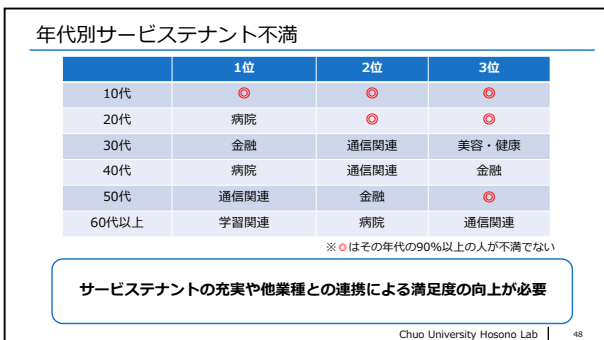
44



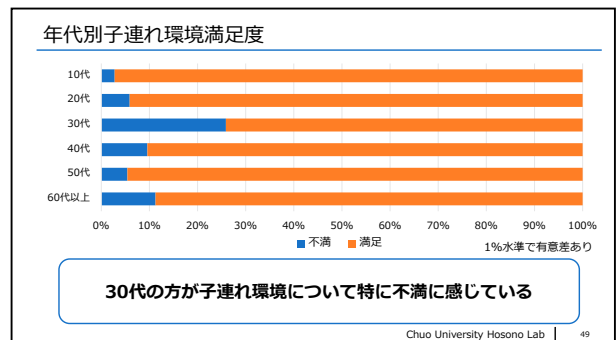
45



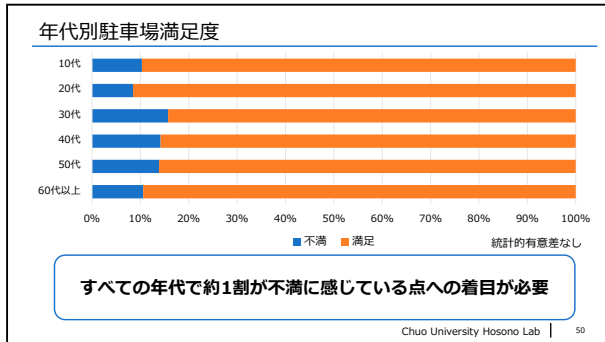
46



47



48



49

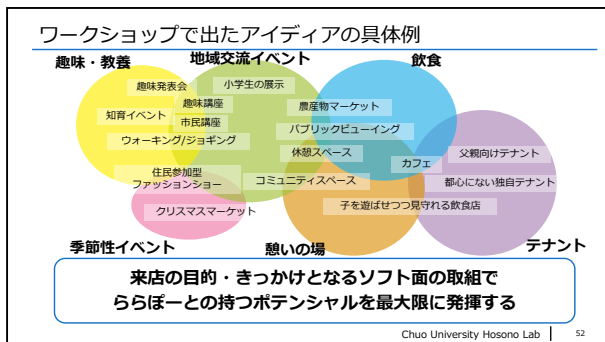
自動車利用のマイナスイメージ醸成

- ・道路渋滞対策が「まだまだ心配だ」 (2015年9月清水市長)
- ・「お客様にはできるだけ公共交通をご利用してもらいます」 (2015年10月三井不動産施設発表会)
- ・「駐車場待ちの車で周辺の道路が駐車場化してしまう」 (2015年10月市議会環境建設委員会)
- ・「南北の道路網整備が完了前なので(交通渋滞の)心配があるが、そのほかはわくわくしている。」 (2015年12月11日清水市長)

自動車で来店するのは難しいというイメージが醸成された

Chuo University Hosono Lab | 51

50



51

成功事例：シニア向けファッションショー

成功事例：ガモコレ (東京都豊島区巣鴨)

- ・モデル平均年齢が65歳以上のファッションショー
- ・2012年の開催を皮切りに全国展開 (15回以上開催中)
- ・出演料：女性15,000円、男性7,500円 (第8回)
- ・プロによるウォーキング指導やスタイリング
- ・毎回約70人が出演、2~300人を動員

出典：<http://www.ones-plan.com/gamocolle/outline.html>

Chuo University Hosono Lab | 53

52

成功事例：キッズ向けファッションショー

成功事例：TOKYO TOP KIDS COLLECTION

- ・国内最大級のキッズ・ジュニア向けファッションショー
- ・2007年から毎年開催
- ・指定店舗で5,400円以上購入でエントリー権
- ・出演者：130人ほど (応募約1600人)
- ・MCはプロのモデルが務める

出典：<https://www.rakuten.ne.jp/gold/kidsonline/ttk2017/model.html>

Chuo University Hosono Lab | 54

53

SCでのキッズファッションショー開催状況・効果

施設名	開催年	参加条件	出演者数	参加特典
イオンモールレイクタウン店	2015	自由応募のうえ選考	4人	無料撮影会
イオン秋田中央店	2017	自由応募のうえ選考	12人	・1万円相当のファッションコーディネート ・応募者全員にお菓子 ・上位入賞者に景品
イオン多摩平の森店	2017	対象店舗で購入した服でコーディネート	30人	
イオンモール木更津店	2017	店内対象店舗で購入した服でコーディネート	10人	写真撮影
ららぽーとEXPOCITY	2017	対象店舗で3000円以上の購入で応募後、書類選考	100人	雑誌にモデル出演

**2010年代に入りSCでキッズファッションショーが盛んに！
祖父母+孫での出演で差別化を図る**

Chuo University Hosono Lab | 55

54

ららぽーと立川立飛内のシニア向けブランド

雑誌で数回登場したブランド

男性誌は「(LEON)」「GG」
女性誌は「ニッセイ」「HERS」を参照 (すべて12月号)

ららぽーと立川立飛内にあるシニアも着られそうなブランド

男性
★THE NORCE FACE
★ジャーナルスタンダード レリューム
★バナナリパブリック
★ユニクロ
★無印良品

女性
★IMPRESSION ATSUKO TAYAMA
★KEIKO SUZUKI COLLECTION
★KEIKO KISHI by nosh
★ユナイテッドアローズ
★ナノユニバース
★ジミーチュウ

女性
★ジャーナルスタンダード レリューム
★ユニクロ
★ユナイテッドアローズ
★無印良品

ららぽーと内のシニア層もターゲットとしたテナントの参加を促すと同時に、新テナントの誘致も行う

Chuo University Hosono Lab | 56

55

ブランド人気投票と活用方法

人気ブランド投票

活用方法

販促戦略に活用

ららぽーとにない人気ブランドを誘致

気に入ったコーディネートに観客が投票

Chuo University Hosono Lab | 57

56

観客動員数予測

出演層	名称	出演者数 (人)	観客動員数 (人)	出演者1人当たり観客動員数 (人)
シニア	第1回ガモコレ「集鴨コレクション(春・夏)」	10	80	8.0
	第2回ガモコレ「集鴨コレクション(秋・冬)」	17	160	9.4
	第1回ガモコレ イン 会津若松+大塚(夏)	21	150	7.1
	第3回ガモコレ「集鴨コレクション(秋・冬)」	27	200	7.4
	第1回ガモコレ イン 銀座(春・夏)	25	230	9.2
キッズ	東京トップキッズコレクション2011	130	2500	19.2
	東京トップキッズコレクション2016	130	4000	30.8

主演者シニア1人で約7~9人、キッズ1人で約20~30人の観客動員見込み→出演者100人のTGCでは約2000人を予測

Chuo University Hosono Lab | 58

57

TGCの収支予測

支出		小計	収入		小計
人件費	989380		運営	300000	
衣装費	1300000		協賛	600000	
演出費	330620		テナント協賛	1410000	
広報費	150000		参加者	460000	
会場費	0			0	
支出合計	2770000		収入合計	2770000	

収支±0円

約600万円の消費

Chuo University Hosono Lab | 59

58

実現可能性

LaLaport Girls Fashion Festa

- ・2016年9月16日~9月25日
- ・ららぽーと立川立飛
- ・東京ガールズコレクション

出演モデルによるファッションショー



東京ガールズコレクション運営団体との連携実績を活かし、シニア+キッズの一般モデルを対象とすることで差別化

Chuo University Hosono Lab | 60

59

審査委員のコメント

国営昭和記念公園管理センター管理センター長 堀田 昭男氏

皆さん、本当にお疲れさまでした。通常の私どもの仕事では聞くことができない新鮮な気持ちで聞くことができました。私は中央大学の講評ということですが、現状の分析から課題、そして解説の仕方も非常に論理的に考証されていて内容・技術力というのは最高レベルだと思います。非常に素晴らしい内容でした。また、祖父母の世代と孫というのに着目し、これは絶対にお金がかかりますので、この辺が非常にいいなと感じています。ただ、「ららぽーと」に限定したところが少し僕は引っ掛かっていて、立川全体ということであれば、もう少し他の店舗のコメントも聞いてみてもよかったのではないかと感じています。昭和記念公園も「ららぽーと」ともいろいろとイベント行っていますし、駅前の施設とも企画をしております。それぞれの思いがありますので、全体を網羅的にやっていただければいいと思いました。また、田辺会頭の方からも、「モノからコト」ということで、イベントがこの一回だけで終わってしまうのではなく、継続性がある何かにしていただければ、もっと素晴らしいもの、皆さんがいなくても勝手に動いていくようなものができればよりいいのではないかと思います。本当に皆さん真面目にやっているなど。プレゼンに失敗して涙流している方もいらっしゃいましたので、皆さんの真剣さには本当に感服しています。ありがとうございました。

多摩の学生まちづくりコンペティション2017 報告書

発行日 2018年1月31日

発行 公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩

〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1 明星大学20号館 6階

TEL 042-591-8540 FAX 042-591-8831

E-mail office@nw-tama.jp